

公庫レポート

◇人口減少時代における沖縄観光のあり方

第一部 需要編～Z世代が観光地に求める
経験価値とは～

第二部 沖縄旅行者の「旅先でのスポット
ワーク」の可能性について



沖縄振興開発金融公庫

THE OKINAWA DEVELOPMENT FINANCE CORPORATION

－人口減少時代における沖縄観光のあり方－

第一部 需要編 ～Z世代が観光地に求める経験価値とは～

－目次－

第1章 調査要領.....	1
1. 背景および目的	1
2. 調査内容	1
第2章 調査要旨.....	2
第3章 課題の再整理と現状分析（既存資料より）	4
1. 前回調査（公庫レポート第179号）の課題の再整理	4
2. 国内および沖縄観光の現状.....	6
3. 近年の修学旅行の動向	10
4. 短期・単発の就労形態に対する意識.....	11
5. Z世代のライフスタイルや旅行に関する価値観・求められる経験価値	13
第4章 Z世代を対象としたWebアンケート調査	14
1. 調査概要	14
2. 調査結果	15
(1) 修学旅行での経験とその経験が及ぼす影響.....	15
(2) Z世代が重視する経験価値.....	29
(3) Z世代の旅行先における短期・単発の就労形態の活用意向.....	34
第5章 まとめ	41
1. 前回調査における課題認識.....	41
2. 今回の調査で明らかになったこと	41
3. 現状と課題を踏まえた沖縄に求められる取り組みの考察	42
【参考資料】インターネット調査 設問	44

第二部 沖縄旅行者の「旅先でのスポットワーク」の可能性について

－ 目 次 －

第1章 調査要領.....	57
1. 本報告の概要・ねらい.....	57
2. アンケート調査の概要.....	57
第2章 アンケート調査からみる事業者側と観光客側の意向	58
1. 事業者アンケート.....	58
2. 旅行意向者向けアンケート	60
第3章 事業者ヒアリング、スポットワークに関する先行調査.....	63
第4章 まとめ ―スポットワーク活用の可能性―	66
1. スポットワーク活用の可能性	66
2. 活用例	67

第一部

第一部 －人口減少時代における沖縄観光のあり方・需要編－ ～Z世代が観光地に求める経験価値とは～

第1章 調査要領

1. 背景および目的

令和3年度に実施した「ポストコロナ時代における沖縄観光のあり方に関する調査～これからの“旅行牽引世代”の意向を踏まえた観光（観光地）とは～」（公庫レポート第179号）では、「車離れが旅行牽引世代の沖縄旅行意向の低下を招いている」、「沖縄に行かない理由が「遠い」「交通費が高い」こと」、「旅行経験が修学旅行のみの場合再訪意向が低い傾向にある」等の結果が出ていた。このうち、車離れや二次交通の課題については、令和4年度に「ポストコロナ時代における沖縄観光の二次交通に関する調査」（公庫レポート第183号）を実施したが、交通以外の課題に関する深掘り調査も必要である。

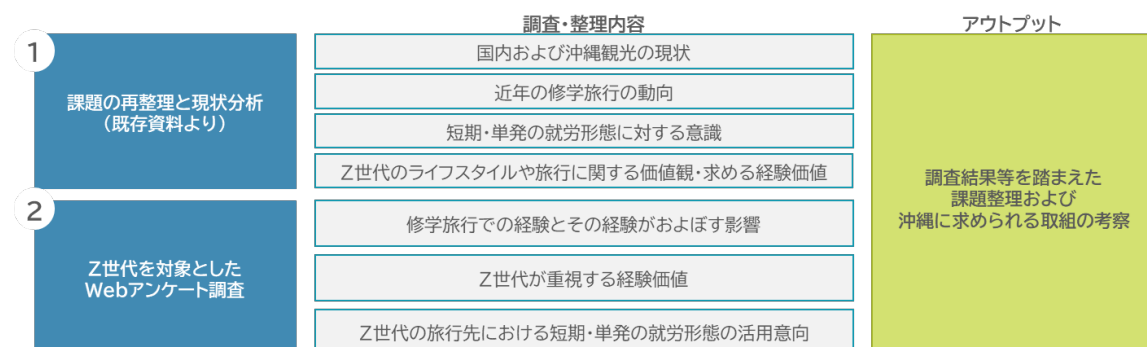
令和7年版観光白書では、観光庁の調査で「20代は他の年代と比べて、現地の人との交流や地域貢献等の旅行意欲が高い」との結果が出ているほか、民間調査機関の調査でも同様の結果が出ている。さらに、「リゾートバイト」「おてつたび」やスキマバイトの「タイミー」等、「旅先で働く・稼ぐ」ことで旅行費用を抑える若者も少なからず存在する。

本調査では、「地域交流」を行う修学旅行体験、あるいは「旅行先で働く・手伝うことによる、交通費や宿泊費の低減と地元との交流・地域貢献」といった旅行形態が、前回調査の課題となった「沖縄に行かない理由」の、「交通費が高い」や「旅行経験が修学旅行のみの場合再訪意向が低い」の解決策となり得るかを調査し、人口減少時代において、今後の旅行市場を牽引していくZ世代に選ばれる観光地であるために必要なことを提言することで、今後の沖縄観光施策への一助に資すること及び観光関連事業者へ情報発信を行うことを目的とする。

なお、本調査は公益財団法人日本交通公社に調査分析を委託した。

2. 調査内容

本調査は下記の内容から構成される。



第2章 調査要旨

調査研究の一環として実施した「Z世代を対象としたWebアンケート調査」の結果の要約と、その結果も踏まえて考察した沖縄に求められる取組は以下の通り。

調査結果等を踏まえた課題整理

・修学旅行は再来訪の原点、体験の質がカギ

- 修学旅行の満足度が高いほど、その後の興味関心の高まりや再来訪意向と強く結びついている。
- 修学旅行での体験では、民泊やガイドなど現地の人との交流は満足度が高く、再来訪意向につながる一方、戦跡訪問は体験の満足度を高める余地がある。
- 修学旅行は沖縄の楽しみ方を広げ、その後のプライベート旅行での活動範囲や選択肢の拡大に寄与している。

・王道観光、つながる旅等、様々な旅を志向

- 本調査回答者の約6割が地域との継続的なつながり（“つながる旅”・“帰る旅”）の意向がある。
- 一般的な観光を楽しみつつも、プライベートでの訪沖経験者ほど交流・貢献・暮らすような旅への意欲が高い。

・旅先での短期・単発就労が旅行を後押しする可能性

- 本調査回答者の45.8%が短期就労経験を持ち、18～24歳やプライベートでの訪沖経験者は旅先での就労意向が比較的高い。
- 旅費負担の軽減と空き時間の活用が動機となり、旅行を迷っている層の一部の背中を押す効果がある。実利に加え、社会貢献や自己成長も重視されている。

沖縄に求められる取り組み

○修学旅行を再来訪につなげる質的転換

- 施設等の見学にとどまらず、ストーリーテリングを取り入れる。昔話ではなく、今とどう繋がっているか、点ではなく線で理解するプログラムに磨き上げる。
- 民泊のように、地元の人との交流機会を積極的に組み込み、場所だけでなく人を再来訪の動機にする。ホテルにおいてもスタッフが印象に残る接客機会を強化し、人でファンを作る。
- 関心の高いマリンレジャーを、修学旅行で安全な入門編として提供し、将来の個人旅行の遊びの選択肢として定着させる。

○「選ばれる側」と同時に「選ぶ側」になるための、独自性の磨き上げと発信

- SNS や生成 AI で情報が得られる時代は、旅行者側の選択の自由度が高く、その時々欲求に合わせて、旅の濃度や関わり方を自由に選べるようになっている。このため、地域や事業者側も、AI 検索でヒットする「特定のニーズに応える独自性」を磨き上げ、それを発信することで、来てほしい層に選ばれる状態を目指す。
- 個々の事業者が独自性を持ち寄ることで、地域全体として「多彩なラインナップ」を構成し、多様化する旅行者の選択肢を最大化する。

○短期・単発就労をトリガーとした誘客

-「旅のパーツに組み込んだ賢い旅」、「関係人口への足がかり」へ-

- 経済的な理由で沖縄旅行を躊躇している層や、修学旅行のみで止まっている層に対し、リゾートバイトやスポットワーク等を、タイパ・コスパの良い賢い旅の手段として SNS 等で訴求し、来訪を後押しする。
- 就労体験を通じた、地域の人やコミュニティとの接点の提供、社会貢献や自己成長の機会の提供などを通じて、一過性の「交流人口(観光客)」から、継続的に地域に関わる「関係人口」への進化が期待される。

(担当：伊東 祥子)

第3章 課題の再整理と現状分析（既存資料より）

1. 前回調査（公庫レポート第179号）の課題の再整理

車離れや二次交通の課題を除き、前回調査において明らかになった課題を再整理した。本事業では、特に下線部の視点を取り上げる。

【沖縄に行かない理由は「遠い」「移動時間が長い」「交通費が高い」】

前回調査において、沖縄に行かない理由として、特にZ世代で「移動時間が長い」や「交通費が高い」を選択した割合が高かった。

この結果を受けて、公庫レポート第179号では、長い距離や移動時間、高額な交通費といった制約を越えて旅行牽引世代の来訪を促すため、移動時間が長く、また交通費が高くて、行きたくなるような魅力を磨き上げ、発信すること、飛行機での長時間の移動が大きな負担にならないような仕掛けをつくることを提言した。

【沖縄を訪れた経験が修学旅行のみの場合、再来訪意向が低い傾向がある】

前回調査では、観光レジャー目的での訪沖経験がある場合、Z世代では「具体的に沖縄への観光を計画している」が2割、「3年以内に行きたい」「いつか行きたい」も含めると約7割が訪沖意向を示した。一方で、訪沖経験が修学旅行のみの場合、Z世代では半数近くが「当分の間沖縄へ旅行することはない」と回答した。

この結果を受けて、修学旅行で訪れる旅行牽引世代に沖縄をより深く知ってもらい、一人でも多くリーダーとなってもらうため、地域に関する「主体的な探究」や「より濃密な交流」を通じて、沖縄を深く知り、さらに興味・関心を高めるために、修学旅行の内容を創意工夫すること、修学旅行における「体験学習」費用上限見直しの働きかけや、体験学習への補助金交付を行うことを提言した。

【マリンレジャー等のアクティビティへの関心や参加意向は高い一方で、マリンレジャー経験が少ないことから、旅行先や活動検討の際の動機や目的の選択肢として想起されない恐れがある】

旅行牽引世代のマリンレジャー経験は全般的に低く、もっとも高い「海水浴」も40歳以上と比べると低い。

この結果を受けて、旅行牽引世代に、マリンレジャーの経験を沖縄への旅行の動機づけとしてもらうため、修学旅行のプログラムにおいて「海に接する機会」を設定すること、マリンレジャーを“自分ごと”として捉えてもらうための情報発信を行うことを提言した。

【旅行牽引世代、特に Z 世代は Instagram と X（旧 Twitter）の利用率が高く、旅行の検索にも活用している】

特に Z 世代は、「家族や友人・知人に尋ねる」と「Instagram」、「X（旧 Twitter）」などの SNS の利用が 40 代以上より高い。

この結果を受けて、旅行牽引世代に訴求する情報発信を行うため、Instagram 等の旅行牽引世代で利用率の高い媒体を通じた情報発信の強化、および当該世代が魅力に感じる映像や手法の活用を提言した。

2. 国内および沖縄観光の現状

■ 国内観光

【国内観光市場の回復、市場の二極化の進行】

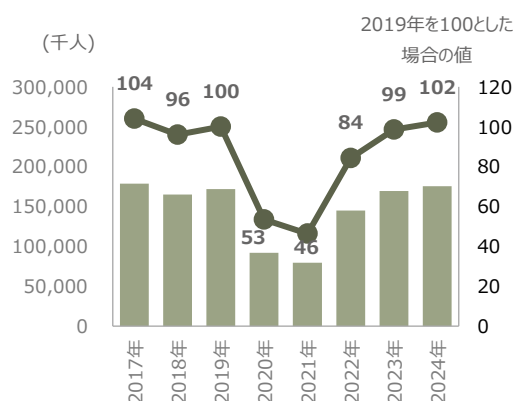
2024年の国内旅行者数は1.75億人回で前年比3.6%増、2019年比2.2%増であった。足元では回復基調にあるものの、中長期的なトレンドとしては2005年をピークに漸減傾向にある。

また、コロナ禍で半減した旅行経験率(※)は回復傾向にあるものの、日本人の国内宿泊観光旅行の実施率はコロナ禍以前から約5割で推移している。

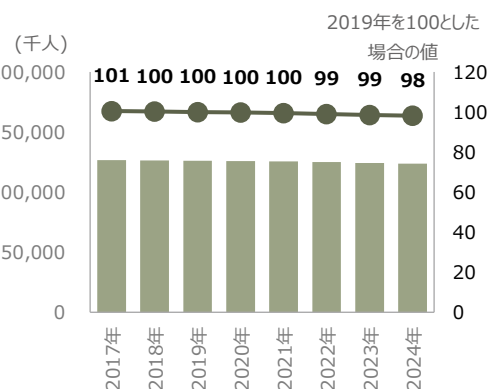
(※) 1年間に旅行を1回以上した人の、人口に占める割合

なお、旅行実施者の旅行回数は増加傾向にあり、市場全体としては「旅行に行く層」と「行かない層」の二極化が進んでいる。

国内宿泊観光延べ旅行者数

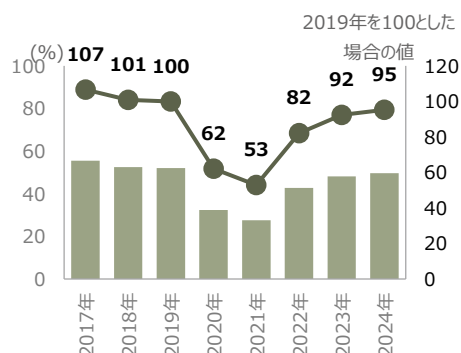


人口

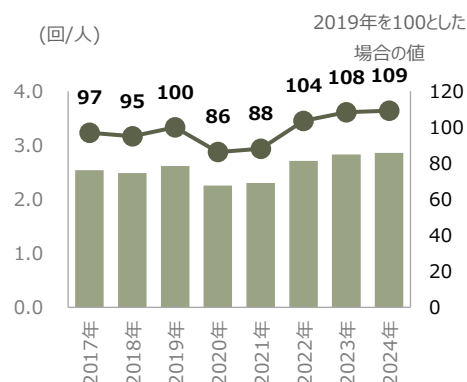


旅行経験率

(1年間に旅行を1回以上した人の人口に占める割合)



実施者の旅行平均回数

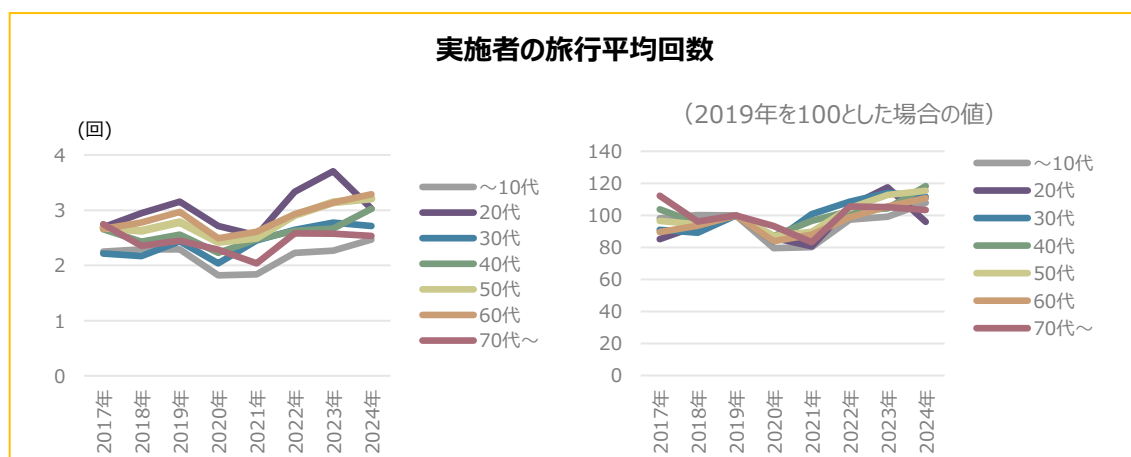
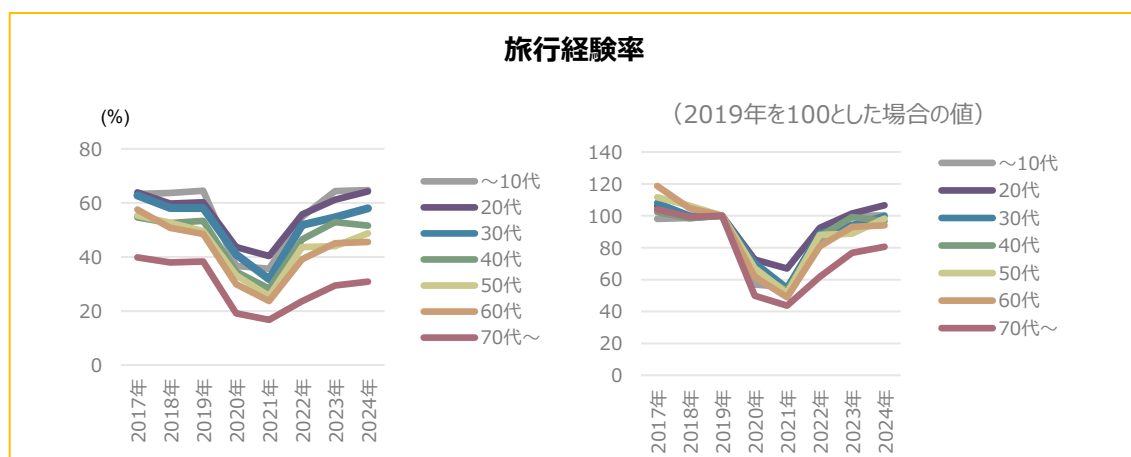
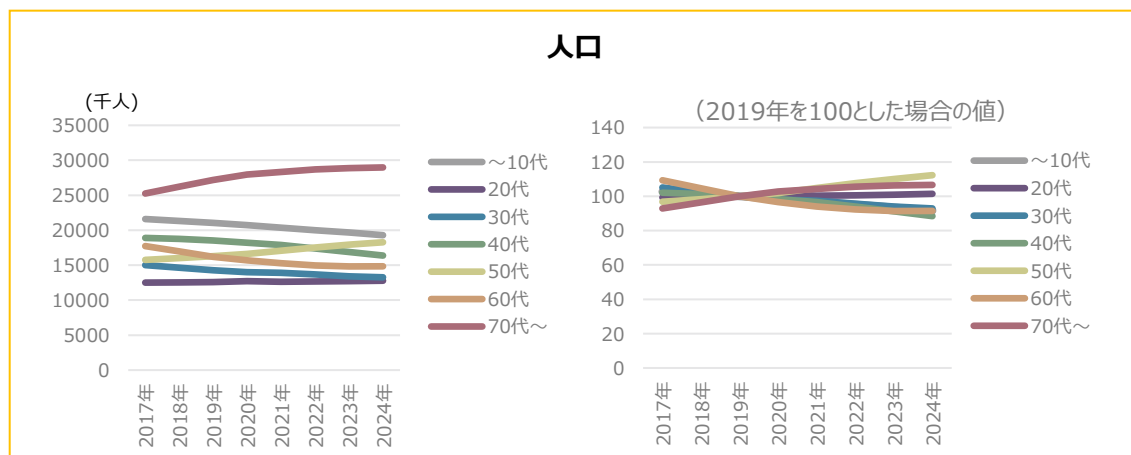


出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成

【20代は旅行市場全体を牽引する存在】

20代はコロナ禍においても旅行経験の落ち込み幅が少なく、市場を牽引する存在になっている。70代以上は未だ回復途中にある。

旅行実施者における旅行平均回数はいずれの年代もコロナ禍での落ち込みは小さい。なかでも20代の活発化が顕著であり、70代以上を含め、旅行に行く人はコロナ禍前よりも旅行回数を増やしている。



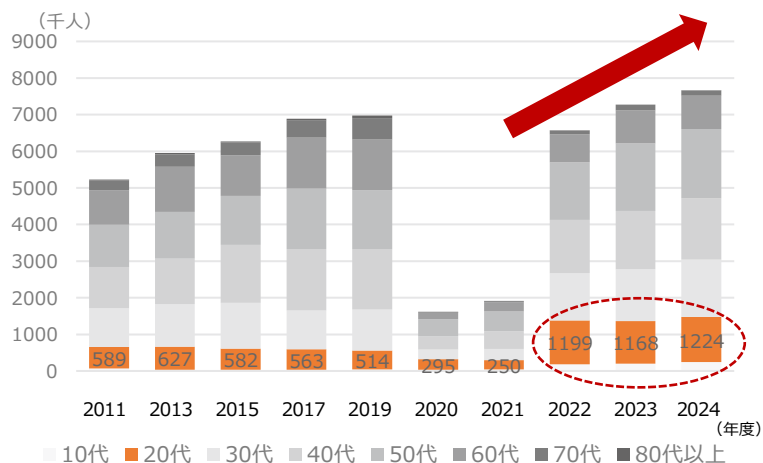
出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成

■ 沖縄観光

【訪沖観光客数の回復と20代旅行者の顕著な伸び】

沖縄を訪れる入域観光客数は、2023年度にコロナ禍以前（2019年度）を上回った。また、2022年以降、コロナ禍前と比べて20代の観光客数が増加している。

入域観光客数（県外客数）の推移（年代別）



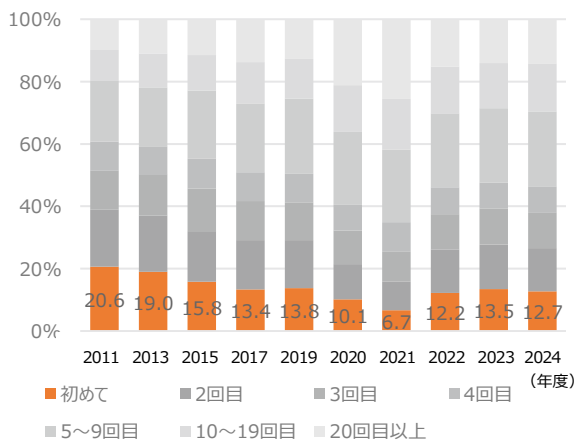
出典：沖縄県「観光統計実態調査」より作成

【新規旅行者の増加】

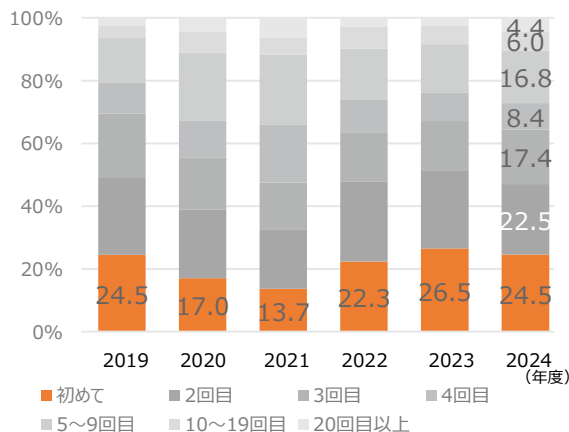
2024年度の訪沖観光客数のうち、初来訪者割合は1割強である。

コロナ禍以前から20代の初来訪者割合は前提と比べ高い傾向にあるが、コロナ禍以降もこの傾向が続く。また、コロナ禍以降、20代の訪沖人数が増加している中で、約1/4が初めて沖縄を訪れる人であり、新規来訪者が増えている。一方で、約3/4はリピーターが占めている。

訪沖経験者における訪沖回数の構成比



20代旅行者における訪沖回数の構成比



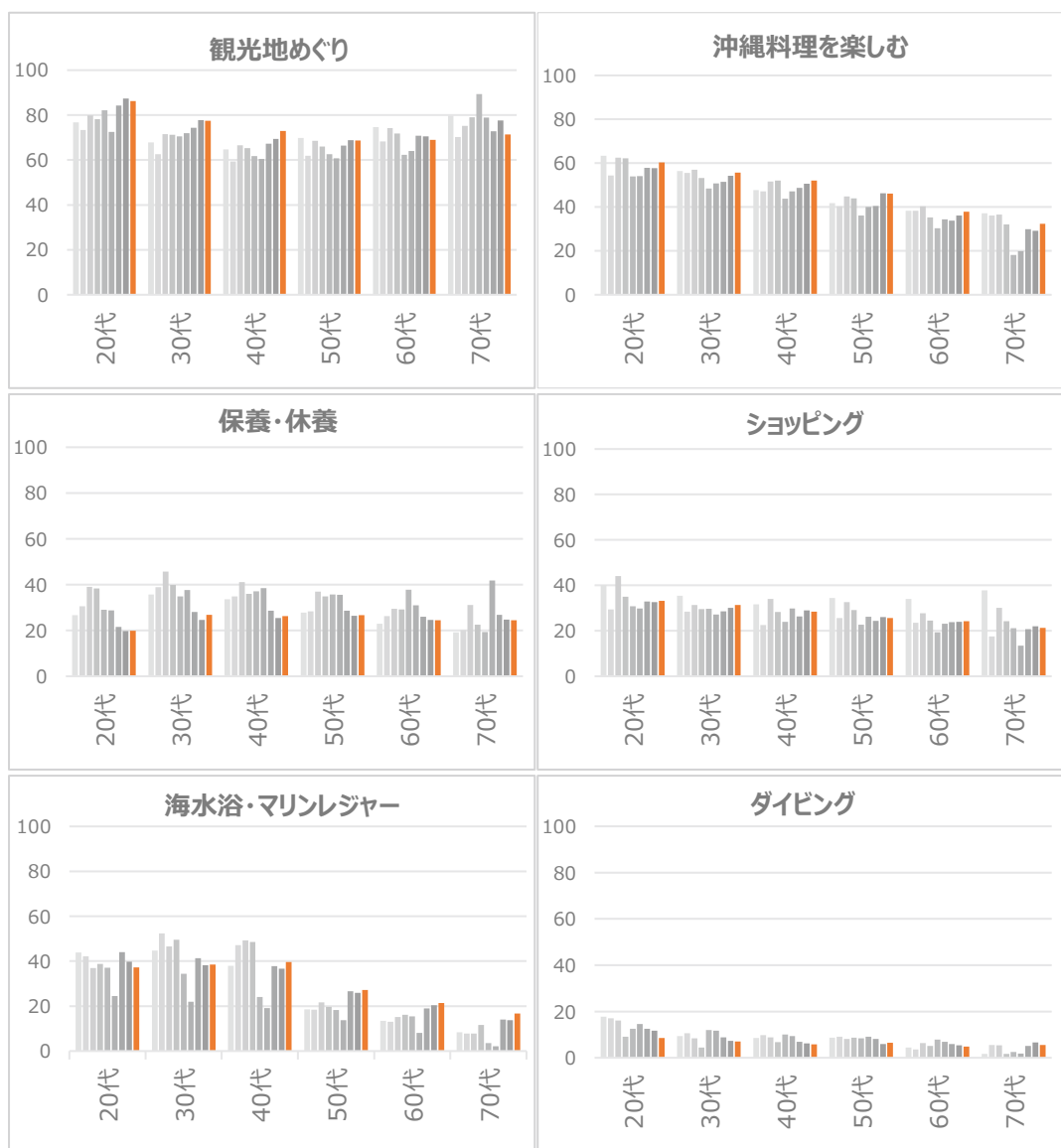
出典：沖縄県「観光統計実態調査」より作成

【20 代のダイビング実施率は減少傾向】

沖縄旅行中に行った活動として、「観光地めぐり」「沖縄料理を楽しむ」「ショッピング」「ダイビング」は他の年代と比較して、20 代の実施率が高い。しかし、20 代の海関連のアクティビティ（海水浴・ダイビング等）の実施率は近年減少傾向にある。

活動内容

2013 2015 2017 2019 2020 2021 2022 2023 2024



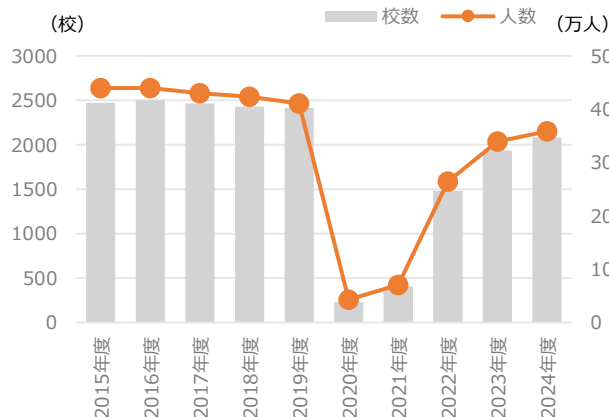
出典：沖縄県「観光統計実態調査」より作成

3. 近年の修学旅行の動向

【修学旅行の国内化と探究・地域連携】

中学校・高校の修学旅行の状況は、円安や旅行費用の高騰といった影響もあり、コロナ禍前に比べて国内を選ぶ割合がなお高い状況にある。沖縄も人数・校数ベースでは完全回復とは言えないが、来訪先割合では回復傾向にある。しかしながら、物価高騰による旅費抑制のため、滞在日数を短縮する動きも見られる。

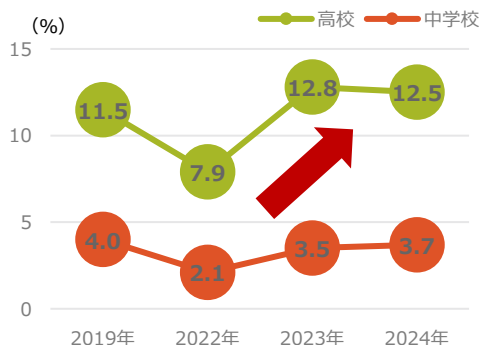
沖縄県における直近 10 年間の修学旅行実施数



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成

修学旅行の来訪先として

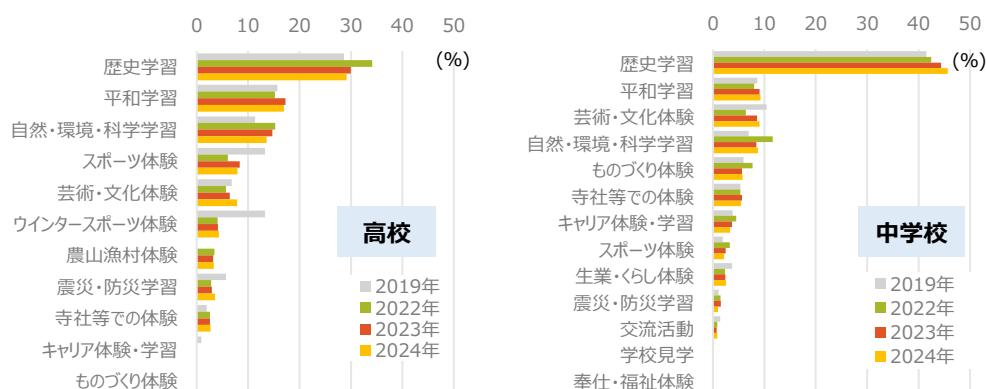
「沖縄」が占める割合



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成

学習テーマは、学習指導要領の改訂で重点化された「探究学習、問題解決型学習」であり、単なる観光地巡りだけで終わらせるのではなく、現地での体験を事前・事後学習と組み合わせて、深い学びに繋げる「探究学習」へと発展させる取組みが進んでいる。それに伴い、修学旅行で重点を置いた活動は地域との関わりが深い項目が多く、修学旅行を通じて地域の人との交流がより一層進む可能性は十分にあると考えられる。

修学旅行における重点活動の割合



※2024 年の値で降順ソート

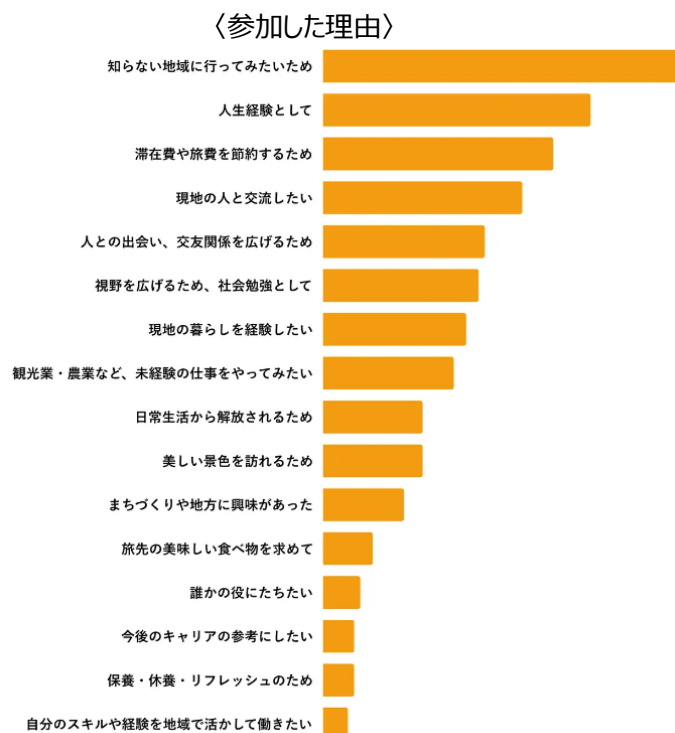
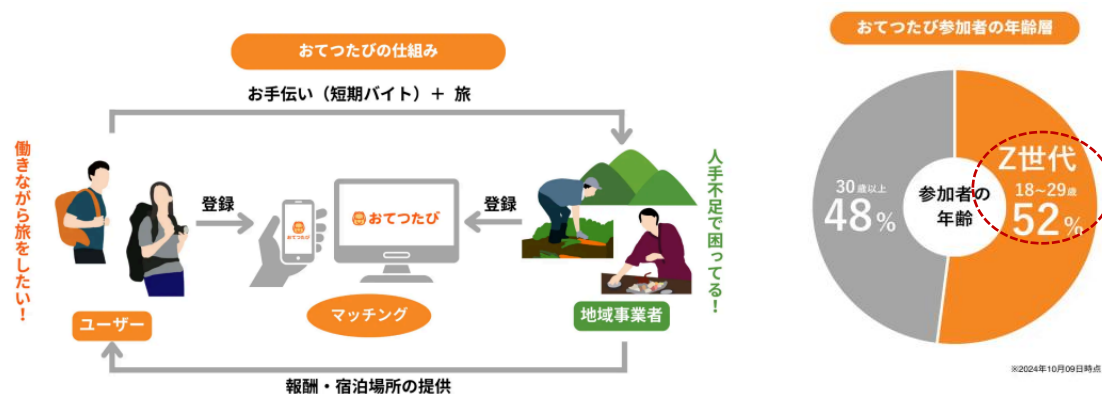
出典：公益財団法人日本修学旅行協会「教育旅行年報データブック 2025」より作成

4. 短期・単発の就労形態に対する意識

【旅行体験を拡張する手段としての短期・単発の労働形態】

事例 1) おてつたび

「おてつたび」は、地域の人々との交流や暮らしの体験（コト消費）と、労働による報酬（実利）を両立できる点がZ世代のニーズに合致しており、参加者の約半数を同世代が占めている。参加理由は、旅費の節約などの経済的理由に加え、今しかできない体験や地域との深い関わりなど、お金に換えがたい経験価値を重視する傾向が強い。

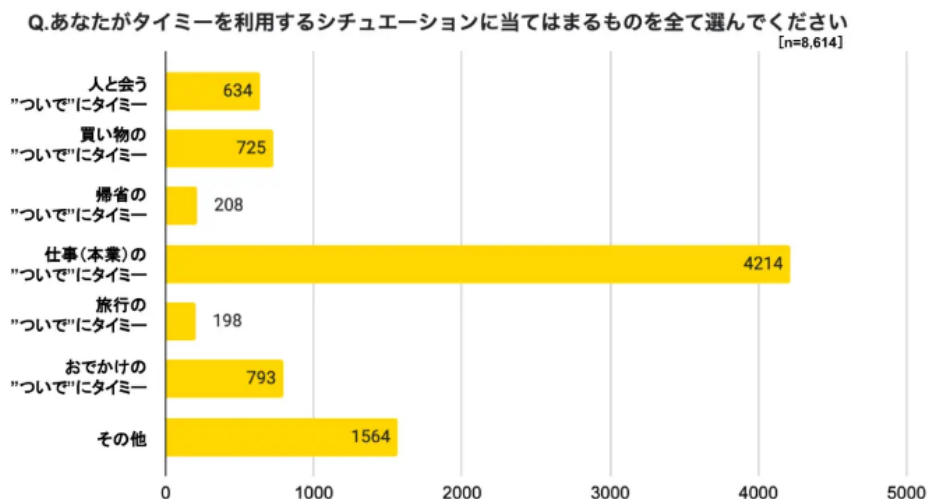


出典：株式会社おてつたび「参加後アンケート（2023年11月15日～2025年2月4日）」

事例 2) タイミー

隙間時間を価値に変える動き「タイミー」の利用シーンとして、旅行や帰省、お出かけのついで利用が一定数見られる。旅費の足しにするという経済合理性（コスパ）に加え、旅先での空き時間すら無駄にせず有効活用したいというタイムパフォーマンス（タイパ）意識の表れと考えられる。

〈タイミーを利用するシチュエーション〉



出典：株式会社タイミー「お仕事選びにおける重視項目の調査（2023年1月4日～2023年1月5日）」

5. Z世代のライフスタイルや旅行に関する価値観・求められる経験価値

【旅行や旅行先に対する経験価値】

Z世代は、地域ならではの風物の体験や地元の人との交流に価値を見出し、地域のためになること、地域に貢献できることを選ぶ傾向にある。また、将来の移住やライフスタイルの参考になりそうな旅に興味がある。

【Z世代の価値観・ライフスタイル】

区分	ミレニアル世代	Z世代
自分自身について	日々の生活の充実度が高い 現在を重視（現在の幸せを追求） 楽観/理想主義 Me重視	将来を重視（未来価値を追求） 現実/実利主義 Me重視 + We重視
社会問題	平等、リベラルを重視 多様性を認め、個性を尊重 ジェンダーや社会問題に対しても興味関心が強い Z世代に比べボランティア精神は高くない	ボランティア活動に肯定的 安定感を重視 スキルアップを重視 （特に海外経験、インノベーションスキル、ボランティアなど）
働き方	スキルアップを重視	スキルアップを重視 （特に海外経験、インノベーションスキル、ボランティアなど）
スポットワーク	空き時間の有効活用・副収入目的で活用	手軽さ・体験志向で活用しやすい
消費・体験活動	自身の意志に基づいた消費 + ブランド力 コストパフォーマンス（コスバ）を重視するが、主観的に価値のあることには高くても消費 SNSや動画プラットフォームの情報を参考に購入・予約する（Instagram+YouTube） 商品の品質と入手しやすさを重視 シェアリングエコノミーに前向き	自身の意志に基づいた消費 コスバだけでなく、タイムパフォーマンス（タイバ）も重視 SNSや動画プラットフォームの情報を参考に購入・予約する（Instagram+TikTok） 商品の品質と入手しやすさを重視 シェアリングエコノミーに前向き
コミュニティ・人間関係	仲間との関係・評価を重視	仲間との関係・評価を重視 + 日常をSNSで発信・共有（TikTok、BeReal等）
技術活用・情報・メディア	日常でオンライン（特にSNS、YouTube）の使用時間の割合が高い 1つのSNSで複数のアカウントを使い分けしている人の割合が高い イメージにも傾いているが、テキストをベース 生成AIを効率化のツールとして利用 （仕事や作業の補助として活用）	テキストよりイメージを嗜好（テキストをベースにした情報に比べ、動画や画像を通じた情報の習得力と理解力が高い） 生成AIを日常的に利用 （検索・情報収集、相談相手として活用）

自分らしさ
平等 リベラル
真正性 利便性
個性・自分のスタイル
多様な価値観
イメージ情報
コスバ タイバ 共有
SNS 仲間

【Z世代の旅行】

区分	ミレニアル世代	Z世代
旅行の目的やスタイル	自分の関心ごとをテーマとした旅行を愛好 （行きたい場所、やりたいことが明確） 画一的な大衆観光より、多様でパーソナライズされた経験を愛好 自慢できる、SNSなどで投稿できるような場所を愛好 旅行中に冒険的な体験も愛好 自己啓発を旅行目的にする傾向が高い 一人旅行も愛好	環境への影響を考慮 コストパフォーマンスを重視 コスバ・タイバを重視し、失敗を避けるために予習 地域とのつながりを重視
旅行に対する価値観	オンラインが主な手段 + 伝統的コミュニケーション手段（電話および雑誌など） 知り合いの情報に対する信頼が高い 生成AIはレビュー要約・比較などの補助に活用	主にオンライン（スマートフォン、タブレット） インフルエンサーの情報に対する信頼が高い 情報は事前に徹底的に検索（主にインスタやショート動画） + 生成AIで候補出し・プラン作成／要点整理・比較 リアルタイム双方向の情報交換をしたい傾向がある （必要な情報をリアルタイムで得られること） 情報の品質と真実性を重視
情報共有	オンラインレビューを読むが作成する傾向は少ない	非日常、治癒、特別感を表現するため情報を発信 オンラインレビューの作成にも積極的
移動手段	電車やバスの利用の割合が高い （価格面、同行者に気を使わないことなどが主な理由） 滞在先では環境にやさしい交通手段を使うことにも興味が高い	宿泊施設でのWi-Fi環境の充実を重視 宿泊施設の予約は主にオンライン オンライン旅行にも肯定的
技術活用	宿泊施設でのWi-Fi環境の充実を重視 宿泊施設の予約は主にオンライン オンライン旅行にも肯定的	宿泊施設でのWi-Fi環境の充実を重視 宿泊施設の予約は主にオンライン オンライン旅行にも肯定的
修学旅行	定番×集団行動でみんなで同じ思い出をつくる旅	学び・探求×交流の原体験 + 班別行動で自分たちでつくる旅／記録・共有までが体験

関心事が明確
カスタマイズ
自慢 特別感
体験 自己啓発
一人旅行 コスバ・タイバ
失敗回避 環境への影響
地域との関係
インスタ リアルタイム
Wi-Fi

出典：沖縄振興開発金融公庫「ポストコロナ時代における沖縄観光のあり方に関する調査」（2022年6月）をもとに各種資料より一部加筆（主な加筆箇所を赤字）

第4章 Z世代を対象としたWebアンケート調査

1. 調査概要

調査対象	関東圏または関西圏*在住の18～29歳の男女（高校生を除く）で、今後3年以内に宿泊を伴う観光旅行をする意向がある者 ※調査会社のパネルより抽出 *関東圏：埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県、群馬県、栃木県、茨城県／ 関西圏：京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
実施期間	2025年10月8日～15日
調査方法	ウェブ調査
調査項目	・直近で参加した修学旅行での経験、およびその後の活動や意識 ・“つながる旅”や“帰る旅”等の経験・意識、今後行いたい旅 ・旅行先における短期・単発の就労形態の活用意向、等
サンプル数	1,000人
割付	性別(2) × プライベートでの沖縄来訪経験有無(2) × 直近で参加した修学旅行における沖縄訪問経験有無(2) の計8セルの均等割付

※ 本調査は「今後3年以内に宿泊観光旅行の意向がある層」を対象としている。

また、分析の観点から「修学旅行での訪沖経験有無」「プライベートでの訪沖経験有無」を均等に割り付けており、一般的なZ世代の構成比とは異なる。

2. 調査結果

(1) 修学旅行での経験とその経験が及ぼす影響

① 体験内容

【修学旅行で体験したこと | 行先別】

沖縄での修学旅行で実施率が高い項目は、「宿泊施設での滞在を楽しんだ」、「地域ならではの土産品や食品の購入」、「戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問」、「テーマパーク・水族館等への訪問」などであり、これらの実施率は 5 割を超えた。特に、平和学習やマリンレジャー、地域消費、民泊等での地元の方々との交流の実施率は、沖縄以外を大幅に上回る。

直近の修学旅行で体験したこと（複数回答）と修学旅行の行先

直近の修学旅行で体験したこと（複数回答）	修学旅行の行先		全体 n=1000
	沖縄 n=500	沖縄以外 n=500	
ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	57.0%	45.4%	51.2%
地域ならではの土産品や食品の購入	53.6%	36.8%	45.2%
戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問	51.6%	20.0%	35.8%
テーマパーク・レジャーランド・水族館・博物館・行政／公共施設等への訪問	51.4%	37.6%	44.5%
ショッピング	49.6%	39.8%	44.7%
伝統・郷土料理の美食	44.6%	25.2%	34.9%
遺跡・史跡・文化財・社寺等の見学	41.8%	32.4%	37.1%
海水浴・ビーチで過ごした	41.0%	11.6%	26.3%
平和学習（語り部などによる体験講話含む）	40.4%	17.0%	28.7%
民泊・民宿・ゲストハウス・ホームステイ等での滞在で地元の方々との交流した	30.2%	14.8%	22.5%
訪問前後に書籍やWeb等で地域について調べた	30.0%	25.6%	27.8%
バナナボート・パラセーリングなど（ボートで牽引されるアクティビティ）	26.4%	7.2%	16.8%
伝統的町並みや建造物群保存地区の見学（まち歩きを含む）	24.6%	27.0%	25.8%
伝統文化・伝統芸能体験（茶道・着付け・三味線・船漕ぎ・エイサー等含む）	22.2%	14.4%	18.3%
地域生活の体験（郷土料理作り、方言を学ぶなど）	21.2%	13.2%	17.2%
離島を訪れた	20.2%	8.8%	14.5%
景勝地の訪問	19.2%	21.4%	20.3%
伝統工芸体験（絵付け・焼き物・染め物など）	18.8%	11.2%	15.0%
シュノーケリング	18.8%	6.2%	12.5%
カヤック・カヌー・SUP（スタンドアップパドル）、サーフィン・ボディボードなど	16.0%	10.6%	13.3%
訪問前後に講師や地域の人と対面またはオンラインで交流した	13.6%	13.8%	13.7%
ボート遊覧（グラスボート、サンセット・花火クルーズなど）	9.4%	9.2%	9.3%
ダイビング	9.2%	4.0%	6.6%
星空観察	9.0%	6.4%	7.7%
職場訪問・職場体験・職業講話・工場見学など	8.4%	10.2%	9.3%
SDGs・環境学習（ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等）	8.2%	7.6%	7.9%
地域の祭り・地域イベントへの参加	8.0%	9.0%	8.5%
ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	7.2%	8.6%	7.9%
ハイキング・トレッキング	7.0%	7.6%	7.3%
サイクリング（ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む）	6.8%	6.4%	6.6%
スポーツ大会・合宿・キャンプの参加／応援／観戦／見学	6.2%	8.6%	7.4%
震災学習、防災学習	6.2%	7.2%	6.7%
国際交流（外国人との交流、留学生との活動など）	6.0%	11.8%	8.9%
地元の学生との交流	6.0%	8.2%	7.1%
イルカ・ホエールウォッチング	5.6%	4.4%	5.0%
ボランティア体験	5.0%	5.6%	5.3%
農林漁業体験	4.8%	6.6%	5.7%
釣り	3.2%	3.6%	3.4%
スキー・スノーボード・スケート等	-	9.0%	9.0%

	学び・文化・生活・産業 等
	自然・アクティビティ系
	観光・消費・交流・滞在 等

	全体より10ポイント以上高い値	全体より5ポイント以上低い値
	全体より5ポイント以上高い値	全体より10ポイント以上低い値

【修学旅行で体験したこと | 今後の訪沖意向別】

沖縄への修学旅行参加者について、今後の訪沖意向別に、修学旅行での体験内容をみると、「ぜひ行きたい」層は他の層に比べて多くの項目で実施率が高い。特に、消費・滞在等の基本的な観光行動に加え、戦跡訪問や海水浴、伝統的町並みの見学、地域交流・伝統文化・芸能・工芸体験などの実施率が、沖縄全体と比べて高い。

直近の沖縄での修学旅行で体験したこと（複数回答）と今後の訪沖意向

直近の修学旅行で体験したこと（複数回答）	沖縄への修学旅行参加者			
	修学旅行先の地域への今後の旅行意向			沖縄への修学旅行全体 n=500
	ぜひ行きたい n=236	やや行きたい n=164	どちらともいえない ～まったく行きたくない n=100	
ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	69.5%	54.9%	31.0%	57.0%
地域ならではの土産品や食品の購入	64.8%	50.0%	33.0%	53.6%
戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問	62.7%	48.8%	30.0%	51.6%
テーマパーク・レジャーランド・水族館・博物館・行政／公共施設等への訪問	61.0%	50.0%	31.0%	51.4%
ショッピング	59.3%	48.8%	28.0%	49.6%
伝統・郷土料理の実食	53.0%	42.1%	29.0%	44.6%
遺跡・史跡・文化財・社寺等の見学	51.7%	34.8%	30.0%	41.8%
海水浴・ビーチで過ごした	49.6%	40.2%	22.0%	41.0%
平和学習（語り部などによる体験講話含む）	45.3%	42.1%	26.0%	40.4%
民泊・民宿・ゲストハウス・ホームステイ等での滞在で地元の方々や交流した	33.5%	30.5%	22.0%	30.2%
訪問前後に書籍やWeb等で地域について調べた	37.7%	28.0%	15.0%	30.0%
バナナボート・パラセーリングなど（ボートで牽引されるアクティビティ）	30.9%	26.8%	15.0%	26.4%
伝統的町並みや建造物群保存地区の見学（まち歩きを含む）	32.2%	20.1%	14.0%	24.6%
伝統文化・伝統芸能体験（茶道・着付け・三味線・船漕ぎ・エイサー等含む）	27.5%	21.3%	11.0%	22.2%
地域生活の体験（郷土料理作り、方言を学ぶなど）	25.0%	22.0%	11.0%	21.2%
離島を訪れた	22.5%	20.1%	15.0%	20.2%
景勝地の訪問	23.7%	17.7%	11.0%	19.2%
伝統工芸体験（絵付け・焼き物・染め物など）	26.7%	14.0%	8.0%	18.8%
シュノーケリング	20.8%	21.3%	10.0%	18.8%
カヤック・カヌー・SUP（スタンドアップパドル）、サーフィン・ボディボードなど	19.9%	14.0%	10.0%	16.0%
訪問前後に講師や地域の人と対面またはオンラインで交流した	16.9%	13.4%	6.0%	13.6%
ボート遊覧（グラスボート、サンセット・花火クルーズなど）	11.0%	7.9%	8.0%	9.4%
ダイビング	10.6%	9.1%	6.0%	9.2%
星空観察	12.3%	6.7%	5.0%	9.0%
職場訪問・職場体験・職業講話・工場見学など	8.1%	11.0%	5.0%	8.4%
S D G s・環境学習（ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等）	11.9%	4.9%	5.0%	8.2%
地域の祭り・地域イベントへの参加	9.3%	9.1%	3.0%	8.0%
ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	8.9%	7.3%	3.0%	7.2%
ハイキング・トレッキング	8.1%	6.7%	5.0%	7.0%
サイクリング（ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む）	9.3%	6.1%	2.0%	6.8%
スポーツ大会・合宿・キャンプの参加／応援／観戦／見学	6.8%	6.7%	4.0%	6.2%
震災学習、防災学習	8.1%	6.1%	2.0%	6.2%
国際交流（外国人との交流、留学生との活動など）	7.6%	6.7%	1.0%	6.0%
地元の学生との交流	6.4%	7.3%	3.0%	6.0%
イルカ・ホエールウォッチング	7.2%	5.5%	2.0%	5.6%
ボランティア体験	6.8%	4.3%	2.0%	5.0%
農林漁業体験	6.4%	3.7%	3.0%	4.8%
釣り	3.4%	4.3%	1.0%	3.2%
スキー・スノーボード・スケート等	-	-	-	-

	学び・文化・生活・産業 等
	自然・アクティビティ系
	観光・消費・交流・滞在 等

全体より10ポイント以上高い値	全体より5ポイント以上低い値
全体より5ポイント以上高い値	全体より10ポイント以上低い値

【修学旅行で満足した体験 | 行先別】

沖縄での個別体験の満足度(率)をみると、民泊等を通じた地元の方々との交流は高い満足度を示しており、沖縄以外の地域を大きく上回った一方、沖縄での実施率が高い戦跡訪問は、沖縄以外の地域の満足度と比べて低い。

直近の修学旅行で満足した体験と修学旅行の行先

(参考) 満足した体験	修学旅行の行先				全体	
	沖縄		沖縄以外		回答数	満足率 (体験者のみ回答)
	n数	満足率	n数	満足率		
ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	285	67.7%	227	70.9%	512	69.1%
地域ならではの土産品や食品の購入	268	69.4%	184	72.3%	452	70.6%
戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問	258	50.8%	100	61.0%	358	53.6%
テーマパーク・レジャーランド・水族館・博物館・行政／公共施設等への訪問	257	73.5%	188	78.2%	445	75.5%
ショッピング	248	61.3%	199	65.3%	447	63.1%
伝統・郷土料理の美食	223	73.1%	126	73.0%	349	73.1%
遺跡・史跡・文化財・社寺等の見学	209	54.1%	162	72.2%	371	62.0%
海水浴・ビーチで過ごした	205	73.7%	58	77.6%	263	74.5%
平和学習（語り部などによる体験講話含む）	202	46.5%	85	40.0%	287	44.6%
民泊・民宿・ゲストハウス・ホームステイ等での滞在で地元の方々と交流した	151	72.2%	74	56.8%	225	67.1%
訪問前後に書籍やWeb等で地域について調べた	150	45.3%	128	48.4%	278	46.8%
バナナボート・パラセーリングなど（ボートで牽引されるアクティビティ）	132	75.8%	36	58.3%	168	72.0%
伝統的町並みや建造物群保存地区の見学（まち歩きを含む）	123	56.9%	135	65.9%	258	61.6%
伝統文化・伝統芸能体験（茶道・着付け・三味線・船漕ぎ・エイサー等含む）	111	53.2%	72	54.2%	183	53.6%
地域生活の体験（郷土料理作り、方言を学ぶなど）	106	53.8%	66	59.1%	172	55.8%
離島を訪れた	101	68.3%	44	68.2%	145	68.3%
景勝地の訪問	96	63.5%	107	79.4%	203	71.9%
伝統工芸体験（絵付け・焼き物・染め物など）	94	62.8%	56	62.5%	150	62.7%
シュノーケリング	94	77.7%	31	80.6%	125	78.4%
カヤック・カヌー・SUP（スタンドアップパドル）、サーフィン・ボディボードなど	80	63.8%	53	77.4%	133	69.2%
訪問前後に講師や地域の人と対面またはオンラインで交流した	68	38.2%	69	58.0%	137	48.2%
ボート遊覧（グラスボート、サンセット・花火クルーズなど）	47	63.8%	46	76.1%	93	69.9%
ダイビング	46	67.4%	20	70.0%	66	68.2%
星空観察	45	66.7%	32	65.6%	77	66.2%
職場訪問・職場体験・職業講話・工場見学など	42	47.6%	51	56.9%	93	52.7%
S D G s・環境学習（ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等）	41	53.7%	38	57.9%	79	55.7%
地域の祭り・地域イベントへの参加	40	50.0%	45	60.0%	85	55.3%
ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	36	50.0%	43	53.5%	79	51.9%
ハイキング・トレッキング	35	45.7%	38	63.2%	73	54.8%
サイクリング（ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む）	34	52.9%	32	62.5%	66	57.6%
スポーツ大会・合宿・キャンプの参加／応援／観戦／見学	31	54.8%	43	51.2%	74	52.7%
震災学習、防災学習	31	22.6%	36	52.8%	67	38.8%
国際交流（外国人との交流、留学生との活動など）	30	50.0%	59	61.0%	89	57.3%
地元の学生との交流	30	43.3%	41	51.2%	71	47.9%
イルカ・ホエールウォッチング	28	50.0%	22	63.6%	50	56.0%
ボランティア体験	25	56.0%	28	53.6%	53	54.7%
農林漁業体験	24	50.0%	33	57.6%	57	54.4%
釣り	16	37.5%	18	61.1%	34	50.0%
スキー・スノーボード・スケート等	-	-	45	73.3%	45	73.3%

	学び・文化・生活・産業 等		全体より10ポイント以上高い値
	自然・アクティビティ系		全体より5ポイント以上高い値
	観光・消費・交流・滞在 等		全体より5ポイント以上低い値
			全体より10ポイント以上低い値

※満足率：当該項目を実際に体験した人のうち、「満足した」と回答した人の割合を示す。なお、n 数が少ない項目については結果の解釈に十分留意されたい。

(参考)

戦争や平和を扱う 資料館や戦跡の訪問	北海道	東北	関東	北陸・ 中部	近畿	中国・ 四国	九州
n 数	73	23	86	41	134	26	51
満足率(%)	82	100	52	75	68	60	58

【修学旅行で満足した体験 | 今後の訪沖意向別】

沖縄への修学旅行参加者の今後の訪沖意向別に、体験内容ごとの満足度をみると、「ぜひ行きたい」層は他の層に比べて全体的に満足度が高い。

特に、シュノーケリングやダイビング等のマリンアクティビティに加え、伝統・郷土料理の実食、星空観察といった沖縄ならではの自然・文化体験において、高い満足度を示している。

直近の沖縄への修学旅行で満足した体験と今後の訪沖意向

(参考) 満足した体験	沖縄への修学旅行参加者							
	修学旅行先の地域への今後の旅行意向						沖縄への 修学旅行全体	
	ぜひ行きたい		やや行きたい		どちらともいえない〜 まったく行きたくない			
	n数	満足率	n数	満足率	n数	満足率	n数	満足率
ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	164	68.9%	90	71.1%	31	51.6%	285	67.7%
地域ならではの土産品や食品の購入	153	74.5%	82	64.6%	33	57.6%	268	69.4%
戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問	148	54.7%	80	53.8%	30	23.3%	258	50.8%
テーマパーク・レジャーランド・水族館・博物館・行政／公共施設等への訪問	144	74.3%	82	70.7%	31	77.4%	257	73.5%
ショッピング	140	59.3%	80	62.5%	28	67.9%	248	61.3%
伝統・郷土料理の実食	125	77.6%	69	72.5%	29	55.2%	223	73.1%
遺跡・史跡・文化財・社寺等の見学	122	58.2%	57	47.4%	30	50.0%	209	54.1%
海水浴・ビーチで過ごした	117	75.2%	66	72.7%	22	68.2%	205	73.7%
平和学習（語り部などによる体験講話含む）	107	44.9%	69	49.3%	26	46.2%	202	46.5%
民泊・民宿・ゲストハウス・ホームステイ等での滞在で地元の方々と交流した	79	74.7%	50	72.0%	22	63.6%	151	72.2%
訪問前後に書籍やWeb等で地域について調べた	89	50.6%	46	41.3%	15	26.7%	150	45.3%
バナナボート・パラセーリングなど（ボートで牽引されるアクティビティ）	73	78.1%	44	79.5%	15	53.3%	132	75.8%
伝統的町並みや建造物群保存地区の見学（まち歩きを含む）	76	56.6%	33	60.6%	14	50.0%	123	56.9%
伝統文化・伝統芸能体験（茶道・着付け・三味線・船漕ぎ・エイサー等含む）	65	49.2%	35	51.4%	11	81.8%	111	53.2%
地域生活の体験（郷土料理作り、方言を学ぶなど）	59	52.5%	36	58.3%	11	45.5%	106	53.8%
離島を訪れた	53	73.6%	33	60.6%	15	66.7%	101	68.3%
景勝地の訪問	56	64.3%	29	58.6%	11	72.7%	96	63.5%
伝統工芸体験（絵付け・焼き物・染め物など）	63	65.1%	23	60.9%	8	50.0%	94	62.8%
シュノーケリング	49	81.6%	35	71.4%	10	80.0%	94	77.7%
カヤック・カヌー・SUP（スタンドアップパドル）、サーフィン・ボディボードなど	47	66.0%	23	69.6%	10	40.0%	80	63.8%
訪問前後に講師や地域の人と対面またはオンラインで交流した	40	40.0%	22	45.5%	6	0.0%	68	38.2%
ボート遊覧（グラスボート、サンセット・花火クルーズなど）	26	65.4%	13	53.8%	8	75.0%	47	63.8%
ダイビング	25	80.0%	15	60.0%	6	33.3%	46	67.4%
星空観察	29	75.9%	11	45.5%	5	60.0%	45	66.7%
職場訪問・職場体験・職業講話・工場見学など	19	52.6%	18	55.6%	5	0.0%	42	47.6%
SDGs・環境学習（ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等）	28	60.7%	8	37.5%	5	40.0%	41	53.7%
地域の祭り・地域イベントへの参加	22	54.5%	15	46.7%	3	33.3%	40	50.0%
ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	21	42.9%	12	58.3%	3	66.7%	36	50.0%
ハイキング・トレッキング	19	42.1%	11	45.5%	5	60.0%	35	45.7%
サイクリング（ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む）	22	50.0%	10	60.0%	2	50.0%	34	52.9%
スポーツ大会・合宿・キャンプの参加／応援／観戦／見学	16	62.5%	11	54.5%	4	25.0%	31	54.8%
震災学習、防災学習	19	26.3%	10	20.0%	2	0.0%	31	22.6%
国際交流（外国人との交流、留学生との活動など）	18	55.6%	11	45.5%	1	0.0%	30	50.0%
地元の学生との交流	15	26.7%	12	66.7%	3	33.3%	30	43.3%
イルカ・ホエールウォッチング	17	52.9%	9	33.3%	2	100.0%	28	50.0%
ボランティア体験	16	56.3%	7	57.1%	2	50.0%	25	56.0%
農林漁業体験	15	60.0%	6	50.0%	3	0.0%	24	50.0%
釣り	8	37.5%	7	42.9%	1	0.0%	16	37.5%
スキー・スノーボード・スケート等	-	-	-	-	-	-	-	-

	学び・文化・生活・産業 等
	自然・アクティビティ系
	観光・消費・交流・滞在 等

	全体より10ポイント以上高い値
	全体より5ポイント以上高い値
	全体より5ポイント以上低い値
	全体より10ポイント以上低い値

※満足率：当該項目を実際に体験した人のうち、「満足した」と回答した人の割合を示す。なお、n 数が少ない項目については結果の解釈に十分留意されたい。

② 地域交流で印象に残った相手

【印象に残った人】

修学旅行で交流した地域の方で印象に残った相手は、沖縄では「民泊先の家族」と「ツアーガイド」がいずれも 20%を超えた。一方、沖縄以外では、「民泊先の家族」は 10%を下回り、「お店のスタッフ」、「ツアーガイド」、「旅館・ホテルのスタッフ」が 15%を上回った。

沖縄への修学旅行参加者について今後の訪沖意向別にみると、「ぜひ行きたい」層は、「民泊先の家族」が 30.5%と特に高い割合で印象に残っており、「地域の方との交流はなかった」は 14.0%にとどまった。地域交流が再来訪意向の醸成に貢献していることがうかがえる。

なお、コロナ禍の影響が考えられる 18-22 歳では、沖縄での修学旅行において「民泊先の家族」の割合が相対的に低く、「ツアーガイド」が高い傾向がみられた。

直近の修学旅行で交流した地域の人で印象に残った人（複数回答）と修学旅行の行先

印象に残った人（複数回答）	修学旅行の行先		全体 n=1000
	沖縄 n=500	沖縄以外 n=500	
民泊先の家族	25.0%	9.8%	17.4%
ツアーガイド	20.0%	16.6%	18.3%
お店のスタッフ	16.6%	17.6%	17.1%
体験学習の講師や指導員	13.6%	12.0%	12.8%
旅館・ホテルのスタッフ	13.2%	15.4%	14.3%
語り部	11.0%	6.8%	8.9%
タクシーの運転手	9.8%	5.0%	7.4%
神社仏閣、博物館などの案内人やボランティア	6.8%	11.0%	8.9%
電車やバスで乗り合わせた人	5.6%	7.6%	6.6%
祭りやイベントで出会った人	5.6%	6.2%	5.9%
道端で声をかけてくれた人	4.6%	7.2%	5.9%
現地の学校の生徒	4.0%	8.8%	6.4%
上記以外の地域住民	2.2%	1.8%	2.0%
印象に残った地域の人はいない／覚えていない	15.6%	12.6%	14.1%
地域の方との交流はなかった	21.8%	31.6%	26.7%

直近の沖縄への修学旅行で印象に残った人（複数回答）と今後の訪沖意向／ 直近の修学旅行で印象に残った人（複数回答）と修学旅行の行先・年齢

印象に残った人（複数回答）	沖縄への修学旅行参加者				修学旅行の行先			
	修学旅行先の地域への訪問意向			沖縄への 修学旅行全体 n=500	沖縄		沖縄以外	
	ぜひ行きたい n=236	やや行きたい n=164	どちらともいえない／ まったく行きたくない n=100		18-22歳 n=94	23-29歳 n=406	18-22歳 n=103	23-29歳 n=397
民泊先の家族	30.5%	25.0%	12.0%	25.0%	18.1%	26.6%	10.7%	9.6%
ツアーガイド	25.0%	18.9%	10.0%	20.0%	25.5%	18.7%	22.3%	15.1%
お店のスタッフ	23.7%	11.0%	9.0%	16.6%	17.0%	16.5%	24.3%	15.9%
体験学習の講師や指導員	16.1%	16.5%	3.0%	13.6%	17.0%	12.8%	13.6%	11.6%
旅館・ホテルのスタッフ	16.9%	12.8%	5.0%	13.2%	14.9%	12.8%	23.3%	13.4%
語り部	14.8%	9.1%	5.0%	11.0%	13.8%	10.3%	6.8%	6.8%
タクシーの運転手	13.6%	8.5%	3.0%	9.8%	6.4%	10.6%	8.7%	4.0%
神社仏閣、博物館などの案内人やボランティア	8.9%	4.3%	6.0%	6.8%	8.5%	6.4%	15.5%	9.8%
電車やバスで乗り合わせた人	7.6%	3.7%	4.0%	5.6%	6.4%	5.4%	6.8%	7.8%
祭りやイベントで出会った人	6.4%	7.3%	1.0%	5.6%	5.3%	5.7%	2.9%	7.1%
道端で声をかけてくれた人	8.1%	1.8%	1.0%	4.6%	3.2%	4.9%	6.8%	7.3%
現地の学校の生徒	4.7%	4.9%	1.0%	4.0%	5.3%	3.7%	4.9%	9.8%
上記以外の地域住民	1.7%	1.8%	4.0%	2.2%	3.2%	2.0%	2.9%	1.5%
印象に残った地域の人はいない／覚えていない	13.6%	14.6%	22.0%	15.6%	12.8%	16.3%	10.7%	13.1%
地域の方との交流はなかった	14.0%	23.8%	37.0%	21.8%	24.5%	21.2%	26.2%	33.0%

全体より10ポイント以上高い値
全体より5ポイント以上高い値

全体より5ポイント以上低い値
全体より10ポイント以上低い値

【最も印象に残った人／また会いたい人】

印象に残った相手がいたと回答した人を対象に、最も印象に残った人、また会いたい人をそれぞれ単一回答で尋ねたところ、その結果はいずれも同様の傾向を示した。沖縄では「民泊先の家族」が「最も印象に残った人」、「また会いたい、会いに行きたいと思う人」の各 35%を、沖縄以外では「ツアーガイド」が各 15%を超え、最も多い回答となった。沖縄の修学旅行における「民泊」の体験は、他地域に比べて強く印象に残る交流の機会となっていることがうかがえる。

直近の修学旅行で最も印象に残った人／また会いたい、会いに行きたいと思う人と

修学旅行の行先

最も印象に残った人	修学旅行の行先		全体 n=592
	沖縄 n=313	沖縄以外 n=279	
民泊先の家族	35.5%	11.5%	24.2%
ツアーガイド	17.9%	15.4%	16.7%
体験学習の講師や指導員	9.3%	9.0%	9.1%
語り部	8.0%	6.5%	7.3%
お店のスタッフ	7.7%	9.3%	8.4%
タクシーの運転手	6.4%	3.2%	4.9%
旅館・ホテルのスタッフ	5.4%	11.5%	8.3%
電車やバスで乗り合わせた人	2.6%	6.8%	4.6%
現地の学校の生徒	2.2%	9.0%	5.4%
神社仏閣、博物館などの案内人やボランティア	1.6%	7.9%	4.6%
道端で声をかけてくれた人	1.3%	5.0%	3.0%
祭りやイベントで出会った人	1.0%	3.9%	2.4%
上記以外の地域住民	1.3%	1.1%	1.2%
また会いたい、会いに行きたいと思う人	修学旅行の行先		全体 n=592
	沖縄 n=313	沖縄以外 n=279	
民泊先の家族	35.8%	11.1%	24.2%
ツアーガイド	17.3%	15.1%	16.2%
体験学習の講師や指導員	8.3%	7.2%	7.8%
お店のスタッフ	7.7%	10.0%	8.8%
語り部	7.7%	6.5%	7.1%
タクシーの運転手	6.7%	2.5%	4.7%
旅館・ホテルのスタッフ	6.4%	12.2%	9.1%
電車やバスで乗り合わせた人	2.2%	6.8%	4.4%
現地の学校の生徒	1.9%	9.7%	5.6%
神社仏閣、博物館などの案内人やボランティア	1.6%	9.0%	5.1%
道端で声をかけてくれた人	1.6%	5.0%	3.2%
祭りやイベントで出会った人	1.6%	3.9%	2.7%
上記以外の地域住民	1.3%	1.1%	1.2%

全体より10ポイント以上高い値
全体より5ポイント以上高い値

全体より5ポイント以上低い値
全体より10ポイント以上低い値

**直近の沖縄への修学旅行で最も印象に残った人／また会いたい、会いに行きたいと思う人と
今後の訪沖意向**

最も印象に残った人	沖縄への修学旅行参加者			
	修学旅行先の地域への訪問意向			沖縄への 修学旅行全体 n=313
	ぜひ行きたい n=171	やや行きたい n=101	どちらともいえない～ まったく行きたくない n=41	
民泊先の家族	36.3%	36.6%	29.3%	35.5%
ツアーガイド	18.7%	14.9%	22.0%	17.9%
体験学習の講師や指導員	7.0%	13.9%	7.3%	9.3%
語り部	9.9%	5.9%	4.9%	8.0%
お店のスタッフ	7.0%	7.9%	9.8%	7.7%
タクシーの運転手	7.6%	5.9%	2.4%	6.4%
旅館・ホテルのスタッフ	4.7%	6.9%	4.9%	5.4%
電車やバスで乗り合わせた人	1.2%	3.0%	7.3%	2.6%
現地の学校の生徒	2.3%	3.0%	0.0%	2.2%
神社仏閣、博物館などの案内人やボランティア	0.6%	1.0%	7.3%	1.6%
道端で声をかけてくれた人	2.3%	0.0%	0.0%	1.3%
上記以外の地域住民	1.2%	0.0%	4.9%	1.3%
祭りやイベントで出会った人	1.2%	1.0%	0.0%	1.0%
また会いたい人、会いに行きたいと思う人	沖縄への修学旅行参加者			
	修学旅行先の地域への旅行意向			沖縄への 修学旅行全体 n=313
	ぜひ行きたい n=171	やや行きたい n=101	どちらともいえない～ まったく行きたくない n=41	
民泊先の家族	35.7%	38.6%	29.3%	35.8%
ツアーガイド	18.1%	13.9%	22.0%	17.3%
体験学習の講師や指導員	7.6%	10.9%	4.9%	8.3%
お店のスタッフ	5.3%	9.9%	12.2%	7.7%
語り部	9.9%	5.0%	4.9%	7.7%
タクシーの運転手	8.2%	5.9%	2.4%	6.7%
旅館・ホテルのスタッフ	6.4%	6.9%	4.9%	6.4%
電車やバスで乗り合わせた人	0.6%	3.0%	7.3%	2.2%
現地の学校の生徒	1.8%	3.0%	0.0%	1.9%
神社仏閣、博物館などの案内人やボランティア	0.6%	1.0%	7.3%	1.6%
道端で声をかけてくれた人	2.9%	0.0%	0.0%	1.6%
祭りやイベントで出会った人	1.8%	2.0%	0.0%	1.6%
上記以外の地域住民	1.2%	0.0%	4.9%	1.3%



③ 修学旅行先に関するその後の活動

修学旅行で訪れた地域に関して、その後何らかの活動を行ったかを尋ねたところ、行き先が沖縄か沖縄以外かにかかわらず、「特に何もしなかった」という回答が約半数を占めた。活動を行った人では、「地域について家族や友人と話をした」、「地域の名産品・特産品を購入した」がいずれも 1 割を超え、上位となった。

一方で、沖縄への修学旅行参加者について、修学旅行が当該地域への興味・関心に与えた影響度別（修学旅行での経験が、その後の当該地域への興味関心にどの程度影響したか）にその後の活動をみると、「大いに影響した」層では、多様な行動を積極的に行っており、「特に何もしなかった」は 22.7%にとどまった。「地域に再訪した」、「地域への再訪を検討・計画した」という再訪への行動・検討も各 14.8%となり、修学旅行の経験が興味・関心に大きく影響することで、その後の活動が促されることが示唆される。

修学旅行先に関するその後の活動

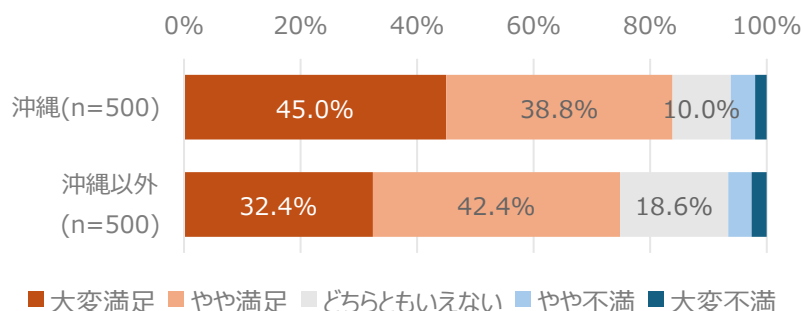
修学旅行先に関するその後の活動（複数回答）	修学旅行の行先			沖縄への修学旅行参加者						
	沖縄 n=500	沖縄以外 n=500	全体 n=1000	修学旅行先の地域への興味関心			修学旅行先の地域への来訪意向			沖縄への 修学旅行 全体 n=500
				大いに影響 した n=88	ある程度 影響した n=185	どちらともいえない →まったく影響 していない n=227	ぜひ行きたい n=236	やや行きたい n=164	どちらともいえない →まったく行き たくない n=100	
地域について家族や友人と話をした	15.6%	13.2%	14.4%	31.8%	21.1%	4.8%	22.0%	12.2%	6.0%	15.6%
地域の名産品・特産品を購入した	14.8%	10.4%	12.6%	23.9%	20.5%	6.6%	20.8%	13.4%	3.0%	14.8%
地域に関する書籍・映画・テレビ番組などを見た	9.2%	9.0%	9.1%	19.3%	12.4%	2.6%	11.9%	9.8%	2.0%	9.2%
地域に関連したイベントに参加した	8.4%	6.8%	7.6%	21.6%	9.7%	2.2%	11.9%	6.7%	3.0%	8.4%
地域に再訪した	8.0%	7.6%	7.8%	14.8%	9.7%	4.0%	11.4%	6.1%	3.0%	8.0%
限られた人のみが閲覧できるSNSアカウントから発信・投稿した	8.0%	4.2%	6.1%	21.6%	9.2%	1.8%	13.6%	4.3%	1.0%	8.0%
地域で関心を持った文化や活動を自宅でも試した	7.6%	6.6%	7.1%	21.6%	8.1%	1.8%	11.4%	6.1%	1.0%	7.6%
地域の別の観光地や地域に興味を持ち、情報収集をした	7.4%	9.0%	8.2%	14.8%	9.7%	2.6%	9.3%	6.7%	4.0%	7.4%
地域への再訪を検討・計画した	7.0%	8.2%	7.6%	14.8%	7.6%	3.5%	9.7%	6.7%	1.0%	7.0%
地域で得た知識・体験を仕事や学習に活かした	5.2%	6.6%	5.9%	13.6%	6.5%	0.9%	8.1%	4.3%	0.0%	5.2%
誰でも閲覧できるSNSアカウントから発信・投稿した	4.8%	4.6%	4.7%	9.1%	5.4%	2.6%	6.4%	3.7%	3.0%	4.8%
地域について発信・投稿しているアカウントをフォローした	4.2%	5.4%	4.8%	11.4%	4.9%	0.9%	6.4%	2.4%	2.0%	4.2%
地域へふるさと納税を行った	3.0%	3.8%	3.4%	5.7%	4.3%	0.9%	3.4%	3.7%	1.0%	3.0%
地域にボランティアに行った	3.0%	3.2%	3.1%	5.7%	3.2%	1.8%	3.4%	3.0%	2.0%	3.0%
地域で実施するクラウドファンディングに協力した	3.0%	2.6%	2.8%	8.0%	3.8%	0.4%	3.8%	3.0%	1.0%	3.0%
旅先で知り合った地域の方と連絡を取った	2.4%	4.2%	3.3%	3.4%	3.8%	0.9%	3.0%	2.4%	1.0%	2.4%
その他	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.0%	0.2%
特に何もしなかった	51.2%	48.6%	49.9%	22.7%	36.2%	74.4%	39.8%	50.6%	79.0%	51.2%

全体より10ポイント以上高い値
全体より5ポイント以上高い値
全体より5ポイント以上低い値
全体より10ポイント以上低い値

④ 修学旅行全体の満足度

沖縄への修学旅行は、「大変満足」が 45.0%と、沖縄以外の地域(32.4%)に比べて高い。

直近の修学旅行の行先と修学旅行全体の満足度

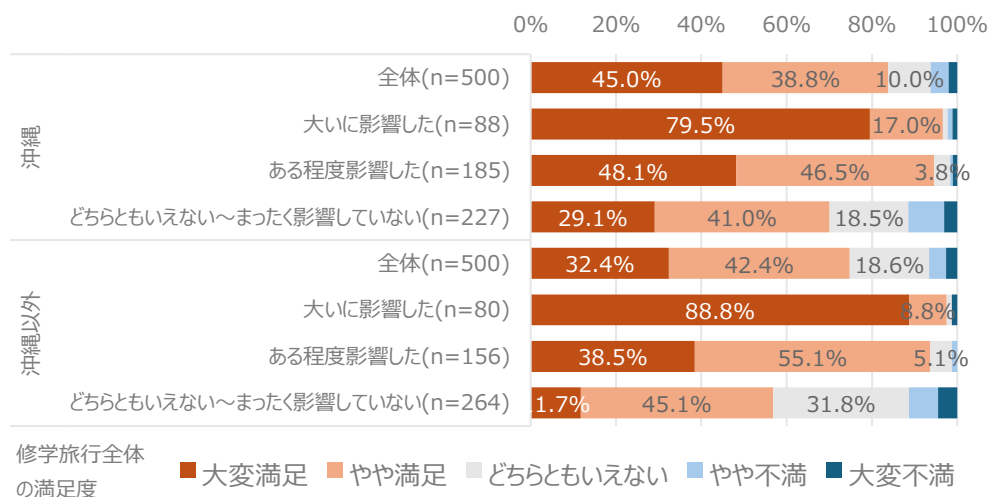


修学旅行がその地域への興味関心に「大いに影響した」層では、行き先にかかわらず「大変満足」の割合がきわめて高く、影響度が低くなるほど満足度も低下する。

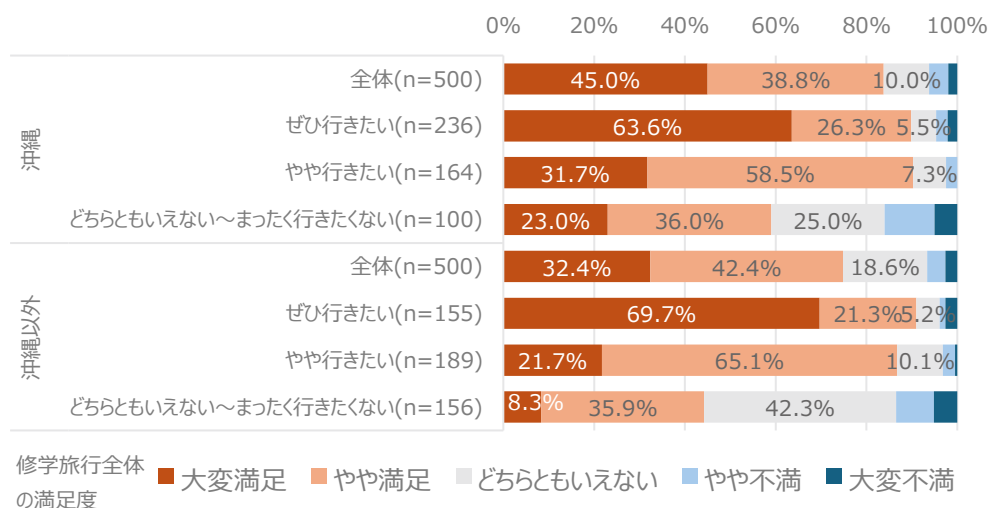
今後の再来訪意向別にみると、「ぜひ行きたい」層では、沖縄・沖縄以外ともに6～7割が「大変満足した」と回答した。

修学旅行での高い満足度は、その地域への興味関心の高まりや再来訪意向と強く結びついており、この関係性は沖縄・沖縄以外のいずれの行き先でも共通してみられた。

修学旅行先の地域への興味関心の影響×修学旅行全体の満足度



修学旅行の地域への今後の再来訪意向×修学旅行全体の満足度

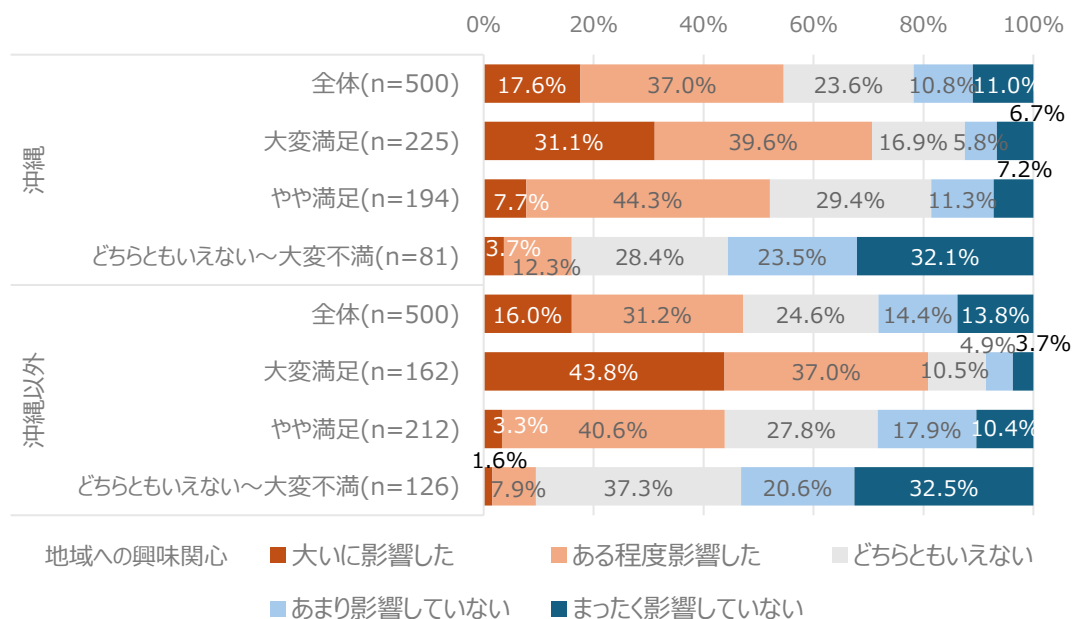


⑤ 修学旅行経験による当該地域への興味関心の影響

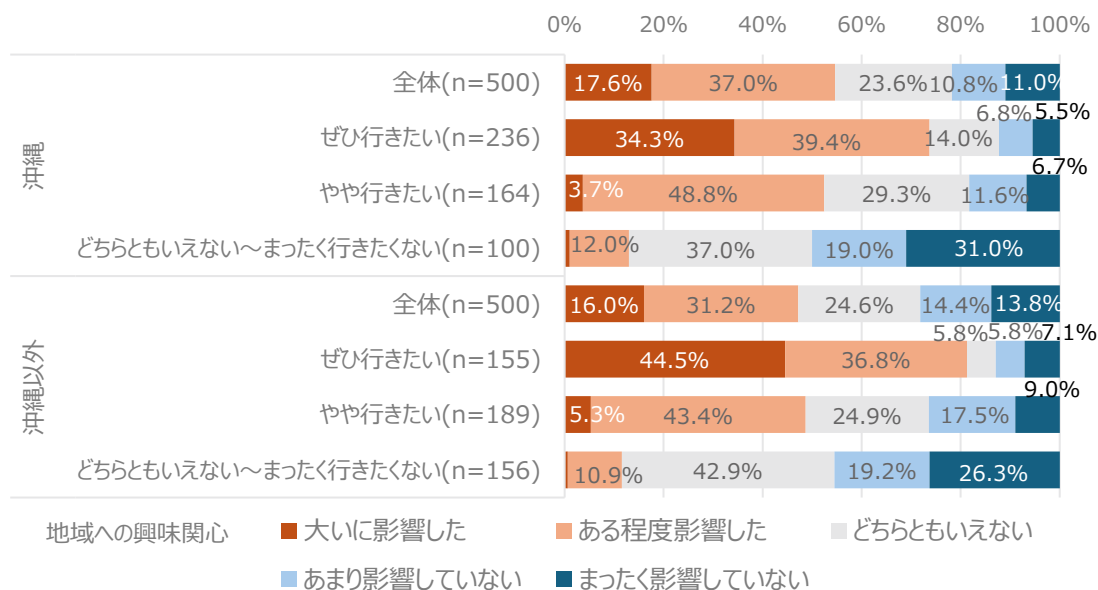
修学旅行の満足度別に、修学旅行が当該地域への興味・関心に与えた影響度をみると、行き先にかかわらず、全体の満足度が高いほど「大いに影響した」「ある程度影響した」と回答する割合が高い。

今後の再来訪意向別にみても同様で、行きたい層（「ぜひ行きたい」＋「やや行きたい」）では、沖縄・沖縄以外とともに 7～8 割が修学旅行の経験がその後の興味・関心に影響したと回答した。

修学旅行全体の満足度×修学旅行先の地域への興味関心の影響



修学旅行先の地域への今後の再来訪意向×修学旅行先の地域への興味関心の影響

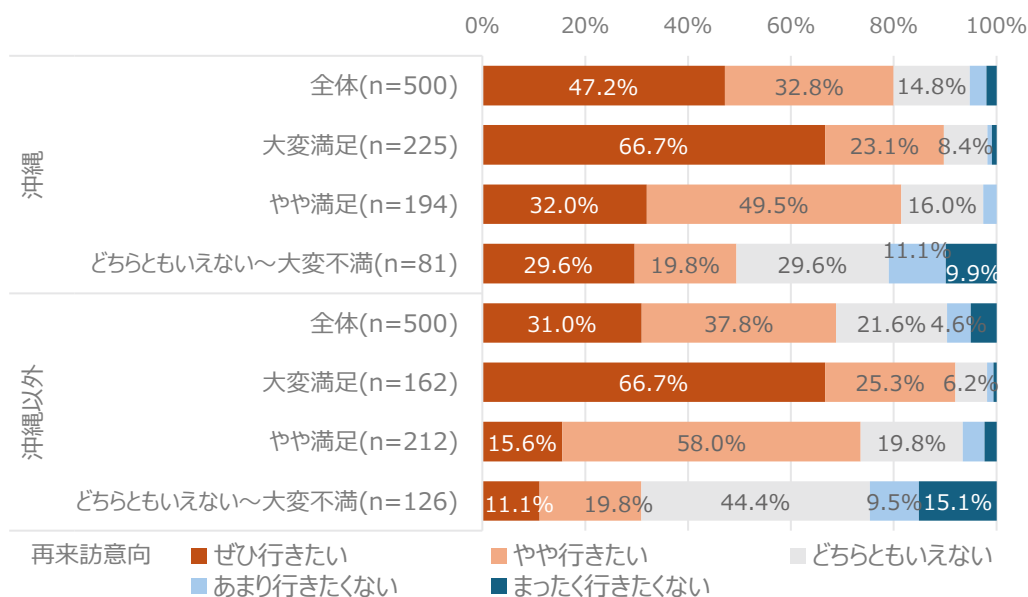


⑥ 修学旅行先への再来訪意向

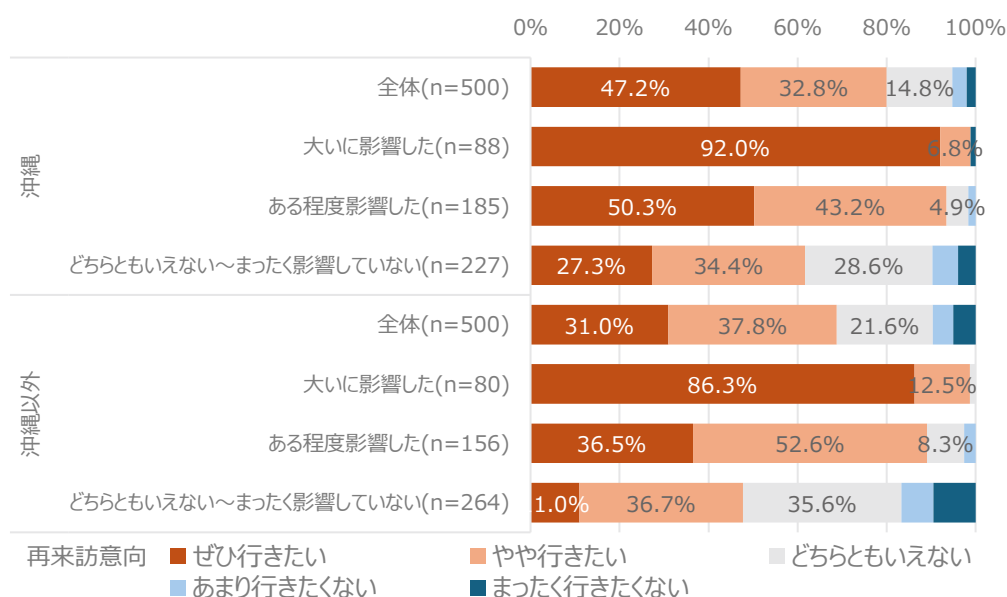
修学旅行の満足度別に、今後の修学旅行先への再来訪意向をみると、行き先にかかわらず、全体の満足度が高いほど「ぜひ行きたい」と回答した割合が高い。再来訪意向を醸成するには、「大変満足」レベルの体験を提供することが重要である。

修学旅行が当該地域への興味・関心に与えた影響度別にみても、「大いに影響した」と回答した人は、沖縄・沖縄以外ともに、約 9 割が当該地域に「ぜひ（再び）訪れたい」と回答した。

修学旅行全体の満足度×修学旅行先への今後の再来訪意向



修学旅行先の地域への興味関心の影響×修学旅行先への今後の再来訪意向



⑦ 修学旅行先での体験とプライベート旅行での体験

プライベートでの訪沖経験有無別に沖縄での修学旅行における体験をみたところ、両者に大きな差異はみられなかった。

一方、修学旅行での訪沖経験の有無によって、プライベート旅行時の体験内容に明確な差がみられ、修学旅行訪沖経験者は、非経験者よりも多くの項目で実施率が高い。特に差が大きいのは、「食べ歩き・飲み歩き」、「ショッピング」、「テーマパーク・水族館等への訪問」、「海水浴・ビーチ」、「SNS 映えるスポット巡り」など、レジャー・消費に関する項目であった。修学旅行での体験は「沖縄で楽しめること」のレパートリーを広げ、その後のプライベート旅行での活動の選択肢を増やすきっかけとなっている可能性が示唆される。

直近の沖縄での修学旅行で体験したこと（複数回答）と
プライベートでの訪沖経験の有無

直近の沖縄での修学旅行で体験したこと（複数回答）	直近の沖縄での修学旅行で体験したこと		
	プライベート 訪沖あり n=250	プライベート 訪沖なし n=250	全体 n=500
ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	55.2%	58.8%	57.0%
地域ならではの土産品や食品の購入	48.8%	58.4%	53.6%
戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問	50.8%	52.4%	51.6%
テーマパーク・レジャーランド・水族館・博物館・行政／公共施設等への訪問	51.6%	51.2%	51.4%
ショッピング	47.2%	52.0%	49.6%
伝統・郷土料理の実食	43.6%	45.6%	44.6%
遺跡・史跡・文化財・社寺等の見学	41.6%	42.0%	41.8%
海水浴・ビーチで過ごした	43.6%	38.4%	41.0%
平和学習（語り部などによる体験講話含む）	39.6%	41.2%	40.4%
民泊・民宿・ゲストハウス・ホームステイ等での滞在で地元の方々と交流した	28.0%	32.4%	30.2%
訪問前後に書籍やWeb等で地域について調べた	28.8%	31.2%	30.0%
バナナボート・パラセーリングなど（ボートで牽引されるアクティビティ）	28.0%	24.8%	26.4%
伝統的町並みや建造物群保存地区の見学（まち歩きを含む）	22.8%	26.4%	24.6%
伝統文化・伝統芸能体験（茶道・着付け・三味線・船漕ぎ・エイサー等含む）	28.0%	16.4%	22.2%
地域生活の体験（郷土料理作り、方言を学ぶなど）	20.0%	22.4%	21.2%
離島を訪れた	17.2%	23.2%	20.2%
景勝地の訪問	23.6%	14.8%	19.2%
シュノーケリング	22.0%	15.6%	18.8%
伝統工芸体験（絵付け・焼き物・染め物など）	22.0%	15.6%	18.8%
カヤック・カヌー・SUP（スタンドアップパドル）、サーフィン・ボディボードなど	17.6%	14.4%	16.0%
訪問前後に講師や地域のひとと対面またはオンラインで交流した	15.2%	12.0%	13.6%
ボート遊覧（グラスボート、サンセット・花火クルーズなど）	13.2%	5.6%	9.4%
ダイビング	11.2%	7.2%	9.2%
星空観察	11.2%	6.8%	9.0%
職場訪問・職場体験・職業講話・工場見学など	11.6%	5.2%	8.4%
SDGs・環境学習（ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等）	9.2%	7.2%	8.2%
地域の祭り・地域イベントへの参加	9.6%	6.4%	8.0%
ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	10.4%	4.0%	7.2%
ハイキング・トレッキング	9.6%	4.4%	7.0%
サイクリング（ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む）	10.8%	2.8%	6.8%
スポーツ大会・合宿・キャンプの参加／応援／観戦／見学	8.0%	4.4%	6.2%
震災学習、防災学習	8.8%	3.6%	6.2%
地元の学生との交流	7.6%	4.4%	6.0%
国際交流（外国人との交流、留学生との活動など）	9.6%	2.4%	6.0%
イルカ・ホエールウォッチング	7.2%	4.0%	5.6%
ボランティア体験	6.8%	3.2%	5.0%
農林漁業体験	6.4%	3.2%	4.8%
スキー・スノーボード・スケート等	6.4%	2.4%	4.4%
釣り	4.4%	2.0%	3.2%

	学び・文化・生活・産業 等
	自然・アクティビティ系
	観光・消費・交流・滞在 等

	全体より10ポイント以上高い値
	全体より5ポイント以上高い値

	全体より5ポイント以上低い値
	全体より10ポイント以上低い値

**直近の沖縄でのプライベート旅行で体験したこと（複数回答）と
修学旅行での訪沖経験の有無**

直近の沖縄での プライベート旅行 で体験したこと（複数回答）	直近の沖縄での プライベート旅行 で体験したこと		
	修学旅行 訪沖あり n=250	修学旅行 訪沖なし n=250	全体 n=500
食べ歩き・飲み歩き	51.6%	36.8%	44.2%
沖縄の郷土料理や沖縄独自の食材・料理を食べた	45.6%	37.6%	41.6%
ショッピング	42.8%	31.6%	37.2%
ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	36.4%	34.4%	35.4%
テーマパーク・レジャーランド・水族館・博物館・行政／公共施設等への訪問	42.4%	25.6%	34.0%
海水浴・ビーチで過ごした	38.8%	25.2%	32.0%
地域ならではの土産品や食品の購入	33.6%	28.0%	30.8%
城（グスク）・史跡・文化財・社寺等の見学	24.0%	24.4%	24.2%
景勝地の訪問	22.8%	20.8%	21.8%
伝統的町並みや集落、風情ある細い路地や裏道の見学・まち歩き	20.8%	22.0%	21.4%
ドライブ	24.8%	17.6%	21.2%
S N S 映えるスポット巡り	27.2%	12.0%	19.6%
戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問（体験講話含む）	20.8%	18.0%	19.4%
シュノーケリング	24.0%	14.0%	19.0%
バナナボート・パラセーリングなど（ボートで牽引されるアクティビティ）	20.0%	13.6%	16.8%
離島を訪れた	18.0%	15.2%	16.6%
伝統工芸体験（絵付け・焼き物・染め物など）	18.4%	13.6%	16.0%
カヤック・カヌー・SUP（スタンドアップパドル）、サーフィン・ボディボードなど	18.0%	12.8%	15.4%
工場見学（ビール、泡盛、菓子、琉球ガラス、工房等）	13.6%	13.2%	13.4%
伝統文化・伝統芸能体験（琉装体験、三線・ハーリー・エイサー等含む）	12.4%	13.2%	12.8%
民泊・民宿・ゲストハウス等での滞在で地元の方々と交流した	12.4%	12.4%	12.4%
地域生活の体験（郷土料理作り、方言を学ぶなど）	10.8%	12.8%	11.8%
ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	9.6%	12.0%	10.8%
サイクリング（ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む）	8.4%	12.4%	10.4%
ボート遊覧（グラスボート、サンセット・花火クルーズなど）	8.4%	12.0%	10.2%
ダイビング	12.4%	7.2%	9.8%
星空観察	8.8%	10.4%	9.6%
ハイキング・トレッキング	8.0%	10.8%	9.4%
S D G s ・環境学習（ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等）	6.0%	10.8%	8.4%
地元の学生・住民との交流	8.4%	8.0%	8.2%
聖地巡礼や推し活等	8.0%	8.4%	8.2%
地域の祭り・地域イベントへの参加	8.0%	7.6%	7.8%
国際交流（外国人との交流、留学生との活動など）	6.0%	9.6%	7.8%
スポーツ大会・合宿・キャンプの参加／応援／観戦／見学	6.8%	8.4%	7.6%
釣り	9.6%	4.8%	7.2%
イルカ・ホエールウォッチング	6.0%	6.0%	6.0%
農林漁業体験	4.8%	6.4%	5.6%
リゾートウェディング（参列含む）	3.6%	6.8%	5.2%
ボランティア体験	5.2%	4.4%	4.8%

	学び・文化・生活・産業 等
	自然・アクティビティ系
	観光・消費・交流・滞在 等

	全体より10ポイント以上高い値
	全体より5ポイント以上高い値

	全体より5ポイント以上低い値
	全体より10ポイント以上低い値

沖縄における修学旅行とプライベート旅行の体験内容を比較すると、宿泊、飲食、テーマパーク、ショッピングといった基本的な観光行動は共通している。一方、修学旅行では平和学習や体験・交流などの体験、プライベート旅行では食べ歩き・飲み歩き、SNS 映えスポット巡りなど個人の嗜好に基づいた自由度の高い体験が特徴的である。

沖縄へのプライベート旅行の体験を訪問時期別にみると、大学生以降での訪問ほど食べ歩き・飲み歩きや郷土料理などの飲食体験の割合が高くなっており、成長に伴い、より主体的に自身の興味・関心に沿って体験内容を選ぶ傾向が強まることがうかがえる。

直近の沖縄での修学旅行・プライベート旅行で体験したことの比較

直近の沖縄での修学旅行で体験したこと（複数回答）	全体 n=500	直近の沖縄でのプライベート旅行で体験したこと（複数回答）	プライベート旅行 n=500	訪問時期			
				未就学～中学生 n=119	高校生 n=72	大学生・院生・専門学校生 n=111	社会人 n=198
ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	57.0%	食べ歩き・飲み歩き	44.2%	36.1%	40.3%	47.7%	48.5%
地域ならではの土産品や食品の購入	53.6%	沖縄の郷土料理や沖縄独自の食材・料理を食べた	41.6%	37.0%	27.8%	46.8%	46.5%
戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問	51.6%	ショッピング	37.2%	32.8%	34.7%	39.6%	39.4%
テーマパーク・ジャングル・水族館・博物館・行政／公共施設等への訪問	51.4%	ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	35.4%	34.5%	23.6%	30.6%	42.9%
ショッピング	49.6%	テーマパーク・ジャングル・水族館・博物館・行政／公共施設等への訪問	34.0%	32.8%	33.3%	35.1%	34.3%
伝統・郷土料理の美食	44.6%	海水浴・ビーチで過ごした	32.0%	38.7%	25.0%	32.4%	30.3%
遺跡・史跡・文化財・社寺等の見学	41.8%	地域ならではの土産品や食品の購入	30.8%	28.6%	27.8%	28.8%	34.3%
海水浴・ビーチで過ごした	41.0%	城（グスク）・史跡・文化財・社寺等の見学	24.2%	21.0%	23.6%	25.2%	25.8%
平和学習（語り部などによる体験講話含む）	40.4%	景勝地の訪問	21.8%	21.0%	11.1%	22.5%	25.8%
民泊・民宿・ゲストハウス・ホームステイ等での滞在で地元の方々と交流した	30.2%	伝統的町並みや集落、風情ある細い路地や裏道の見学・まち歩き	21.4%	18.5%	18.1%	25.2%	22.2%
訪問前後に書籍やWeb等で地域について調べた	30.0%	ドライブ	21.2%	14.3%	19.4%	23.4%	24.7%
バナナポート・パラセーリングなど（ボートで牽引されるアクティビティ）	26.4%	S N S 映えするスポット巡り	19.6%	8.4%	23.6%	27.9%	20.2%
伝統的町並みや建造物群保存地区の見学（まち歩きを含む）	24.6%	戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問（体験講話含む）	19.4%	15.1%	23.6%	18.0%	21.2%
伝統文化・伝統芸能体験（茶道・着付け・三味線・船漕ぎ・エイサー等含む）	22.2%	シュノーケリング	19.0%	14.3%	11.1%	18.9%	24.7%
地域生活の体験（郷土料理作り、方言を学ぶなど）	21.2%	バナナポート・パラセーリングなど（ボートで牽引されるアクティビティ）	16.8%	10.1%	25.0%	19.8%	16.2%
離島を訪れた	20.2%	離島を訪れた	16.6%	10.1%	11.1%	19.8%	20.7%
景勝地の訪問	19.2%	伝統工芸体験（絵付け・焼き物・染め物など）	16.0%	15.1%	18.1%	13.5%	17.2%
伝統工芸体験（絵付け・焼き物・染め物など）	18.8%	カヤック・カヌー・SUP（スタンドアップパドル）、サーフィン・ボディボードなど	15.4%	15.1%	12.5%	16.2%	16.2%
シュノーケリング	18.8%	工場見学（ビール、泡盛、菓子、琉球ガラス、工房等）	13.4%	7.6%	13.9%	18.9%	13.6%
カヤック・カヌー・SUP（スタンドアップパドル）、サーフィン・ボディボードなど	16.0%	伝統文化・伝統芸能体験（琉装体験、三線・ハーリー・エイサー等含む）	12.8%	10.9%	18.1%	9.9%	13.6%
訪問前後に講師や地域の人と対面またはオンラインで交流した	13.6%	民泊・民宿・ゲストハウス等での滞在で地元の方々で交流した	12.4%	12.6%	15.3%	14.4%	10.1%
ボート遊覧（グラスボート、サンセット・花火クルーズなど）	9.4%	地域生活の体験（郷土料理作り、方言を学ぶなど）	11.8%	12.6%	6.9%	15.3%	11.1%
ダイビング	9.2%	ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	10.8%	8.4%	12.5%	9.9%	12.1%
星空観察	9.0%	サイクリング（ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む）	10.4%	6.7%	12.5%	12.6%	10.6%
職場訪問・職場体験・職業講話・工場見学など	8.4%	ボート遊覧（グラスボート、サンセット・花火クルーズなど）	10.2%	9.2%	11.1%	10.8%	10.1%
S D G s・環境学習（ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等）	8.2%	ダイビング	9.8%	6.7%	15.3%	8.1%	10.6%
地域の祭り・地域イベントへの参加	8.0%	星空観察	9.6%	5.9%	9.7%	8.1%	12.6%
ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	7.2%	ハイキング・トレッキング	9.4%	8.4%	15.3%	12.6%	6.1%
ハイキング・トレッキング	7.0%	S D G s・環境学習（ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等）	8.4%	5.9%	11.1%	9.0%	8.6%
サイクリング（ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む）	6.8%	地元の学生・住民との交流	8.2%	5.0%	9.7%	9.0%	9.1%
震災学習、防災学習	6.2%	聖地巡礼や推し活等	8.2%	5.9%	6.9%	11.7%	8.1%
スポーツ大会・合宿・キャンプの参加／応援／観戦／見学	6.2%	地域の祭り・地域イベントへの参加	7.8%	7.6%	9.7%	7.2%	7.6%
地元の学生との交流	6.0%	国際交流（外国人との交流、留学生との活動など）	7.8%	5.0%	12.5%	9.0%	7.1%
国際交流（外国人との交流、留学生との活動など）	6.0%	スポーツ大会・合宿・キャンプの参加／応援／観戦／見学	7.6%	5.0%	11.1%	9.9%	6.6%
イルカ・ホエールウォッチング	5.6%	釣り	7.2%	5.9%	5.6%	8.1%	8.1%
ボランティア体験	5.0%	イルカ・ホエールウォッチング	6.0%	6.7%	11.1%	2.7%	5.6%
農林漁業体験	4.8%	農林漁業体験	5.6%	4.2%	15.3%	3.6%	4.0%
スキー・スノーボード・スケート等	4.4%	リゾートウェディング（参列含む）	5.2%	4.2%	6.9%	2.7%	6.6%
釣り	3.2%	ボランティア体験	4.8%	2.5%	6.9%	3.6%	6.1%
総合満足度得点	4.21	総合満足度得点	4.29	4.24	4.14	4.34	4.35

学び・文化・生活・産業 等
自然・アクティビティ系
観光・消費・交流・滞在 等

全体より10ポイント以上高い値
全体より5ポイント以上高い値

全体より5ポイント以上低い値
全体より10ポイント以上低い値

(2) Z世代が重視する経験価値

① “つながる旅”、“帰る旅”の経験

【“つながる旅”、“帰る旅”の経験有無】

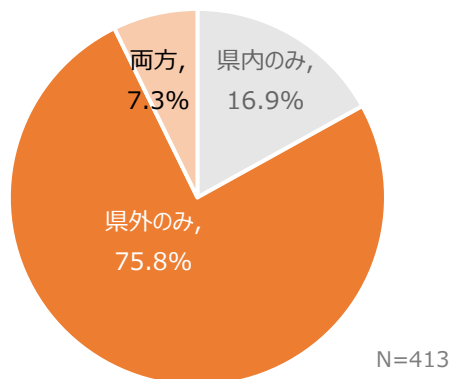
本調査回答者のZ世代の41.3%が「継続的な繋がりがある地域、第二のふるさとのように感じる地域がある」と回答した。「今はないが、今後作りたい」を含めると、62.9%が“つながる旅”・“帰る旅”の意向があり、性別でみると、男性のほうがその意向が強い。

居住地と“つながる旅”・“帰る旅”の対象地域の関係については、同一県内（県内のみ＋両方）が約1／4、県外が約3／4を占めた。地方単位でみると、同一地方内、地方外がそれぞれ約半数ずつであった。

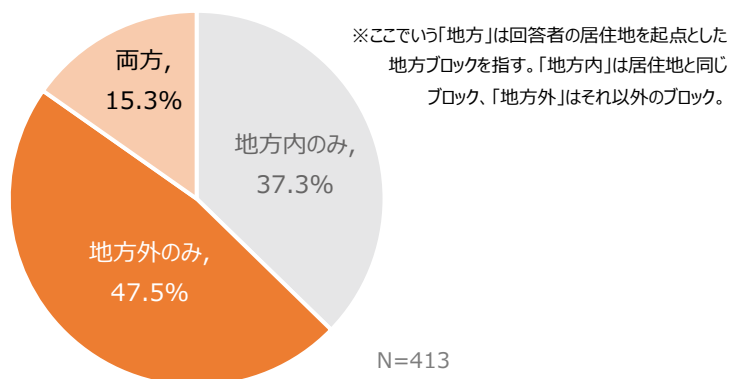
継続的な繋がりがある地域、第二のふるさとのように感じる地域の有無

継続的な繋がりがある地域、第二のふるさとのように感じる地域の有無	性別		年齢		全体 n=1000
	男性 n=447	女性 n=553	18～24歳 n=335	25～29歳 n=665	
継続的な繋がりがある地域、第二のふるさとのように感じる地域がある	45.4%	38.0%	42.4%	40.8%	41.3%
今はないが、今後作りたい	22.1%	21.2%	20.3%	22.3%	21.6%
今はないし、今後も必要性を感じない	15.0%	19.7%	16.7%	18.0%	17.6%
わからない	17.4%	21.2%	20.6%	18.9%	19.5%

居住地と“つながる旅”・“帰る旅”の対象地域の関係（都道府県単位）



居住地と“つながる旅”・“帰る旅”の対象地域の関係（地方単位）



【地域との繋がり状況】

地域との繋がり状況として最も多いのは「プライベート旅行で訪問して、地元の人や店、コミュニティと関係ができた」（27.1%）であり、「親戚や友人が住んでいて、繰り返し訪問する」（25.7%）が続く。「修学旅行や学校行事で訪問して、地元の人や店、コミュニティと関係ができた」は 14.5%で、修学旅行も繋がりを作る一つのきっかけとなっている。

性別では、男性がイベント・学校行事等の活動、女性が趣味・居住経験等のライフスタイルが起点の傾向がある。年代別では、18-24 歳は SNS 活用が目立つ一方、25-29 歳は祭り等の能動的な行動が関係構築に寄与している。

地域との繋がり状況

【あると回答した人のみ】 地域との繋がり状況（複数回答）	性別		年齢		全体 n=413
	男性 n=203	女性 n=210	18～24歳 n=142	25～29歳 n=271	
プライベート旅行で訪問して、地元の人や店、コミュニティと関係ができた地域がある	27.1%	27.1%	24.6%	28.4%	27.1%
親戚や友人が住んでいて、繰り返し訪問する地域がある	24.6%	26.7%	27.5%	24.7%	25.7%
特定の趣味や活動で定期的に訪れる地域がある	21.2%	27.1%	21.1%	25.8%	24.2%
かつて住んだことがあり、知人がいるなど繋がっている地域がある	16.7%	22.9%	15.5%	22.1%	19.9%
修学旅行や学校行事で訪問して、地元の人や店、コミュニティと関係ができた地域がある	17.2%	11.9%	14.1%	14.8%	14.5%
仕事と旅行を組み合わせで関係ができた地域がある	13.3%	12.9%	12.7%	13.3%	13.1%
SNSやオンラインコミュニティを通じて関係ができた地域がある	14.3%	11.4%	17.6%	10.3%	12.8%
特定の活動やプロジェクトに関わっている地域がある	14.8%	9.5%	10.6%	12.9%	12.1%
出張で訪問して、取引先の人、訪れたお店等やコミュニティと関係ができた地域がある	9.9%	10.5%	7.7%	11.4%	10.2%
祭りやイベント参加のために、定期的に訪問する地域がある	12.3%	7.1%	4.2%	12.5%	9.7%
「地域おこし協力隊」など、特定の場所や制度を通じて関係ができた地域がある	9.9%	8.1%	11.3%	7.7%	9.0%
災害ボランティアなど、特定の目的で訪問した地域がある	10.3%	5.7%	8.5%	7.7%	8.0%
将来の移住先・二拠点居住の候補地としてお試しで訪問している地域がある	9.4%	6.2%	7.0%	8.1%	7.7%
ワーケーション、二拠点居住などで利用している地域がある	6.9%	8.1%	8.5%	7.0%	7.5%
その他	0.5%	1.0%	1.4%	0.4%	0.7%

全体より10ポイント以上高い値
全体より5ポイント以上高い値

全体より5ポイント以上低い値
全体より10ポイント以上低い値

【沖縄を選択した人の概要】

継続的な繋がりがある地域、第二のふるさとのように感じる地域として「沖縄」を選択した人の基本属性をみると、沖縄以外を選択した人と比べ、修学旅行での訪沖経験率、プライベートでの訪沖経験率が高い。

「沖縄」を選択した人の地域との繋がりの状況については、プライベート旅行、修学旅行、地域おこし協力隊など、SNS などを通じた関係といったきっかけが全体に比べて高い。

継続的な繋がりがある地域、第二のふるさとのように感じる地域として 「沖縄」を選択した人の基本属性

	性別		年齢		直近の修学旅行の行先		プライベート訪沖の有無	
	男性	女性	18～24歳	25～29歳	沖縄	沖縄以外	プライベート訪沖あり	プライベート訪沖なし
沖縄 (n=44)	52.3%	47.7%	43.2%	56.8%	65.9%	34.1%	90.9%	9.1%
沖縄以外 (n=369)	48.8%	51.2%	33.3%	66.7%	45.8%	54.2%	60.2%	39.8%

	訪沖経験			
	修学旅行での訪沖あり ／プライベート訪沖あり	修学旅行での訪沖あり ／プライベート訪沖なし	修学旅行での訪沖なし ／プライベート訪沖あり	修学旅行での訪沖なし ／プライベート訪沖なし
沖縄 (n=44)	61.4%	4.5%	29.5%	4.5%
沖縄以外 (n=369)	24.9%	20.9%	35.2%	19.0%

(参考)	性別		年齢		直近の修学旅行の行先	
	男性	女性	18～24歳	25～29歳	北海道	北海道以外
北海道 (n=38)	60.5%	39.5%	44.7%	55.3%	15.8%	84.2%
北海道以外 (n=375)	48.0%	52.0%	33.3%	66.7%	7.2%	92.8%

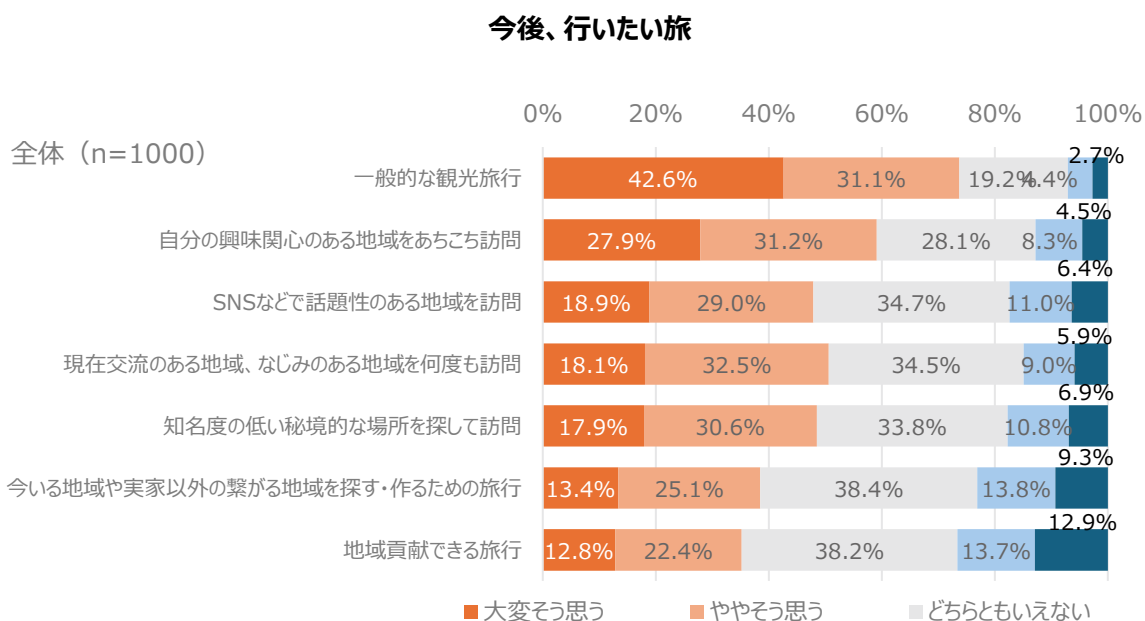
継続的な繋がりがある地域、第二のふるさとのように感じる地域として 「沖縄」を選択した人の地域との繋がりの状況

	沖縄 (n=44)	(参考) 北海道 (n=38)	全体 (n=413)
プライベート旅行で訪問して、地元の人や店、コミュニティと関係ができた地域がある	40.9%	36.8%	27.1%
特定の趣味や活動で定期的に訪れる地域がある	31.8%	31.6%	24.2%
親戚や友人が住んでいて、繰り返し訪問する地域がある	29.5%	26.3%	25.7%
修学旅行や学校行事で訪問して、地元の人や店、コミュニティと関係ができた地域がある	29.5%	21.1%	14.5%
「地域おこし協力隊」など、特定の場所や制度を通じて関係ができた地域がある	25.0%	13.2%	9.0%
SNSやオンラインコミュニティを通じて関係ができた地域がある	25.0%	15.8%	12.8%
仕事と旅行を組み合わせで関係ができた地域がある	22.7%	21.1%	13.1%
ワーケーション、二拠点居住などで利用している地域がある	18.2%	15.8%	7.5%
出張で訪問して、取引先の人、訪れたお店等やコミュニティと関係ができた地域がある	15.9%	10.5%	10.2%
かつて住んだことがあり、知人がいるなど繋がっている地域がある	13.6%	15.8%	19.9%
将来の移住先・二拠点居住の候補地としてお試しで訪問している地域がある	13.6%	13.2%	7.7%
祭りやイベント参加のために、定期的に訪問する地域がある	13.6%	18.4%	9.7%
特定の活動やプロジェクトに関わっている地域がある	11.4%	21.1%	12.1%
災害ボランティアなど、特定の目的で訪問した地域がある	6.8%	5.3%	8.0%
その他	0.0%	0.0%	0.7%

注）複数回答可のため、沖縄と他県を併せて選択している場合、その理由は他県に該当する可能性がある。

② 今後、行いたい旅

今後、行いたい旅では、属性問わず「一般的な観光旅行」が最上位となり、次いで、「自分の興味関心のある地域をあちこち訪問」が続いた。一方で、「現在交流のある地域、なじみのある地域を何度も訪問」や「繋がる地域を探す・作るための旅行」、「地域貢献できる旅行」も、3～5 割が実施意向（「大変そう思う」+「ややそう思う」）を示した。



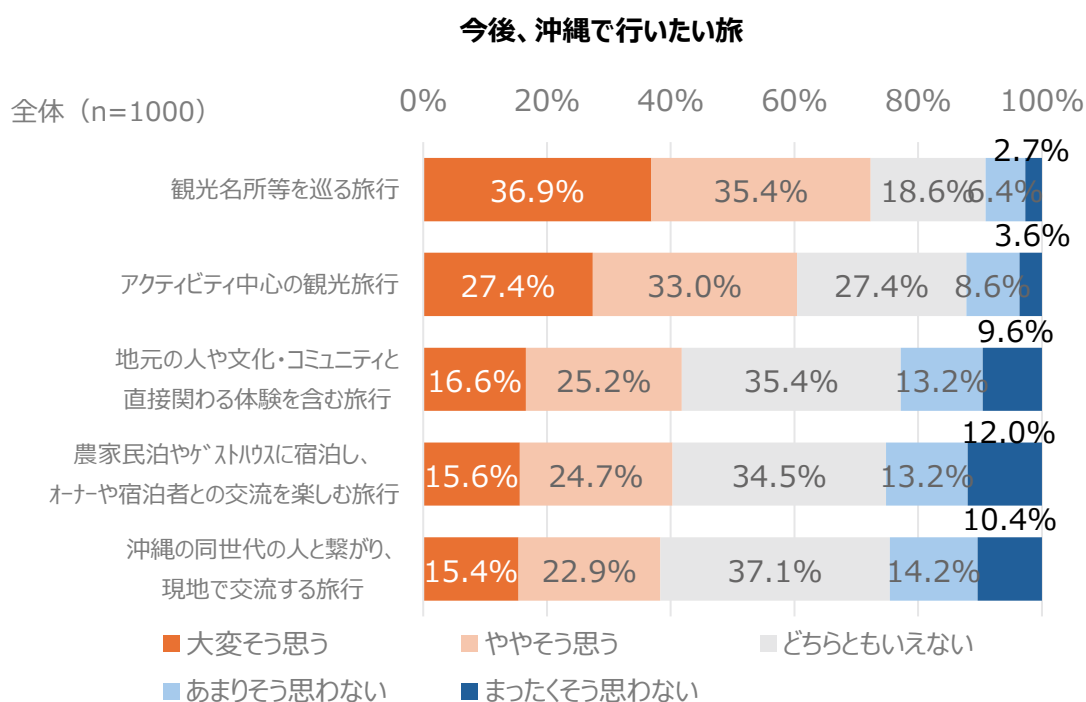
今後、行いたい旅の、「大変そう思う」「そう思う」の性別・年齢別割合

今後、行いたい旅	性別		年齢	
	男性 (n=447)	女性 (n=553)	18～24歳 (n=335)	25～29歳 (n=665)
一般的な観光旅行	72.3%	74.9%	71.9%	74.6%
自分の興味関心のある地域をあちこち訪問	59.5%	58.8%	61.8%	57.7%
SNSなどで話題性のある地域を訪問	44.5%	50.6%	50.7%	46.5%
現在交流のある地域、なじみのある地域を何度も訪問	55.7%	46.5%	51.9%	49.9%
知名度の低い秘境的な場所を探して訪問	53.5%	44.5%	50.7%	47.4%
今いる地域や実家以外の繋がる地域を探す・作るための旅行	42.7%	35.1%	42.7%	36.4%
地域貢献できる旅行	40.0%	31.3%	39.4%	33.1%

③ 今後、沖縄で行いたい旅

今後、沖縄で行いたい旅においても、属性問わず「観光名所等を巡る旅行」、「アクティビティ中心の観光旅行」といった一般的な観光が上位となった。一方で、「地元の人や文化・コミュニティと直接関わる体験を含む旅行」や「農家民泊やゲストハウスに宿泊し、オーナーや宿泊者との交流を楽しむ旅行」、「沖縄の同世代の人と繋がり、現地で交流する旅行」といった地域との交流を志向する旅行も、約 4 割が実施意向（「大変そう思う」+「ややそう思う」）を示した。

訪沖経験別にみると、プライベートでの訪沖経験者は、「地元の人や文化・コミュニティと直接関わる体験を含む旅行」、「農家民泊やゲストハウスに宿泊し、オーナーや宿泊者との交流を楽しむ旅行」、「沖縄の同世代の人と繋がり、現地で交流する旅行」の実施意向が未経験者に比べて高く、地域との交流を求めていることが示唆される。



今後、沖縄で行いたい旅の、「大変そう思う」「そう思う」の性別・年齢・訪沖経験別割合

	性別		年齢		訪沖経験			
	男性 (n=447)	女性 (n=553)	18～24歳 (n=335)	25～29歳 (n=665)	修学旅行あり/ プライベートあり (n=250)	修学旅行あり/ プライベートなし (n=250)	修学旅行なし/ プライベートあり (n=250)	修学旅行なし/ プライベートなし (n=250)
観光名所等を巡る旅行	70.9%	73.4%	73.1%	71.9%	76.8%	72.4%	69.6%	70.4%
アクティビティ中心の観光旅行	62.4%	58.8%	63.6%	58.8%	71.2%	52.0%	62.8%	55.6%
地元の人や文化・コミュニティと直接関わる体験を含む旅行	44.3%	39.8%	45.4%	40.0%	47.2%	30.4%	50.0%	39.6%
農家民泊やゲストハウスに宿泊し、オーナーや宿泊者との交流を楽しむ旅行	43.2%	38.0%	40.6%	40.2%	46.4%	32.0%	48.0%	34.8%
沖縄の同世代の人と繋がり、現地で交流する旅行	40.9%	36.2%	39.1%	37.9%	40.8%	28.4%	48.0%	36.0%

(3) Z世代の旅行先における短期・単発の就労形態の活用意向

① 短期・単発の就労経験

本調査回答者の45.8%が短期・単発の就労経験がある(「居住地や職場の近くで経験がある」+「居住地や職場から離れた場所で経験がある」+「いずれも経験がある」の合計)と回答した。居住地や職場の近くでの経験が多いが、16.8%は居住地から離れた場所での経験がある(「居住地や職場から離れた場所で経験がある」+「いずれも経験がある」の合計)。

性別・年齢による大きな差は見られないが、訪沖経験では差が見られた。特に、「修学旅行なし／プライベートあり」は、居住地から離れた場所での就労経験が全体平均の約2倍に達している。プライベートで沖縄を訪れる層はアクティブ層と推測され、旅先や遠隔地での短期就労に対して心理的ハードルも低い傾向にある。

短期・単発の就労経験

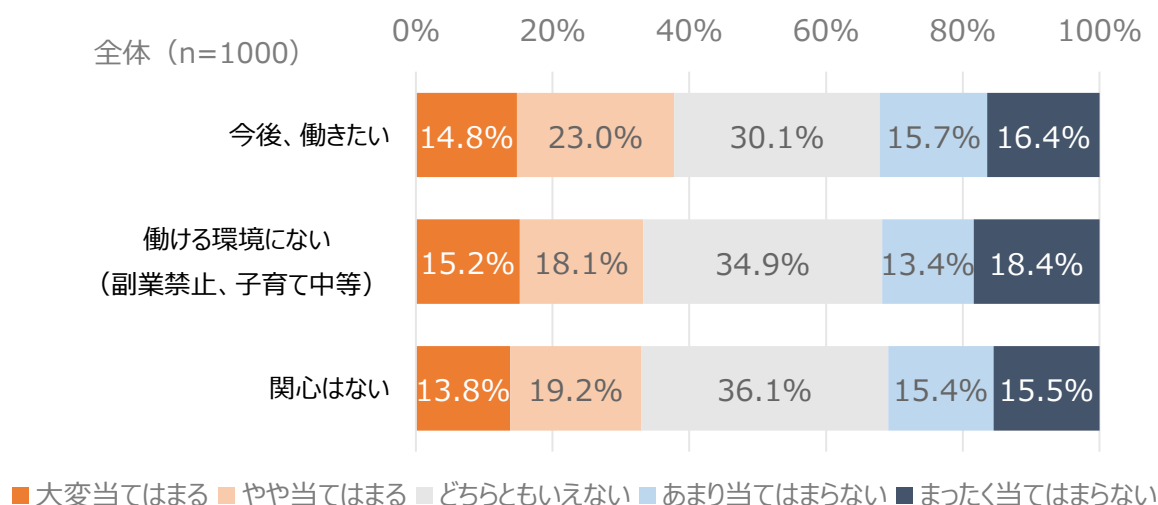
	性別		年齢		訪沖経験				全体 n=1000
	男性 n=447	女性 n=553	18～24歳 n=335	25～29歳 n=665	修学旅行あり／ プライベートあり n=250	修学旅行あり／ プライベートなし n=250	修学旅行なし／ プライベートあり n=250	修学旅行なし／ プライベートなし n=250	
居住地や職場の近くで 経験がある	29.8%	28.4%	31.9%	27.5%	31.6%	31.2%	30.4%	22.8%	29.0%
居住地や職場から離れた 場所で経験がある	14.5%	11.2%	11.0%	13.5%	15.2%	3.6%	24.4%	7.6%	12.7%
いずれも経験がある	4.7%	3.6%	3.9%	4.2%	3.6%	2.4%	6.8%	3.6%	4.1%
経験はない	51.0%	56.8%	53.1%	54.7%	49.6%	62.8%	38.4%	66.0%	54.2%

全体より10ポイント以上高い値
 全体より5ポイント以上高い値
 全体より5ポイント以上低い値
 全体より10ポイント以上低い値

② 旅行先での短期・単発の就労意向

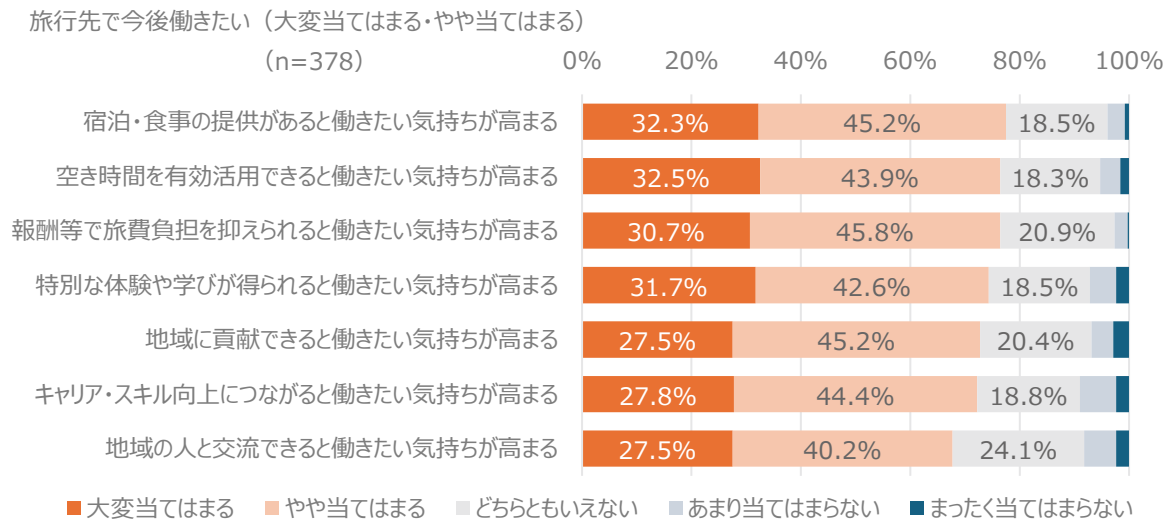
旅行先で今後、働きたい意向がある層(「大変当てはまる」+「やや当てはまる」)は本調査回答者のZ世代では37.8%存在する。

旅行先での短期・単発の就労意向



旅行先での就労意向がある Z 世代に対して、どのような条件があれば意欲が高まるかを整理したところ(「大変当てはまる」+「やや当てはまる」)、トップ 3 は「宿泊・食事の提供」(77.5%)、「報酬で旅費を抑えられる」(76.5%)、「空き時間の有効活用」(76.4%)となった。次いで、「特別な体験や学び」(74.3%)も高く支持された。実利だけでなく、社会貢献や自己成長を求める働き方も一定のニーズがある。

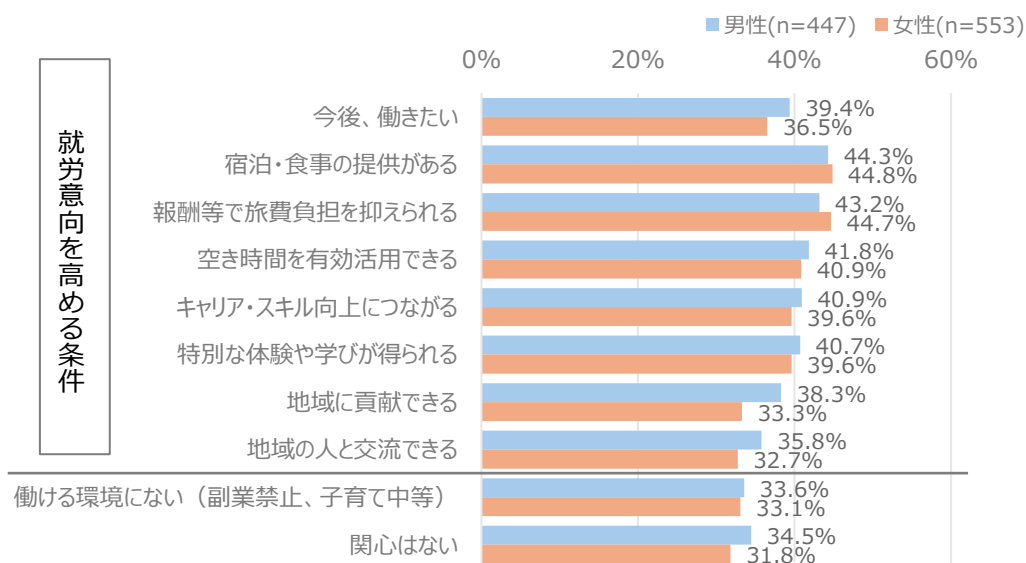
旅行先での短期・単発の就労意向を高める条件



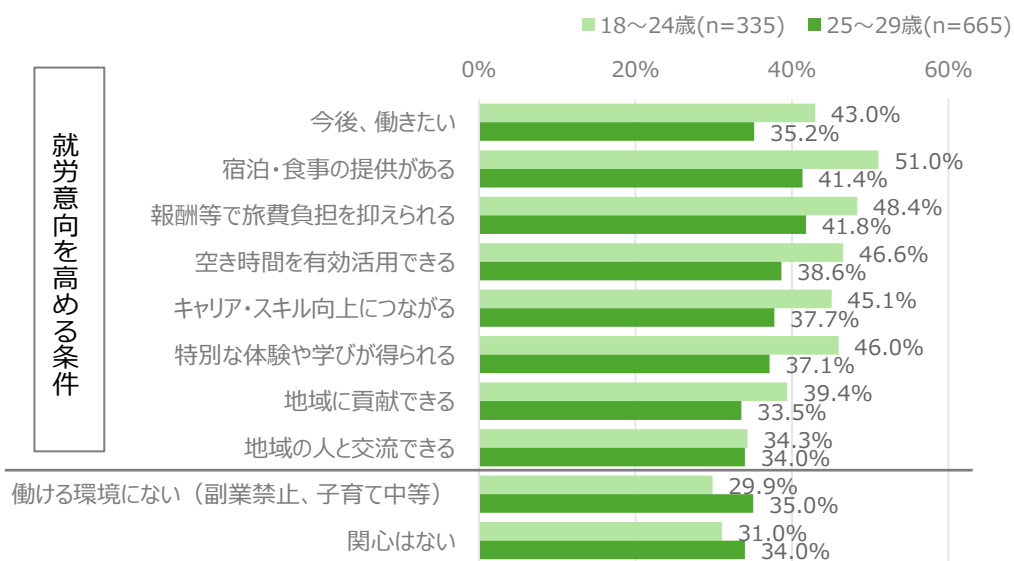
性別による大きな差はみられないが、年齢別では 18～24 歳（学生・社会人初期）の就労意欲が高い結果となった。

就労意向を高める条件としては、特に 18～24 歳では、「宿泊・食事の提供」が過半数に達し、「報酬等で旅費負担を抑えられる」も高いことから、旅先での就労は旅行コストを抑える有効な手段として認識されている。「特別な体験や学び」への関心も高く、お得に滞在できる、かつ、そこでしかできない体験があることが、就労意向を高める要因となっている。

性別（大変当てはまる＋当てはまる）



年齢別（大変当てはまる＋当てはまる）

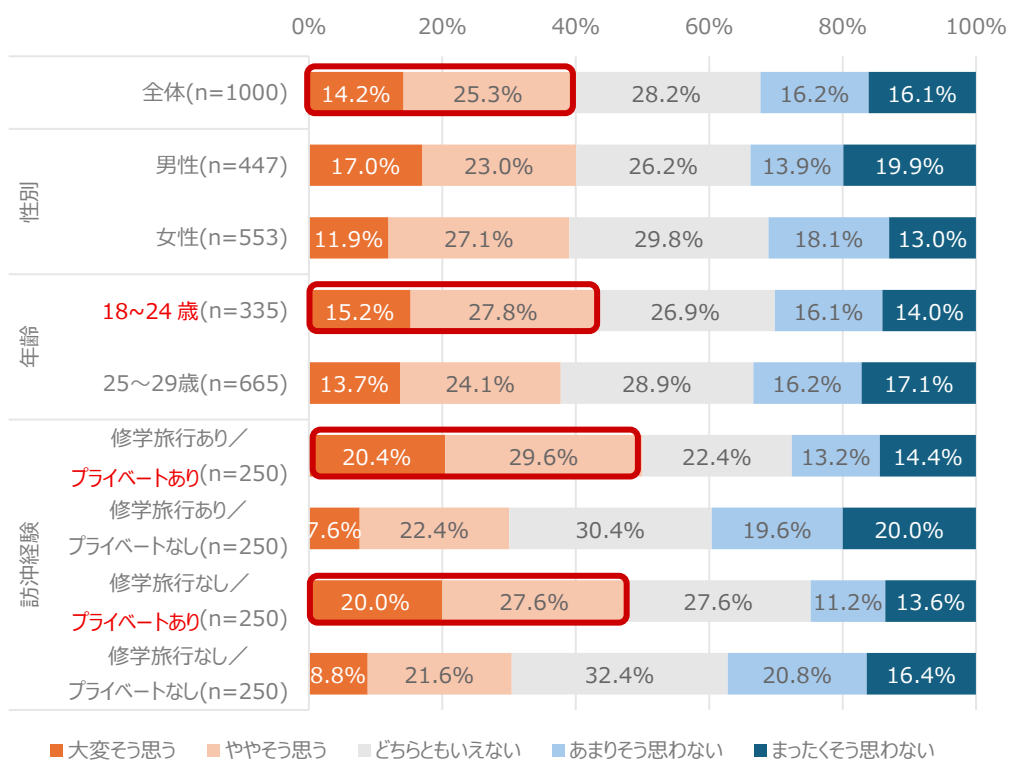


③ 旅行先決定における短期・単発就労の影響

短期・単発の就労ができることが、旅行実施の有無や旅行先を決定する動機になると思うかを尋ねたところ、全体の 39.5%（「大変そう思う+ややそう思う」）が、旅行先決定に影響すると回答した。

性別には大きな差はみられないが、年齢別では 18～24 歳のほうがその意識が強い。訪沖経験別では「プライベートでの来訪経験がある層（修学旅行の有無問わず）」は、約半数が影響を受けると回答した。

短期・単発の就労ができることが、旅行実施の有無や旅行先を決定する動機になると思うか

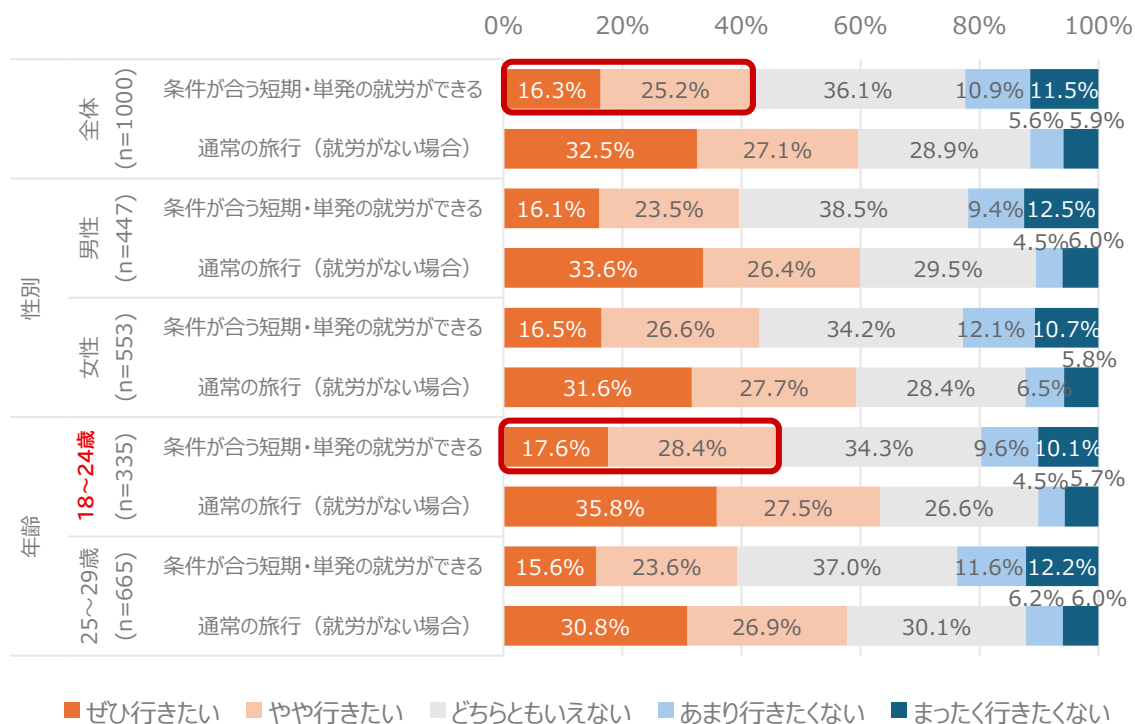


④ 沖縄旅行検討における短期・単発就労の影響

沖縄旅行を検討する際、短期・単発の就労ができることによって訪問意向に違いがあるかを尋ねたところ、「通常の旅行」と比較すると数値は下がるものの、それでも 41.5%（「ぜひ行きたい」+「やや行きたい」）が「短期・単発の就労ができる」ことに意欲を示した。

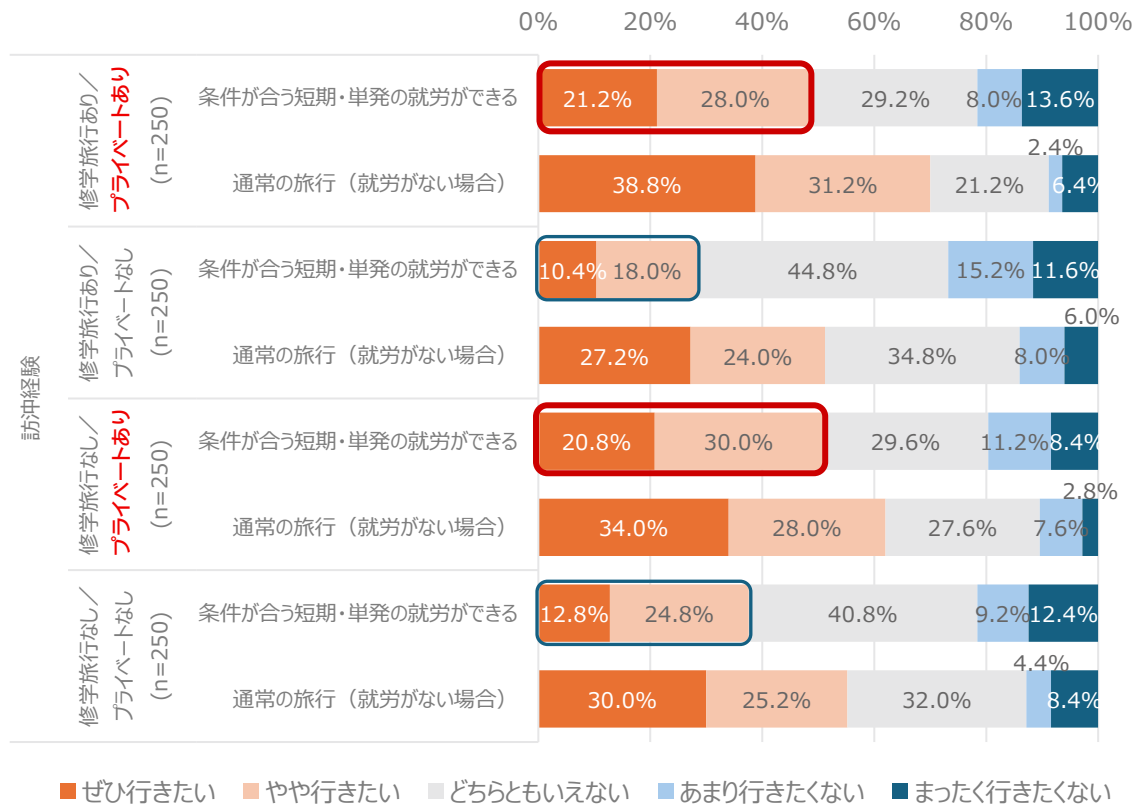
性別、年代でみると、特に 18～24 歳で「短期・単発の就労ができる」ことに比較的高い来訪意向を示した。

沖縄旅行を検討する際、短期・単発の就労ができることによって訪問意向に違いがあるか



過去にプライベートで沖縄を訪れた経験がある層は、短期・単発の就労ができる旅行に対しても約 5 割が「行きたい（ぜひ行きたい+やや行きたい）」と回答し、高い意欲を示した。一方、「修学旅行のみ（プライベートなし）」層は 3 割未満、「訪沖経験なし」層も 4 割にとどまった。

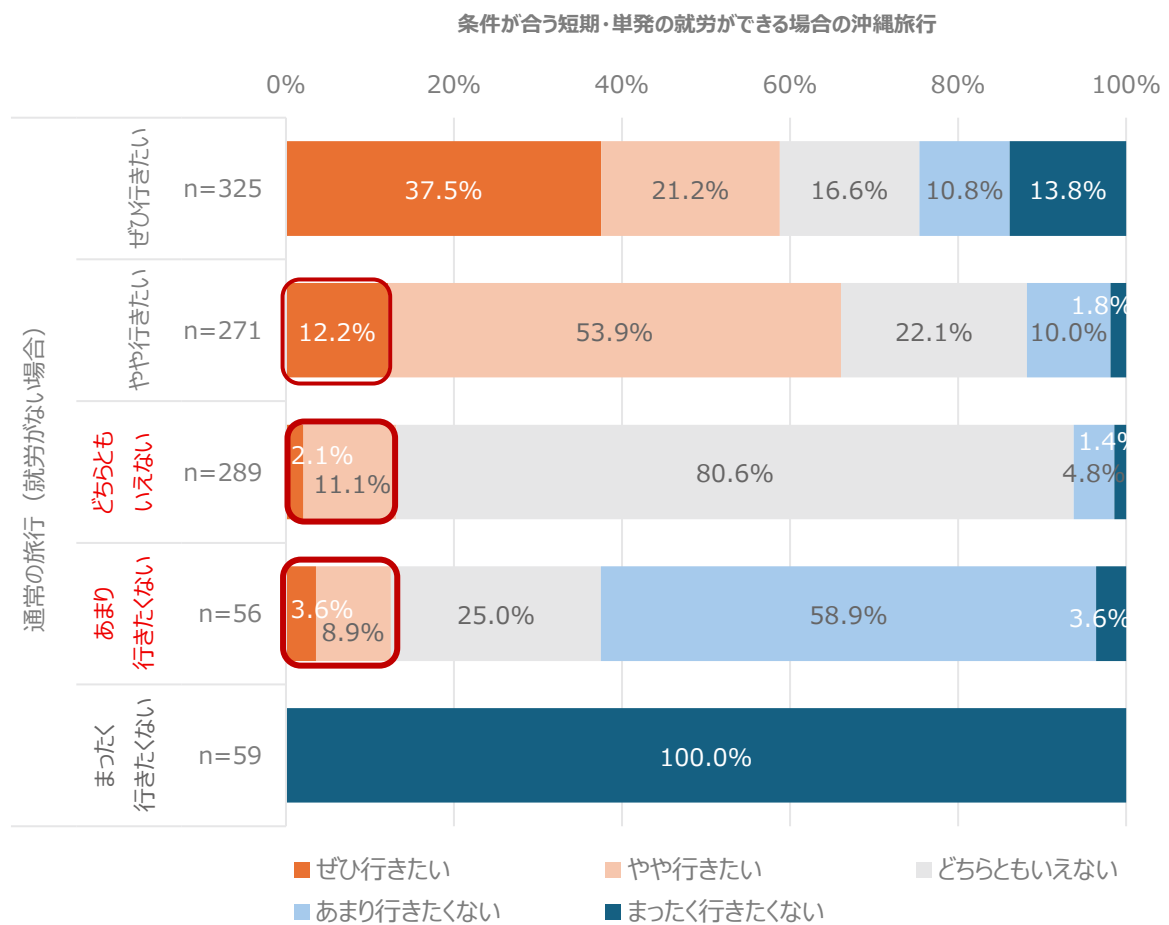
沖縄旅行を検討する際、短期・単発の就労ができることによって訪問意向に違いがあるか



沖縄旅行に対する通常の旅行意向別に、条件が合う短期・単発の就労ができる場合の旅行意向をみると、通常の旅行に対して「どちらともいえない」、「あまり行きたくない」と回答した層のそれぞれ約 1 割が、短期・単発の就労ができるなら「行きたい（ぜひ＋やや）」に変化した。これは、「金銭的な理由」や「きっかけ不足」で旅行を躊躇していた層を、就労の提供によって誘客できる可能性を示唆している。

通常の旅行に「やや行きたい」層においても、短期・単発就労ができることによって 1 割強が「ぜひ行きたい」に変化しており、来訪意向の強化に寄与している。

沖縄旅行に対する通常の旅行意向別、条件が合う短期・単発の就労ができる場合の旅行意向



第5章 まとめ

1. 前回調査における課題認識

※ 前回調査：令和3年度「ポストコロナ時代における沖縄観光のあり方に関する調査～これからの“旅行牽引世代”の意向を踏まえた観光（観光地）とは～」（公庫レポート第179号）

○修学旅行が再来訪につながりきれていない

- ・ 沖縄を訪れた経験が修学旅行のみの場合、再来訪意向が低い傾向がある。
- ・ マリンレジャー等のアクティビティへの関心や参加意向は高い一方で、マリンレジャー経験が少ないことから、旅行先や活動検討の際の動機や目的の選択肢として想起されない恐れがある。

○物理的・経済的ハードルによる機会損失

- ・ 沖縄に行かない理由は、「遠い」「移動時間が長い」「交通費が高い」。

2. 今回の調査で明らかになったこと

○修学旅行は再来訪の原点、体験の質がカギ

- ・ 満足度が高いほど、その後の興味関心の高まりや再来訪意向と強く結びついている。
- ・ 民泊やガイドなど現地の人との交流は満足度が高く、再来訪意向につながる一方、戦跡訪問は体験の満足度を高める余地がある。
- ・ 修学旅行は沖縄の楽しみ方を広げ、その後のプライベート旅行での活動範囲や選択肢の拡大に寄与している。

○王道観光、つながる旅等、様々な旅を志向

- ・ 本調査回答者の約6割が地域との継続的なつながり（“つながる旅”・“帰る旅”）の意向がある。
- ・ 一般的な観光を楽しみつつも、プライベートでの訪沖経験者ほど交流・貢献・暮らすような旅への意欲が高い。

○旅先での短期・単発就労が旅行を後押しする可能性

- ・ 本調査回答者の45.8%が短期就労経験を持ち、18～24歳やプライベートでの訪沖経験者は旅先での就労意向が比較的高い。
- ・ 旅費負担の軽減と空き時間の活用が動機となり、旅行を迷っている層の一部の背中を押す効果がある。実利に加え、社会貢献や自己成長も重視されている。

※ 日本人の国内宿泊観光旅行の実施率は約5割にとどまり、市場全体として「旅行に行く層」と「行かない層」の二極化が進んでいる。本調査は、その中でも旅行意向を持つ層を対象としており、Z世代全体の平均像というよりは、旅行意欲が高くアクティブな層の意識潮流である点に留意が必要である。

3. 現状と課題を踏まえた沖縄に求められる取り組みの考察

■修学旅行を再来訪につなげる質的転換

- ・施設等の見学にとどまらず、ストーリーテリングを取り入れる。昔話ではなく、今とどう繋がっているか、点ではなく線で理解するプログラムに磨き上げ、沖縄への関心を広げる。
- ・民泊のように、地元の人との交流機会を積極的に組み込み、場所だけでなく人を再来訪の動機にする。ホテルにおいてもスタッフが印象に残る接客機会を強化し、人でファンを作る。
- ・関心の高いマリンレジャーを、修学旅行で安全な入門編として提供し、将来の個人旅行の遊びの選択肢として定着させる。

■「選ばれる側」と同時に「選ぶ側」になるための、独自性の磨き上げと発信

- ・SNS や生成 AI で情報が得られる時代は、旅行者側の選択の自由度が高く、その時々欲求に合わせて、旅の濃度や関わり方を自由に選べるようになっている。このため、地域や事業者側も、AI 検索でヒットする「特定のニーズに応える独自性」を磨き上げ、それを発信することで、ターゲット層を選別するとともに、来てほしい人に選ばれる状態を目指す。
- ・個々の事業者が独自性を持ち寄ることで、地域全体として「多彩なラインナップ」を構成し、多様化する旅行者の選択肢を最大化する。

■短期・単発就労をトリガーとした誘客

-「旅のパーツに組み込んだ賢い旅」、「関係人口への足がかり」へ-

- ・経済的な理由で沖縄旅行を躊躇している層や、修学旅行のみで止まっている層に対し、リゾートバイトやスポットワーク等を、タイパ・コスパの良い賢い旅の手段として SNS 等で訴求し、来訪を後押しする。
- ・就労体験を通じた、地域の人やコミュニティとの接点の提供、社会貢献や自己成長の機会の提供などを通じて、一過性の「交流人口(観光客)」から、継続的に地域に関わる「関係人口」への進化が期待される。



【参考資料】インターネット調査 設問

F1

あなたの性別をお知らせください。

- 1 ○ 男性
2 ○ 女性

F2

あなたの年齢をお知らせください。

...

F3

あなたのお住まいの地域をお知らせください。

...

SC1

現在の職業をお知らせください。

- 1 ○ 高校生
2 ○ 大学生/大学院生
3 ○ 専門学校生
4 ○ 正社員/正職員
5 ○ 非正規社員/非正規職員
6 ○ 自営業
7 ○ アルバイト/パート
8 ○ 専業主婦/主夫
9 ○ 無職

SC2

直近で参加した修学旅行について、時期をお知らせください。

(※ここでの「修学旅行」は、学校が主催した宿泊を伴う行事を指します。日帰り行事は含みません。複数回参加している場合は**いちばん最近のもの**をお選びください。)

- 1 ○ 小学生の時
2 ○ 中学生の時
3 ○ 高校生の時
4 ○ 専門学校生の時
5 ○ 修学旅行には行っていない/覚えていない

SC3

直近で(=最も最近に)参加した修学旅行で訪れた主な行き先をお選びください。
(複数エリアにまたがる場合は、主に滞在したエリアを選択ください。)

- 1 ○ 北海道
- 2 ○ 東北
- 3 ○ 関東
- 4 ○ 北陸
- 5 ○ 中部
- 6 ○ 近畿
- 7 ○ 中国
- 8 ○ 四国
- 9 ○ 九州
- 10 ○ 沖縄
- 11 ○ 海外

SC4

あなたは、これまでにプライベートで沖縄への観光旅行をしたことがありますか。
あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

※学校の修学旅行や出張(仕事・研修など)、帰省を除く。

- 1 ☐ 未就学児の時
- 2 ☐ 小学生の時
- 3 ☐ 中学生の時
- 4 ☐ 高校生の時
- 5 ☐ 大学生(大学院生)/専門学校生の時
- 6 ☐ 社会人になってから
- 7 ☐ プライベートで沖縄への観光旅行をしたことがない

SC5

あなたは、今後3年以内に、宿泊を伴う観光旅行に行きたいと思いますか。

- 1 ○ 行きたいと思う
- 2 ○ 行きたいと思わない
- 3 ○ わからない

Q1

直近で(=最も最近に)参加した修学旅行の際の学校の種類をお知らせください。

- 1 ○ 国公立
2 ○ 私立

Q2A

直近で(=最も最近に)参加した修学旅行で体験したことについてお答えください。
「その際に満足した体験」は「体験したこと」で選んだものの中から選択ください。

(それぞれいくつでも)

【学び・文化・生活・産業見学/体験】

1	2
体験したこと	その際に満足した体験



学び・文化・生活・産業見学/体験	
遺跡・史跡・文化財・社寺等の見学	1 ☐ 2 ☐
伝統的町並みや建造物群保存地区の見学(まち歩きを含む)	2 ☐ 3 ☐
伝統文化・伝統芸能体験(茶道・舞妓・着付け・三味線・船舞・エイサー等含む)	3 ☐ 4 ☐
伝統工芸体験(着付け・焼き物・染め物など)	4 ☐ 5 ☐
地域生活の体験(郷土料理作り、方言を学ぶなど)	5 ☐ 6 ☐
戦争や平和を学ぶ資料館や博物館の訪問	6 ☐ 7 ☐
平和学習(語り部などによる体験講話含む)	7 ☐ 8 ☐
震災学習、防災学習	8 ☐ 9 ☐
伝統・郷土料理の美食	9 ☐ 10 ☐
農林漁業体験	10 ☐ 11 ☐
職場訪問・職場体験・職業講話・工場見学など	11 ☐ 12 ☐
修学旅行先の地域について、訪問前後に学ぶ活動をした(自分たちでガイドブックや書籍、web等で調べた)	12 ☐ 13 ☐
修学旅行先の地域について、訪問前後に学ぶ活動をした(対面やオンラインで講師や地域の人と交流した)	13 ☐ 14 ☐
上記に当てはまるものはない	14 ☐ 15 ☐
その際に満足した体験	15 ☐ 16 ☐
1	2

Q2B

直近で(=最も最近に)参加した修学旅行で体験したことについてお答えください。
「その際に満足した体験」は「体験したこと」で選んだものの中からご選択ください。
(それぞれいくつでも)
【自然・アクティビティ等】

1	2	その際に満足した体験
自然・アクティビティ等		
海水浴・ビーチで過ごした	1 ☐	1 ☐
シュノーケリング	2 ☐	2 ☐
ダイビング	3 ☐	3 ☐
バナナボート・パラセーリングなど(ボートで牽引されるアクティビティ)	4 ☐	4 ☐
ボート遊覧(グラスボート、サンセット・花火クルーズなど)	5 ☐	5 ☐
カヤック・カヌー・SUP(スタンドアップパドル)、サーフィン・ボティボードなど	6 ☐	6 ☐
イルカ・ホエールウォッチング	7 ☐	7 ☐
釣り	8 ☐	8 ☐
景勝地の訪問	9 ☐	9 ☐
星空観察	10 ☐	10 ☐
ハイキング・トレッキング	11 ☐	11 ☐
サイクリング(ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む)	12 ☐	12 ☐
スキー・スノーボード・スケート等	13 ☐	13 ☐
SDGs・環境学習(ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等)	14 ☐	14 ☐
上記に当てはまるものはない	15 ☐	15 ☐
その際に満足した体験		
1	2	

Q2C

直近で(=最も最近に)参加した修学旅行で体験したことについてお答えください。
「その際に満足した体験」は「体験したこと」で選んだものの中からご選択ください。
(それぞれいくつでも)
【観光・消費・交流・滞在等】

1	2	その際に満足した体験
観光・消費・交流・滞在等		
テーマパーク・レジャースポット・水族館・博物館・行政/公共施設等への訪問	1 ☐	1 ☐
離島を訪れた	2 ☐	2 ☐
地域ならではの土産品や食品の購入	3 ☐	3 ☐
ショッピング	4 ☐	4 ☐
スポーツ大会・合宿・キャンプの参加/応援/観戦/見学	5 ☐	5 ☐
地域の祭り・地域イベントへの参加	6 ☐	6 ☐
ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	7 ☐	7 ☐
地元の学生との交流	8 ☐	8 ☐
国際交流(外国人との交流、留学生との活動など)	9 ☐	9 ☐
ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	10 ☐	10 ☐
民泊・民宿・ゲストハウス・ホームステイ等での滞在で地元の方々と交流した	11 ☐	11 ☐
ボランティア体験	12 ☐	12 ☐
上記に当てはまるものはない	13 ☐	13 ☐
その際に満足した体験		
1	2	

Q3

その際の、修学旅行全体での満足度をお聞かせください。

- 1 ○ 大変不満
- 2 ○ やや不満
- 3 ○ どちらともいえない
- 4 ○ やや満足
- 5 ○ 大変満足

Q4

その際の修学旅行で交流した地域の方について、当てはまるものをお選びください。
「最も印象に残った人」、「また会いたい、会いに行きたいと思う人」は、「印象に残った人」で選んだ人の中からそれぞれひとつだけ選択ください。

↓

民泊先の家族	1 ☐ 1	○	1	○
旅館・ホテルのスタッフ	2 ☐ 2	○	2	○
タクシーの運転手	3 ☐ 3	○	3	○
電車やバスで乗り合わせた人	4 ☐ 4	○	4	○
体験学習(例:農業体験、漁業体験、工芸体験など)の講師や指導員	5 ☐ 5	○	5	○
お店(お土産店、飲食店など)のスタッフ	6 ☐ 6	○	6	○
ツアーガイド	7 ☐ 7	○	7	○
語り部	8 ☐ 8	○	8	○
神社仏閣、博物館などの案内人やボランティア	9 ☐ 9	○	9	○
現地の学校の生徒	10 ☐ 10	○	10	○
道端で声をかけてくれた人	11 ☐ 11	○	11	○
祭りやイベントで出会った人	12 ☐ 12	○	12	○
上記以外の地域住民	13 ☐ 13	○	13	○
印象に残った地域の人はいない/覚えていない	14 ☐ 14	○	14	○
地域の方との交流はなかった	15 ☐ 15	○	15	○

印象に残った人	1 ☐ 1	○	1	○
最も印象に残った人	2 ☐ 2	○	2	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	3 ☐ 3	○	3	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	4 ☐ 4	○	4	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	5 ☐ 5	○	5	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	6 ☐ 6	○	6	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	7 ☐ 7	○	7	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	8 ☐ 8	○	8	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	9 ☐ 9	○	9	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	10 ☐ 10	○	10	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	11 ☐ 11	○	11	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	12 ☐ 12	○	12	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	13 ☐ 13	○	13	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	14 ☐ 14	○	14	○
また会いたい、会いに行きたいと思う人	15 ☐ 15	○	15	○

Q5

その際の修学旅行で訪問した地域に関して、あなたはその後、何らかの活動を行いましたか。

あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

- 1 ☐ 地域について家族や友人と話をした
- 2 ☐ 誰でも閲覧できるSNSアカウントから発信・投稿した
- 3 ☐ 友人など限られた人のみが閲覧できるSNSアカウントから発信・投稿した
- 4 ☐ 地域について発信・投稿しているアカウントをフォローした
- 5 ☐ 地域で得た知識・体験を仕事や学習に活かした
- 6 ☐ 地域に再訪した
- 7 ☐ 地域への再訪を検討・計画した
- 8 ☐ 地域の別の観光地や地域に興味を持ち、情報収集をした
- 9 ☐ 地域に関する書籍・映画・テレビ番組などを見た
- 10 ☐ 地域の名産品・特産品を購入した
(例:通販、アンテナショップ、物産展など)
- 11 ☐ 地域へふるさと納税を行った
- 12 ☐ 地域で実施するクラウドファンディングに協力した
- 13 ☐ 地域にボランティアに行った
- 14 ☐ 地域で関心を持った文化や活動を自宅でも試した
(例:工芸、食など)
- 15 ☐ 地域に関連したイベントに参加した
(場所は問わない。例:北海道まるごとフェア、沖縄めんそーれフェスタ等)
- 16 ☐ 旅先で知り合った地域の方と連絡を取った
- 17 ☐ その他
- 18 ☐ 特に何もなかった

Q6

修学旅行での経験は、その後の当該地域への興味関心にとどの程度影響しましたか。

- 1 ☐ まったく影響していない
- 2 ☐ あまり影響していない
- 3 ☐ どちらともいえない
- 4 ☐ ある程度影響した
- 5 ☐ 大いに影響した

Q7

あなたは今後、当該地域に観光旅行に行きたいと思いますか。

- 1 ☐ まったく行きたくない
- 2 ☐ あまり行きたくない
- 3 ☐ どちらともいえない
- 4 ☐ やや行きたい
- 5 ☐ ぜひ行きたい

Q8A

直近(=最も最近)のプライベートの沖縄への観光旅行(修学旅行・出張を除く旅行)で体験したことについてお答えください。
「その際に満足した体験」は「体験したこと」で選んだものの中からご選択ください。
(それぞれいくつでも)
【学び・文化・生活・産業見学/体験】

1	2	その際に満足した体験
学び・文化・生活・産業見学/体験		
	1	城(グスク)・史跡・文化財・社寺等の見学
	2	伝統的町並みや集落、風情ある細い路地や裏道(すーじぐわー)の見学・まち歩き
	3	伝統文化・伝統芸能体験(琉装体験、三輪・ハーリー・エイサー等含む)
	4	伝統工芸体験(絵付け・焼き物・染め物など)
	5	地域生活の体験(郷土料理作り、方言を学ぶなど)
	6	戦争や平和を扱う資料館や戦跡の訪問(体験講話含む)
	7	食べ歩き・飲み歩き
	8	沖縄の郷土料理や沖縄独自の食材・料理を食べた
	9	農林漁業体験
	10	工場見学(ビール、泡盛、菓子、琉球ガラス、工房等)
	11	上記に当てはまるものはない
	体験したこと	その際に満足した体験
1	2	

Q8B

直近(=最も最近)のプライベートの沖縄への観光旅行(修学旅行・出張を除く旅行)で体験したことについてお答えください。
「その際に満足した体験」は「体験したこと」で選んだものの中からご選択ください。
(それぞれいくつでも)
【自然・アクティビティ等】

1	2	その際に満足した体験
自然・アクティビティ等		
	1	海水浴・ビーチで過ごした
	2	シュノーケリング
	3	ダイビング
	4	バナナボート・パラセーリングなど(ボートで牽引されるアクティビティ)
	5	ボート遊覧(グラスボート、サンセット・花火クルーズなど)
	6	カヤック・カヌー・SUP(スタンドアップパドル)、サーフィン・ボディボードなど
	7	イルカ・ホエールウォッチング
	8	釣り
	9	景勝地の訪問
	10	星空観察
	11	ハイキング・トレッキング
	12	サイクリング(ガイド付き散策、シェアサイクルでの移動を含む)
	13	ドライブ
	14	SDGs・環境学習(ガイドツアー、サンゴ保全、ビーチクリーン等)
	15	上記に当てはまるものはない
	体験したこと	その際に満足した体験
1	2	

Q8C

直近(=最も最近)のプライベートの沖縄への観光旅行(修学旅行・出張を除く旅行)で体験したことについてお答えください。
「その際に満足した体験」は「体験したこと」で選んだものの中からご選択ください。
(それぞれいくつでも)

【観光・消費・交流・滞在等】

1	2
体験したこと	その際に満足した体験



観光・消費・交流・滞在等	
テーマパーク・レジャークラウド・水族館・博物館・行政/公共施設等への訪問	1 ☐ 1 ☐
離島を訪れた	2 ☐ 2 ☐
地域ならではの土産品や食品の購入	3 ☐ 3 ☐
ショッピング	4 ☐ 4 ☐
スポーツ大会・合宿・キャンプの参加/応援/観戦/見学	5 ☐ 5 ☐
地域の祭り・地域イベントへの参加	6 ☐ 6 ☐
ミュージカル・舞台・音楽ライブ・コンサート等の鑑賞、参加	7 ☐ 7 ☐
地元の学生・住民との交流	8 ☐ 8 ☐
国際交流(外国人との交流、留学生との活動など)	9 ☐ 9 ☐
ホテル、旅館等宿泊施設での滞在を楽しんだ	10 ☐ 10 ☐
民泊・民宿・ゲストハウス等での滞在で地元の方々と交流した	11 ☐ 11 ☐
ボランティア体験	12 ☐ 12 ☐
聖地巡礼や推し活等	13 ☐ 13 ☐
SNS映えるスポット巡り	14 ☐ 14 ☐
リゾートウェディング(参列含む)	15 ☐ 15 ☐
上記に当てはまるものはない	16 ☐ 16 ☐
その際に満足した体験	その際に満足した体験
1	2

Q9

その際、沖縄旅行全体での満足度をお聞かせください。

1☐ 大変不満

2☐ やや不満

3☐ どちらともいえない

4☐ やや満足

5☐ 大変満足

Q10

あなたは、現在住んでいる地域や実家のある地域以外に、繰り返し訪問したり、継続的な繋がりを持っている地域、あるいは第二のふるさとのように感じる地域はありますか。(いくつでも)

- 1 ☐ 親戚や友人が住んでいて、繰り返し訪問する地域がある
- 2 ☐ かつて住んだことがあり(幼少期、学生時代、就職先等)、知人がいるなど繋がっている地域がある
- 3 ☐ 修学旅行や学校行事で訪問して、地元の人や店、コミュニティと関係ができた地域がある
- 4 ☐ プライベート旅行(家族旅行、友人との旅行、一人旅など)で訪問して、地元の人や店、コミュニティと関係ができた地域がある
- 5 ☐ 出張で訪問して、取引先の人、訪れたお店等やコミュニティと関係ができた地域がある
- 6 ☐ 「リゾートバイト」「スポットバイト」「おてつたび」など、仕事と旅行を組み合わせて関係ができた地域がある
- 7 ☐ ワークেশョン、二拠点居住などで利用している地域がある
- 8 ☐ 将来の移住先・二拠点居住の候補地としてお試して訪問している地域がある
- 9 ☐ 祭りやイベント参加のために、定期的に訪問する地域がある
- 10 ☐ 特定の趣味や活動で定期的に訪れる地域がある
(例:ダイビング、サーフィン、釣り、スキー、サイクリングなどのアウトドア活動、スポーツ応援、ライブ観戦、推し活など)
- 11 ☐ 特定の活動やプロジェクトに関わっている地域がある
(NPO活動、まちづくりプロジェクト、地域の伝統行事の運営など)
- 12 ☐ 災害ボランティアなど、特定の目的で訪問した地域がある
- 13 ☐ 「地域おこし協力隊」など、特定の場所や制度を通じて関係ができた地域がある
- 14 ☐ SNSやオンラインコミュニティを通じて関係ができた地域がある
- 15 ☐ その他
- 16 ☐ 今はないが、今後作りたい
- 17 ☐ 今はないし、今後も必要性を感じない
- 18 ☐ わからない

Q11

現在住んでいる地域や実家のある地域以外で、繰り返し訪問したり、継続的な繋がりを持っている地域、あるいは第二のふるさとのように感じる地域は、どの都道府県にありますか。

当てはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1 ☐ 北海道 | 26 ☐ 京都府 |
| 2 ☐ 青森県 | 27 ☐ 大阪府 |
| 3 ☐ 岩手県 | 28 ☐ 兵庫県 |
| 4 ☐ 宮城県 | 29 ☐ 奈良県 |
| 5 ☐ 秋田県 | 30 ☐ 和歌山県 |
| 6 ☐ 山形県 | 31 ☐ 鳥取県 |
| 7 ☐ 福島県 | 32 ☐ 島根県 |
| 8 ☐ 茨城県 | 33 ☐ 岡山県 |
| 9 ☐ 栃木県 | 34 ☐ 広島県 |
| 10 ☐ 群馬県 | 35 ☐ 山口県 |
| 11 ☐ 埼玉県 | 36 ☐ 徳島県 |
| 12 ☐ 千葉県 | 37 ☐ 香川県 |
| 13 ☐ 東京都 | 38 ☐ 愛媛県 |
| 14 ☐ 神奈川県 | 39 ☐ 高知県 |
| 15 ☐ 新潟県 | 40 ☐ 福岡県 |
| 16 ☐ 富山県 | 41 ☐ 佐賀県 |
| 17 ☐ 石川県 | 42 ☐ 長崎県 |
| 18 ☐ 福井県 | 43 ☐ 熊本県 |
| 19 ☐ 山梨県 | 44 ☐ 大分県 |
| 20 ☐ 長野県 | 45 ☐ 宮崎県 |
| 21 ☐ 岐阜県 | 46 ☐ 鹿児島県 |
| 22 ☐ 静岡県 | 47 ☐ 沖縄県 |
| 23 ☐ 愛知県 | 48 ☐ 海外 |
| 24 ☐ 三重県 | |
| 25 ☐ 滋賀県 | |

Q12

今後の旅行で、次のような旅をしたいと思えますか。(それぞれひとつずつ)

大変そう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
まったくそう思わない
まったくそう思わない



1 一般的な観光旅行(名所訪問やアクティビティ、食事等が中心)	5	4	3	2	1
2 現在交流のある地域、なじみのある地域を何度も訪問	5	4	3	2	1
3 今いる地域や実家以外の「繋がる地域」を探す・作るための旅行	5	4	3	2	1
4 自分の興味関心のある地域をあちこち訪問(例:推し活、全国のお城巡り等)	5	4	3	2	1
5 SNSなどで話題性のある地域を訪問	5	4	3	2	1
6 知名度の低い秘境的な場所を探して訪問	5	4	3	2	1
7 地域貢献できる旅行(例:ボランティア、おてつたび等)	5	4	3	2	1

Q13

沖縄への今後の旅行について、次のような旅をどの程度したいと思えますか。

(それぞれひとつずつ)

大変そう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
まったくそう思わない
まったくそう思わない



1 観光名所等を巡る旅行(ドライブ、海水浴、食事、カフェ巡り、SNS映えスポット訪問等)	5	4	3	2	1
2 アクティビティ中心の観光旅行(ダイビングや釣り、トレッキングなど)	5	4	3	2	1
3 地元の人や文化・コミュニティと直接関わる体験を含む旅行	5	4	3	2	1
4 沖縄の同世代の人と繋がりを、現地で交流する旅行	5	4	3	2	1
5 農家民泊やゲストハウスに宿泊し、オーナーや宿泊者との交流を楽しむ旅行	5	4	3	2	1

Q14

あなたは、これまでに短期・単発の就労(アルバイト・手伝い等含む)を経験したことがありますか。

※本調査での「短期・単発の就労」とは、数時間～1か月程度の有償就労(住み込み含む)を指します。例:観光地・宿泊施設での季節就労、地域の繁忙期支援、アプリ等でのスポット就労など

- 1 ○ 居住地や職場の近くで経験がある
- 2 ○ 居住地や職場からは離れた場所(旅行先など)で経験がある
- 3 ○ 居住地や職場の近くでも、離れた場所(旅行先など)でも経験がある
- 4 ○ 経験はない

Q15

旅行先での短期・単発の就労について、以下はあなたにどの程度あてはまりますか。
(それぞれひとつずつ)

大変当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	
5	4	3	2	1	
→					
1 今後、働きたい	5	4	3	2	1
2 報酬等で旅費負担を抑えられると働きたい気持ちが高まる	5	4	3	2	1
3 地域の人と交流できると働きたい気持ちが高まる	5	4	3	2	1
4 地域に貢献できると働きたい気持ちが高まる	5	4	3	2	1
5 特別な体験や学びが得られると働きたい気持ちが高まる	5	4	3	2	1
6 キャリア・スキル向上につながると働きたい気持ちが高まる	5	4	3	2	1
7 空き時間を有効活用できると働きたい気持ちが高まる	5	4	3	2	1
8 宿泊・食事の提供があると働きたい気持ちが高まる	5	4	3	2	1
9 働ける環境がない(副業禁止、子育て中等)	5	4	3	2	1
10 関心はない	5	4	3	2	1
→					
大変当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	

Q16

「短期・単発の就労ができること」が、旅行実施の有無や旅行先を決定する動機になると思いますか。

- 1 ☐ まったくそう思わない
2 ☐ あまりそう思わない
3 ☐ どちらともいえない
4 ☐ ややそう思う
5 ☐ 大変そう思う

Q17

沖縄旅行を検討する際、沖縄で条件の合った短期・単発の就労をすることで、交通費や宿泊費等の費用負担を抑えられる場合と、就労はせずに全額自己負担の通常の旅行では、訪問意向に違いはありますか。
それぞれの旅行の場合について、当てはまるものをお選びください。
(それぞれひとつずつ)

ぜ ひ 行 き た い	や や 行 き た い	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 行 き た く な い	ま っ た く 行 き た く な い	
5	4	3	2	1	
→					
1 条件が合う短期・単発の就労ができる	5	4	3	2	1
2 通常の旅行(就労がない場合)	5	4	3	2	1

第二部

第二部 －人口減少時代における沖縄観光のあり方－ 沖縄旅行者の「旅先でのスポットワーク」の可能性について

第 1 章 調査要領

1. 本報告の概要・ねらい

国内の人口減少が観光地経営の課題となる中、今般「人口減少時代における沖縄観光のあり方」に関する調査として、需要編(旅行者)と供給編(観光関連事業者)の調査を実施した。供給編は「人口減少時代における沖縄観光のあり方・供給編－ 沖縄観光関連産業の人財確保を考える」(公庫レポート第 205 号)、需要編は「人口減少時代における沖縄観光のあり方・需要編～ Z 世代が観光地に求める経験価値とは～」(公庫レポート第 206 号(本レポート) 第一部)である。

両調査で実施したアンケート調査の中で、事業者に対しては「旅行者が、「旅のついで」に行う短期就労の受入意向の有無」等を、旅行意向者(Z 世代)に対しては「旅行先での短期就労の意向の有無」「沖縄旅行検討における短期就労有無の影響」等を尋ねた。

本稿では、これらのアンケート結果や、短期・単発就労(スポットワーク)サービスを提供する株式会社タ イミーへのヒアリング等から、「旅行者と観光事業者を短期就労でマッチングする可能性」について考察する。

2. アンケート調査の概要

事業者調査：沖縄県内の企業・事業所の人財確保に関するアンケート調査
－観光関連産業を中心に－

- ・調査対象：沖縄県内企業（沖縄公庫の取引先及び定例調査(景況、設備、ホテル)対象企業）
- ・実施時期：2025 年 7 月 18 日～8 月 29 日
- ・回答数：200 社
(郵送調査、回答は web もしくは紙：発送数：547 通、回収率：36.6%)
- ・業種：宿泊業、飲食業、小売業、運輸業、製造業等
- ・企業規模：小規模から中規模企業が中心（従業員が概ね 10 名以上の法人）

旅行意向者調査：Z 世代を対象とした Web アンケート調査

- ・調査対象：関東圏または関西圏在住の 18～29 歳の男女（高校生を除く）で、今後 3 年以内に宿泊を伴う観光旅行をする意向がある者
- ・実施時期：2025 年 10 月 8 日～15 日
- ・サンプル数：1000 人
- ・調査項目：直近で参加した修学旅行での経験、「つながる旅」「帰る旅」等の経験・意識、旅先での短期・単発の就労活用意向等

第2章 アンケート調査からみる事業者側と観光客側の意向

1. 事業者アンケート

(1) 短期・単発就労（スポットワーク）の利用状況

事業者に短期・単発就労（スポットワーク）の利用実績を尋ねたところ、利用実績がある事業者は、全体では40.1%、宿泊業で65.9%であった。宿泊業では「毎日ほぼ利用している」が22.0%、「週に数回利用している」が24.4%と、他業種と比べて利用頻度が突出している。人手不足感別でみると、「非正規のみ不足」と回答した事業所での利用実績が最も高い。

Q. 短期・単発就労（スポットワーク）の利用状況について教えてください。（単一回答）

	全体 (n)	利用 現在、 ほぼ 毎日	数回 現在、 利用、 週に して る	数回 現在、 利用、 月に して る	今後 利用 予定 した こと ない は あ る が	今後 利用 検討 し た い	今後 利用 も 予 定 は な い	実 績 あり (左 4 つ)	実 績 なし (右 2 つ)
全体 (n)	(192)	8.9%	9.9%	10.4%	10.9%	19.8%	40.1%	40.1%	59.9%
業 種	宿泊業	(41) 22.0%	24.4%	14.6%	4.9%	14.6%	19.5%	65.9%	34.1%
	飲食サービス業	(40)	7.5%	5.0%	7.5%	17.5%	20.0%	42.5%	37.5%
	小売業	(31)	6.5%	6.5%	12.9%	6.5%	22.6%	45.2%	32.3%
	運輸業	(20)	5.0%	5.0%	10.0%	5.0%	25.0%	50.0%	25.0%
	製造業	(23)	0.0%	4.3%	8.7%	21.7%	21.7%	43.5%	34.8%
	その他	(37)	5.4%	8.1%	8.1%	10.8%	18.9%	48.6%	32.4%
従 業 員 規 模	20人以下	(59)	1.7%	6.8%	15.3%	13.6%	22.0%	40.7%	37.3%
	21人～50人	(47)	4.3%	4.3%	10.6%	12.8%	25.5%	42.6%	31.9%
	51人～100人	(32)	0.0%	18.8%	9.4%	15.6%	15.6%	40.6%	43.8%
	101人～300人	(31)	22.6%	12.9%	3.2%	3.2%	19.4%	38.7%	41.9%
	301人以上	(23)	30.4%	13.0%	8.7%	4.3%	8.7%	34.8%	56.5%
不 足 感	正社員・非正規とも不足	(112)	12.5%	13.4%	10.7%	8.9%	22.3%	32.1%	45.5%
	正社員のみ不足	(25)	0.0%	0.0%	12.0%	4.0%	12.0%	72.0%	16.0%
	非正規のみ不足	(23)	13.0%	13.0%	8.7%	26.1%	13.0%	26.1%	60.9%
	不足なし	(32)	0.0%	3.1%	9.4%	12.5%	21.9%	53.1%	25.0%

出典：沖縄県内の企業・事業所の人材確保に関するアンケート調査

(2) 旅行者によるスポットワークに対する受入意向

旅行者に「旅のついで」に単発で働いてもらう意向の有無を尋ねたところ、「ある」は 6.9%に留まり、ニーズはないと回答した事業者が 9 割超を占めた。業種別では宿泊業 12.2%、飲食サービス業 10.0%が 1 割以上となった。

「ある」と回答した事業所に頼みたい業務を自由回答で尋ねたところ、宿泊業では客室清掃、飲食サービス業では片づけ・皿洗い、その他(レンタカー)では、車両の回送・洗車などの回答があった。

Q. 単発バイトとして、旅行者・宿泊者等に、旅行のついでに働いてもらうというニーズはありますか？（単一回答）

		全 体 (n)	あ る	な い
全体 (n)		(189)	6.9%	93.1%
業 種	宿泊業	(41)	12.2%	87.8%
	飲食サービス業	(40)	10.0%	90.0%
	小売業	(30)	0.0%	100.0%
	運輸業	(18)	0.0%	100.0%
	製造業	(23)	8.7%	91.3%
	その他	(37)	5.4%	94.6%
従 業 員 規 模	20人以下	(57)	8.8%	91.2%
	21 人～50 人	(47)	4.3%	95.7%
	51 人～100 人	(32)	3.1%	96.9%
	101 人～300 人	(30)	10.0%	90.0%
	301人以上	(23)	8.7%	91.3%
不 足 感	正社員・非正規とも不足	(111)	9.0%	91.0%
	正社員のみ不足	(24)	0.0%	100.0%
	非正規のみ不足	(23)	13.0%	87.0%
	不足なし	(31)	0.0%	100.0%

Q. 「ある」と回答⇒具体的にどんな業務を頼みたいですか？(自由回答)

業種	従業員規模	業務内容
製造業	20人以下	売店スタッフ
宿泊業	101人～300人	客室清掃、レストランスタッフ
宿泊業	21～50人	客室清掃業務
宿泊業	20人以下	食材買い出し
飲食サービス業	20人以下	職場体験型
飲食サービス業	51人～100人	スキルを活かした業務
飲食サービス業	101人～300人	片付け、皿洗い
その他	20人以下	回送、洗車
その他	20人以下	受付、配車、洗車係

出典:沖縄県内の企業・事業所の人財確保に関するアンケート調査

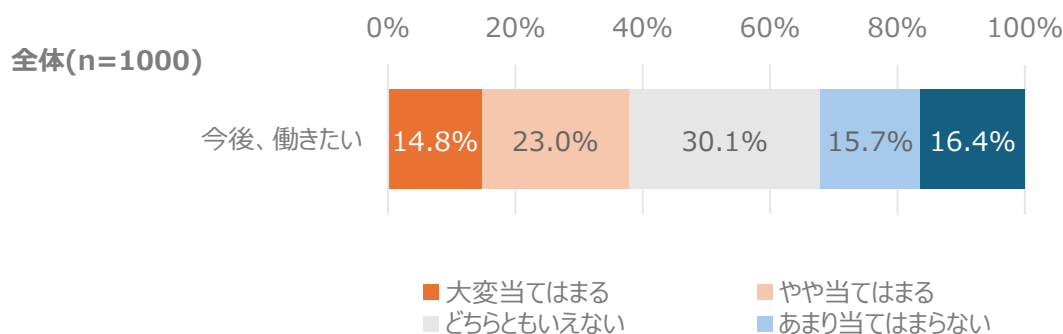
2. 旅行意向者向けアンケート

(1) Z世代の旅行先における短期・単発(スポットワーク)の就労意向

Z世代の旅行意向に関するアンケートにおいて、旅行先でのスポットワークの就労意向を尋ねたところ、今後、就労意向がある層（「大変当てはまる」+「やや当てはまる」）は37.8%となった。

就労意向がある者の「働く意欲が高まる条件」をみると（「大変当てはまる」+「やや当てはまる」の合計）、1位は「宿泊・食事の提供」、2位「報酬で旅費を抑えられる」、3位「空き時間の有効活用」となり、「特別な体験や学び」も高く支持された。実利だけでなく、社会貢献や自己成長を求める働き方も一定のニーズがあり、Z世代の価値観が反映されている様子がうかがえる。

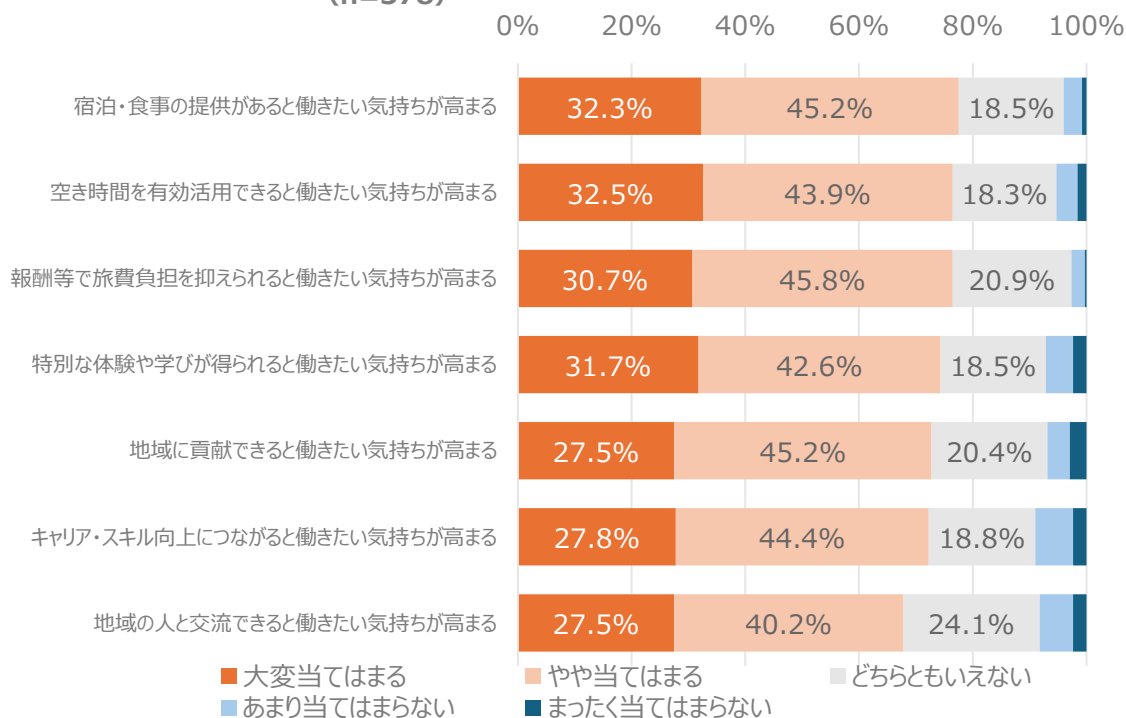
Q. 旅行先での短期・単発の就労について、以下はあなたにどの程度当てはまりますか。（単一回答）



○ 働く意欲が高まる条件

旅行先で今後就労意向がある（大変当てはまる・やや当てはまる）

(n=378)

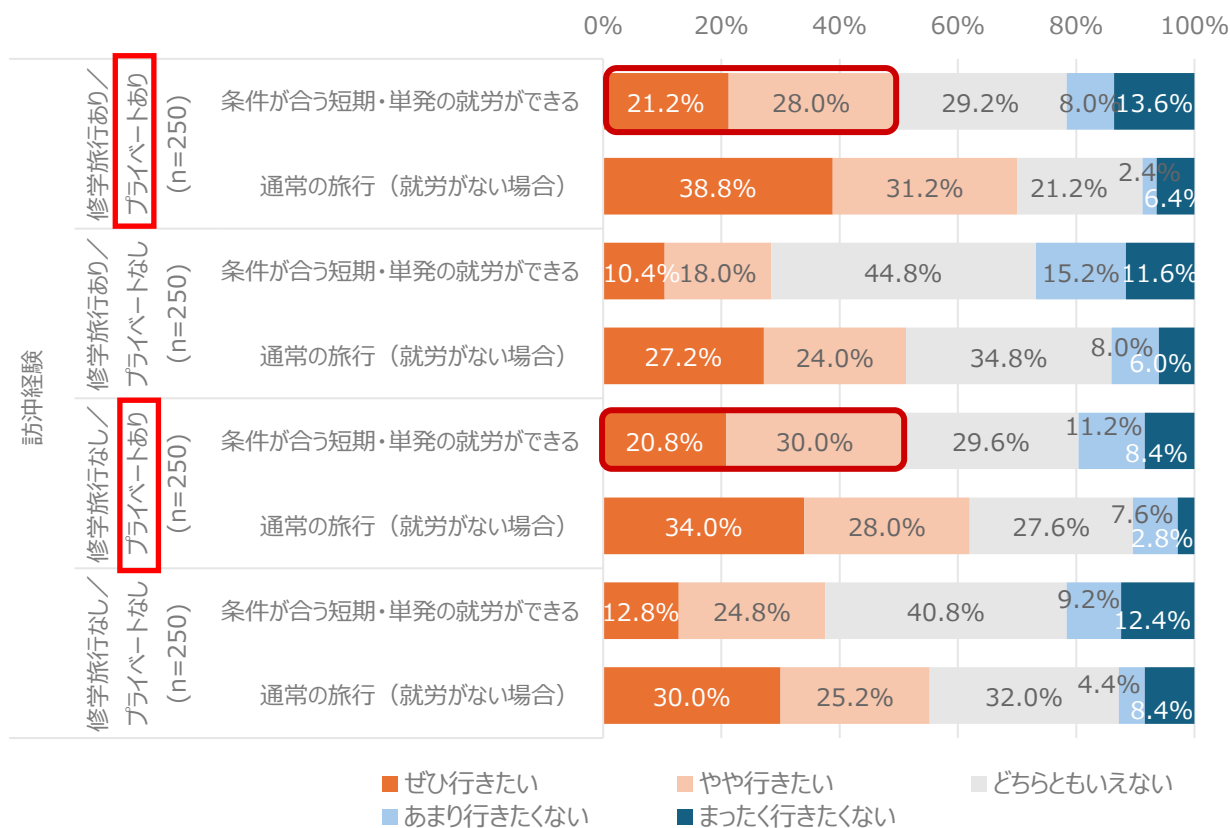


出典：Z世代の旅行意向に関するアンケート調査

(2)Z 世代の沖縄旅行検討におけるスポットワークの影響

過去にプライベートで沖縄を訪れた経験がある層は、短期・単発の就労ができる旅行に対しても約 5 割が「行きたい（ぜひ行きたい+やや行きたい）」と回答し、高い意欲を示した。一方、「修学旅行のみ（プライベートなし）」の層は 3 割未満、「訪沖経験なし」の層も 4 割にとどまった。

Q. 沖縄旅行を検討する際、沖縄で条件の合った短期・単発の就労をすることで、交通費や宿泊費を稼ぐことができる場合と、就労はせずに全額自己負担の通常の旅行では、訪問意向に違いはありますか？

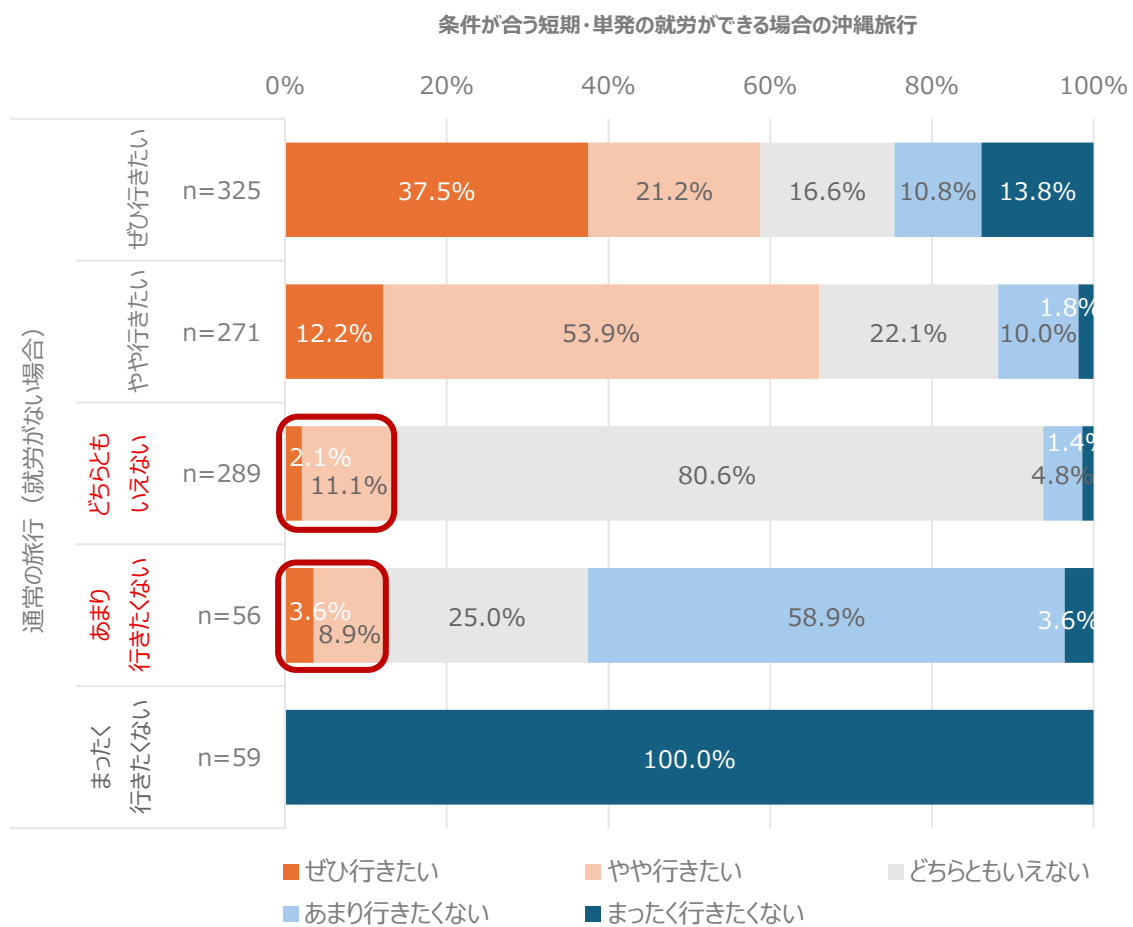


出典：Z 世代の旅行意向に関するアンケート調査

沖縄旅行に対する通常の旅行意向別に、条件が合う短期・単発の就労ができる場合の旅行意向をみると、通常の沖縄旅行であれば「どちらともいえない」と回答した層のうち、13.2%（「ぜひ行きたい」2.1%、「やや行きたい」11.1%）が「条件が合う短期・単発の就労ができる沖縄旅行」ならば「行きたい」へと意向が変化した。同様に、通常の沖縄旅行には「あまり行きたくない」と回答していた層でも、12.5%（「ぜひ行きたい」3.6%、「やや行きたい」8.9%）が意向を変化させた。

このことは、「金銭的な理由」や「きっかけ不足」で沖縄への旅行を躊躇していた層に対して、旅先での就労という選択肢の提供が新たな誘客のきっかけとなり得る可能性を示唆している。

- 沖縄旅行に対する、通常の旅行意向別にみた「条件が合う短期・単発の就労ができる場合」の旅行意向



出典：Z世代の旅行意向に関するアンケート調査

第3章 事業者ヒアリング、スポットワークに関する先行調査

1. タイミー沖縄営業所ヒアリング（令和8年1月13日実施）

旅先でのスポットワーク活用の現状について把握するため、株式会社タイミー沖縄営業所にてヒアリングを実施した。

ヒアリング概要：

1. 沖縄県内におけるワーカー及び企業の登録状況

当社によると、2023年7月（沖縄営業所開設時）と2025年10月時点の比較において、登録ワーカー、企業数、事業所数のいずれも大幅な伸長を見せており、県内で急速に浸透していることがうかがえる（実数は非公表）。

項目	伸び率（23年7月比）
登録ワーカー数	3.7倍
登録事業者（企業）数	11.4倍
登録事業所（店舗）数	6.3倍

2. 業種および登録者の傾向

- ・**業種構成**：全国的には「物流（軽作業）」（4割強）「小売」（3割）の傾向。沖縄県内もほぼ同様だが、**ホテル、レンタカー、リネン等**、観光関連の割合が全国に比べてやや高い。
- ・**登録者層**：（全国の動向）若年層が中心（20代以下で4割弱）だが、シニア層の利用も増加している。シニア層に関しては、金銭目的だけでなく「社会との接点」や「他者からの感謝（承認欲求）」を重視する傾向がみられる。

3. スポットワークの利用形態とニーズ

- ・**需要側（ワーカー）**：基本的に生活圏内での利用が大半だが、「旅先での就労」や「リゾートバイトの空き時間の活用」といった利用も確認されている。
- ・**供給側（事業者）**：スポット利用を通じてワーカーとの相性を確認し、「長く働いてもらいたい」「直接雇用したい」という意向の企業も多いため、「一回限りの人をお願いしたい」というニーズ自体がそもそも少ない。人手不足で多忙な事業者側にとっては、業務が何もわからないワーカーが来る都度、「一から教えるコスト」が負担になっているため、それを何度か経験した事業者は、リピートが期待できない「一度きりの旅行者ワーカー」の受入には消極的にならざるを得ない。

4. 事業者へのタイミー導入支援

当社では、事業者に対して「業務を細分化し」「その中でスポットワーカーに依頼可能な業務を切り出して募集する」ことを提案している。

- ・**業務の細分化**：例えば客室清掃を「掃除機かけ」「ゴミ集め」「風呂場清掃」「トイレ清掃」「アメニティ補充」等細かく分解し、未経験者でも即実行可能なタスクとして募集する。
- ・**省力化提案**：タイミー導入のハードルを下げるため、マニュアルや動画制作の提案を行っている（但し、リソース不足から着手に消極的なケースもみられる）。

2. 先行調査 株式会社パーソル総合研究所「スキマバイト/スポットワークに関する定量調査」

株式会社パーソル総合研究所では、2025年1月に「スキマバイト/スポットワークに関する定量調査」を公表している。同調査の目的は、①スキマバイトの実態とポテンシャルを明らかにすること、②働く側とマネジメント側双方のメリット・デメリットを明らかにすること、③スキマバイト人材を活用するためのマネジメントポイントを明らかにすることである。

まず、同調査では現在の全国のスキマバイト人口は452万人、全国の潜在スキマバイト人口は1,431万人と簡易推計しており（1年以内スキマバイト経験率、意向率のデータとオープンデータ（「人口推計」など）を基に推計）、現状の3倍程度の高いポテンシャルを持つ市場であると指摘している。

また、同調査ではスキマバイトを行う動機に基づいてスキマバイト経験者を類型化し、以下の5つのタイプに分けている。

- ① 隙間活用タイプ：隙間時間を有効活用したい
- ② 小遣い稼ぎタイプ：趣味に充てる資金が欲しい
- ③ 生計維持タイプ：すぐに生活費を稼ぎたい
- ④ 経験投資タイプ：興味のある仕事をたくさん経験したい
- ⑤ 簡便志向タイプ：手軽に働きたい

スキマバイトの類型化



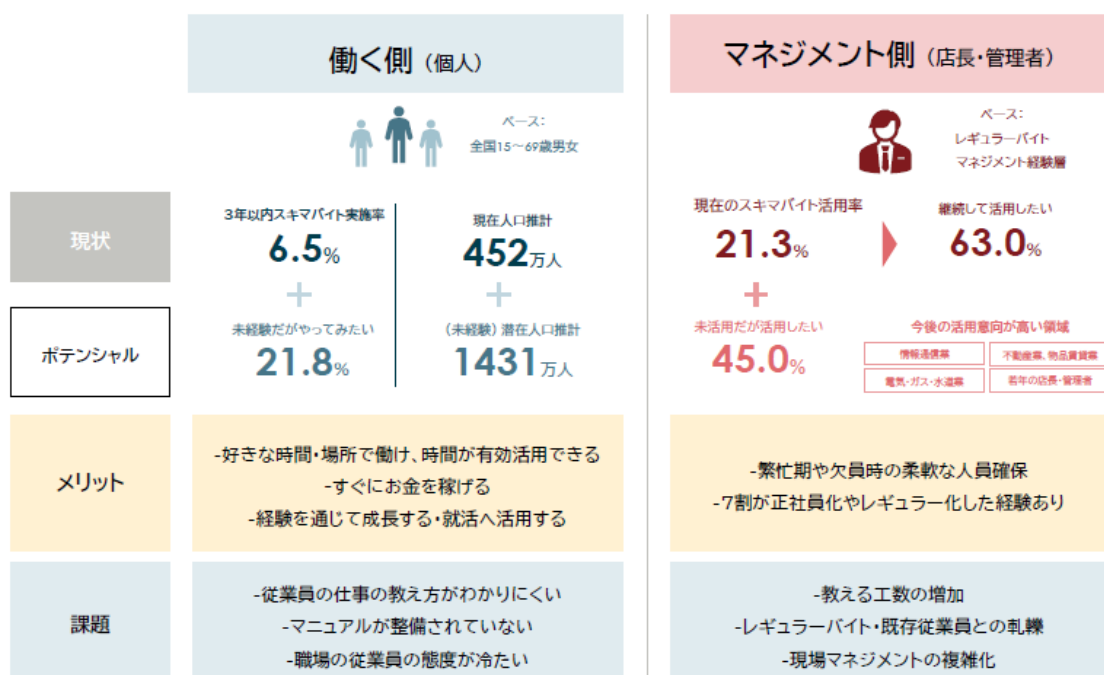
出所：株式会社パーソル総合研究所「スキマバイト/スポットワークに関する定量調査」

本レポートのテーマである「旅行のついでに働く」層は、この類型における「隙間時間の活用」の①、「旅費の足しを稼ぐ」②及び⑤に該当するものと考えられる。

同調査では、働く側とマネジメント側（店長・管理職）のメリット・デメリットをまとめている。働く側・マネジメント側双方に課題が発生しているとしつつも、企業側がスポットバイトなしには事業継続が成り立たない状況においては、スポットバイトに対応した仕事の割り振りとマネジメントの整理が必要だとしている。

マネジメント側は、レギュラーバイト、スキマバイト、レギュラー候補のそれぞれに適切なマネジメントを求められるなど、マネジメントが高度化・複雑化しているものの、スキマバイト人材はあくまでも労働供給のつなぎ役であると位置づけ、それを踏まえた上での対応が必要である。

働く個人側と企業側の実態・ポテンシャル・課題の概要

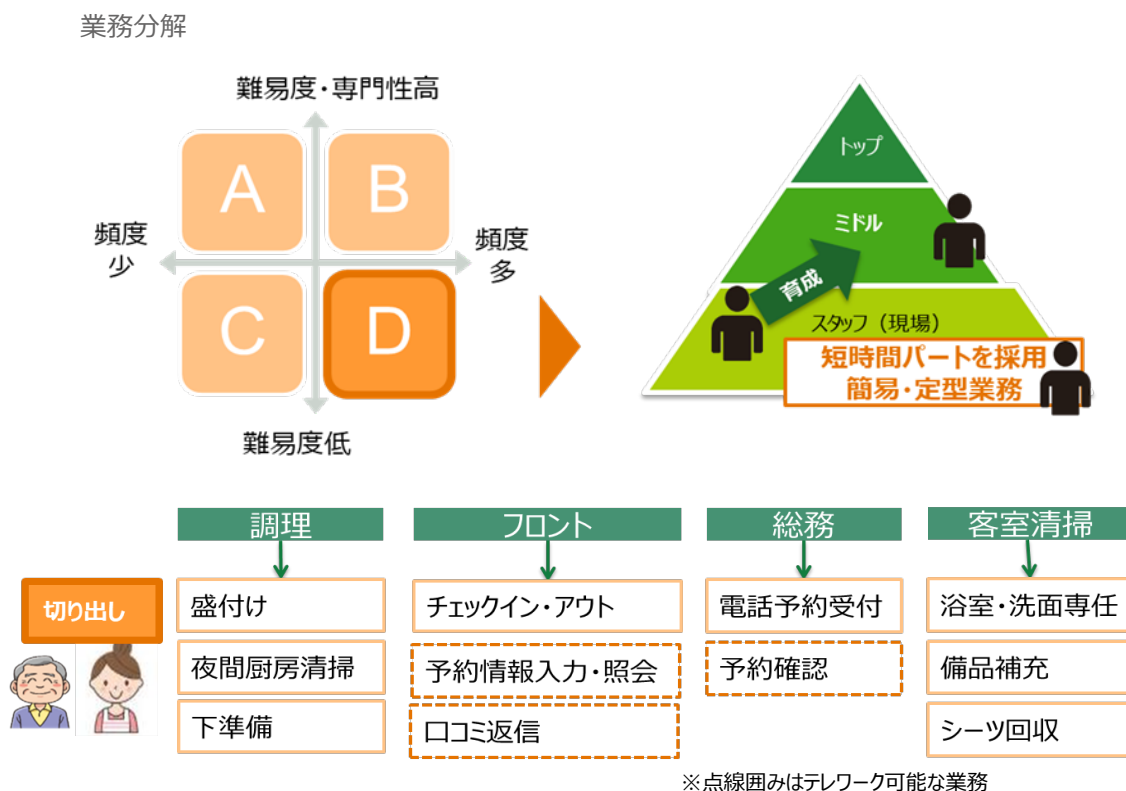


出所：株式会社パーソル総合研究所「スキマバイト/スポットワークに関する定量調査」

第4章 まとめ ―スポットワーク活用の可能性―

1. スポットワーク活用の可能性

「人口減少時代における沖縄観光のあり方・供給編 ― 沖縄観光関連産業の人財確保を考える」(公庫レポート第205号)では、働き方の具体的な打ち手として有効なのが「業務分解」であると述べた。現場の業務を難易度と頻度で整理し、簡易かつ定型的なタスク(D領域)を切り出すことで、補助職としての短時間パートの採用を可能にする。この「切り出し」によって正社員の拘束時間を物理的に削減し、その結果生まれた時間をキャリアアップや学びの機会に充てることが重要である。これは、単なる人材不足への対応にとどまらず、正社員をより専門性の高いミドル・トップ層へと育成する好循環を生み出し、組織全体の持続可能性に資するものと考えられる。



出所：「人口減少時代における沖縄観光のあり方・供給編 ― 沖縄観光関連産業の人財確保を考える」

さらに株式会社リクルートが提唱する「超短時間業務」という考え方も有効である。これは、「短時間勤務者に依頼できる業務」の中から、さらに「超短時間業務」や「スポットワーカーにも依頼可能な業務」を切り出し、作業内容を明示して募集する手法であり、旅行者にとっては「旅先でのスポットワーク活用の選択肢」が、事業者側にとっては「短時間勤務労働者の採用」に繋がる可能性がある。

また就労時の良好な印象によっては、「一度きりのスポットワーカー」と想定していた人物が、「就労リピーター(兼観光リピーター)」として再来訪といった効果も期待される。



出所：株式会社リクルート ジョブズリサーチセンターHP

2. 活用例

(1) 旅ナカの空き時間有効活用や、報酬による旅費軽減を求める旅行者向けの例

①チェーン店での就労経験者のスポットワーク

全国展開のコンビニエンスストアや飲食店チェーン、物流などで就労経験のある者が、旅行先で同じチェーン店で短期就労する場合、「一連の業務を教えなくてもこなせる」ことから、即戦力(経験者)に働いてもらいたい事業者側と、旅先で働きたいという労働者側のマッチングが容易になると考えられる。

②今次調査にて事業者からニーズのあったスポットワーク

県内事業者向けのアンケートで挙げた、「旅行者・宿泊者等に旅行のついでに働いてもらう業務の具体例」(自由回答)は、レンタカー店からは洗車や車両の移動、飲食店からは片づけや皿洗い、ホテルからはシーツ剥がしやごみ集め等といった、単発・短時間でも就労可能な業務が挙げられており、事業者側が依頼できる業務を認識していることが確認された。このように、業務分解によって簡単なタスクを切り出し、超短時間でも依頼可能な業務としてスポットワーク募集することで、旅先で短時間就労したい旅行者とのマッチングが可能になると考えられる。

(2) 宿泊場所の提供や、地域の人との交流を求める旅行者向けの例

お手伝いで宿泊無償 ができる「さかとケ」 (新潟県南魚沼市)

「さかとケ」は、南魚沼市の「古民家ホテル ryugon」敷地内の一角にあるワークイン・レジデンス(全4室のシングルルーム)で、宿のしごと(例:レストランの洗い場での皿洗い、客室清掃、ベッドメイキング等)を5時間以上手伝う+自室清掃を行うことで、シングルルーム素泊まりの宿泊料が無償となる。

本プロジェクトは、株式会社リクルート じゃらんリサーチセンターと一般社団法人雪国観光圏(※)が協働で推進する「帰る旅プロジェクト」の一環で、単に観光地を訪れるだけでなく、地元の宿で手伝いをしたり、地域の人々と共に活動することで、より深い関係性を築くことを目指している。

(※)雪国という文化的背景を共にする新潟県魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町、群馬県みなかみ町、長野県栄村の3県7市町村が連携した広域観光圏

さかとケ



泊まりながら宿の仕事を手伝う。それも一つの旅、一つの滞在の形と考えています。2022年には「ryugon」の一角に、ワークインレジデンスの拠点「さかとケ」が誕生。プロボノ（仕事で得た知識やスキルを無償提供するボランティア活動のこと）ワーカーを結び、旅人のよりどころとなり、気軽にまた帰れる「もう一つの家」のような場所にしたいと考えています。「さかとケ」の「さかと」は坂戸という地名と、日常を表す「ケ」や「家」を重ねています。



出典: <https://ryugon.co.jp/sakatoke/>

(1)は「タイパ(時間対効果)」や「コスパ(費用対効果)」といった効率性と実利を重視する働き方の例、(2)は実利だけではなく、社会貢献や自己成長を求める働き方の例である。本調査の需要編ではZ世代に焦点を当てたが、「タイミー」などを活用した旅行や、「おてつたび」の参加者には若年層だけではなくシニア層もみられ、「観光と就労の融合」という考え方が近年は年齢層を問わず受け入れられつつあることがうかがえる。

旅行者側に多様な就労ニーズが顕在化しつつある今、地域や事業者がいち早くこうした動きに対応することが、新たな労働力獲得の好機となり得る。例えば、短時間でも人手を必要とする事業者であれば、業務を細分化・切り出し、単発・超短時間勤務者に依頼できる業務を創出して募集することが有効であろう。また、「関係人口」の構築を目指すのであれば、社会貢献に繋がる働く場の提供が考えられる。こうした取組が、ひいては観光リピーターの創出と、深刻化する人手不足の解消の一助となることを期待したい。

(担当: 伊東 祥子)

「公庫レポート」既刊目録

[数字は号数、()は発行年月]

○ 沖縄県産業連関表による公共投資の波及効果分析 -特に沖縄公庫住宅融資を中心にして-	創刊号(S 56. 3)
○ 沖縄の住宅事情と需要の動向	創刊号(S 56. 3)
○ 昭和57年度設備投資計画調査報告	2 (S 56. 7)
○ 沖縄公庫の融資効果の評価と今後の方向 -沖縄公庫モデルを中心とした計量分析-	2 (S 56. 7)
○ 沖縄のホテル業界の現状と課題	3 (S 57. 3)
○ 沖縄県経済の現状と工業振興の方向	4 (S 57. 8)
○ 昭和58年度設備投資計画調査報告	4 (S 57. 8)
○ 沖縄県主要企業の財務行動	4 (S 57. 8)
○ 昭和58・59年度設備投資計画調査報告	5 (S 58. 8)
○ 沖縄の工業開発と技術集積	6 (S 59. 3)
○ 沖縄県における食肉加工業	6 (S 59. 3)
○ 昭和59・60年度設備投資計画調査報告	7 (S 59. 8)
○ アメリカの地域開発 -いくつかの事例を中心に-	7 (S 59. 8)
○ 昭和59・60年度設備投資計画調査報告(昭和59年10月調査)	8 (S 60. 1)
○ 21世紀沖縄の経済・社会構造と政策課題の提案	8 (S 60. 1)
○ 昭和60・61年度設備投資計画調査報告(昭和60年9月調査)	9 (S 60. 12)
○ 昭和60・61年度設備投資計画調査報告(昭和61年3月調査)	10 (S 61. 7)
○ 復帰特別措置の体系的検討	10 (S 61. 7)
○ 昭和61・62年度設備投資計画調査報告(昭和61年9月調査)	11 (S 62. 2)
○ 規制緩和下における沖縄の航空体制の課題	11 (S 62. 2)
○ 昭和61・62年度設備投資計画調査報告(昭和62年3月調査)	12 (S 62. 6)
○ 動向調査 沖縄の主要産業 -昭和61年度の動向と見通し-	13 (S 62. 11)
○ 地域産業トピックス 水産 急成長を遂げるも市況悪化への対応に迫られる車エビ養殖 流通 中規模店化が進む小売業 環境変化への対応を迫られる婦人服店 急成長下、経営戦略が問われる中古車業界 需要低迷と価格低下で厳しさ増すガソリンスタンド サービス 質的变化が著しい飲食業界 振興事業に着手した美容業界 リゾート型参入で新展開が見込まれる県内ゴルフ場	13 (S 62. 11)
○ データ解説 昭和61年度個人住宅資金(一般住宅・建売住宅)利用者調査報告	13 (S 62. 11)
○ 開発調査 沖縄のリゾート開発の課題と開発資金の検討	13 (S 62. 11)
○ 昭和62・63年度設備投資計画調査報告(昭和62年9月調査)	14 (S 62. 12)
○ 昭和62・63年度設備投資計画調査報告(昭和63年3月調査)	15 (S 63. 6)
○ グラム・サイパン市場差別化策の検討	16 (S 63. 8)
○ 動向調査 沖縄の主要産業 -昭和62年度の動向と見通し-	17 (S 63. 11)
○ 地域産業トピックス 製造 市場環境の変化と技術革新が著しい印刷業界 小売 変貌する鮮魚店、食肉店の需要環境 サービス 新たなサービスのあり方を探る理容業界	17 (S 63. 11)
○ データ解説 昭和62年度個人住宅建設資金利用者調査報告	17 (S 63. 11)
○ 昭和63・平成元年度設備投資計画調査報告(昭和63年9月調査)	18 (S 63. 12)
○ 沖縄県の住宅需要動向	19 (H 1. 4)
○ ハワイリゾートの現状と沖縄のリゾート開発の課題 -ハワイリゾート調査報告書-	20 (H 1. 4)
○ 昭和63・平成元年度設備投資計画調査報告(平成元年3月調査)	21 (H 1. 6)
○ 動向調査 沖縄の主要産業の動向-昭和63年度の動向を中心に	22 (H 1.12)

○ 地域産業トピックス 不動産賃貸 空室率が高い沖縄の貸ビル サービス 沖縄県内の人材派遣業 自動車分解整備業の概要	22	(H 1.12)
○ データ解説 昭和63年度個人住宅建設資金利用者調査報告 労働生産性が低い県内製造業(工業統計調査より)	22	(H 1.12)
○ 平成元・2年度設備投資計画調査報告(平成元年9月調査)	22	(H 1.12)
○ 沖縄洋ラン切花生産の実態・本土市場調査	23	(H 2. 3)
○ タイ国の熱帯果樹農業の現状と輸出産業としての地位 —沖縄県の有望作物としての熱帯果樹産業に関する調査—	23	(H 2. 3)
○ データ解説 平成元年度個人住宅建設資金利用者調査報告	24	(H 2. 7)
○ 平成元・2年度設備投資計画調査報告(平成2年2月調査)	24	(H 2. 7)
○ 沖縄県におけるバイオマス資源活用産業 —新規胎動産業を探る—	25	(H 2. 8)
○ 地域産業トピックス 琉球ガラス産業界の現況 成長著しい県内の生花小売業 県内水産加工業の生産状況 競合激しい県内クリーニング業	26	(H 3. 3)
○ 平成2・3年度設備投資計画調査報告(平成2年9月調査)	26	(H 3. 3)
○ データ解説 平成2年度個人住宅建設資金利用者調査報告	27	(H 3. 7)
○ 平成2・3年度設備投資計画調査報告(平成3年3月調査)	27	(H 3. 7)
○ 沖縄県の観光土産品店	28	(H 4. 1)
○ 平成3・4年度設備投資計画調査報告(平成3年9月調査)	28	(H 4. 1)
○ データ解説 平成3年度個人住宅建設資金利用者調査報告	29	(H 4. 8)
○ 平成3・4年度設備投資計画調査報告(平成4年3月調査)	29	(H 4. 8)
○ 平成4・5年度設備投資計画調査報告(平成4年10月調査)	30	(H 5. 2)
○ データ解説 平成4年度マイホーム新築資金利用者調査報告	31	(H 5. 9)
○ 平成4・5年度設備投資計画調査報告(平成5年3月調査)	31	(H 5. 9)
○ 平成5・6年度設備投資計画調査報告(平成5年9月調査)	32	(H 6. 2)
○ 平成5・6年度設備投資計画調査報告(平成6年3月調査)	33	(H 6. 7)
○ 正念場を迎えるエステティック業界	34	(H 6. 8)
○ 泡盛製造業の現況について	34	(H 6. 8)
○ 需要低迷下生産性の向上が求められる生コン業界	35	(H 6. 9)
○ 沖縄県の花弁農業	35	(H 6. 9)
○ 沖縄県の伝統工芸産業	35	(H 6. 9)
○ データ解説 平成5年度マイホーム新築資金利用者調査報告 平成5年度マンション購入資金利用者調査報告	36	(H 6. 10)
○ 沖縄のデンファレ(切花)について	37	(H 6. 10)
○ 生産性の向上と新しい生産技術への対応が求められる印刷業界	37	(H 6. 10)
○ 貸アパート業実態調査	38	(H 6. 11)
○ 沖縄県のプレハブ住宅の現状について	38	(H 6. 11)
○ 競争激化が進む中で経営体質強化が求められる建設業	39	(H 6. 12)
○ 平成6・7年度設備投資計画調査報告(平成6年9月調査)	39	(H 6. 12)
○ インドネシア・バリ島リゾートの現状	40	(H 7. 2)
○ マンゴー栽培の現状と産地形成に向けての課題	41	(H 7. 3)
○ 総合産業への変容が求められる500万人時代の沖縄観光	42	(H 7. 3)
○ 県内製糖業の現状	43	(H 7. 3)
○ 平成6・7年度設備投資計画調査報告(平成7年3月調査)	44	(H 7. 5)
○ 公庫住宅資金利用者に係る耐久消費財等購入実態調査	45	(H 7. 8)

○ 県内駐車場業の現状と課題	46	(H 7. 9)
○ データ解説 平成6年度マイホーム新築資金利用者調査報告 平成6年度マンション購入資金利用者調査報告	47	(H 7. 9)
○ 平成6・7年度設備投資計画調査報告(平成7年9月調査)	48	(H 7. 12)
○ 薬草加工販売業の現状と課題	49	(H 8. 1)
○ 新規開業の実態	50	(H 8. 1)
○ 持家取得実態調査	51	(H 8. 3)
○ 「わしたショップ」―拠点方式による県産品のマーケティング―	52	(H 8. 5)
○ 平成7・8年度設備投資計画調査報告(平成8年3月調査)	53	(H 8. 6)
○ 沖縄県におけるタラソテラピー事業可能性の検討 (フランス・タラソテラピー業界視察報告)	54	(H 8. 6)
○ 沖縄での展開が有望なタラソテラピーについて	54	(H 8. 6)
○ 県内小売業の現状	55	(H 8. 7)
○ データ解説 平成7年度マイホーム新築資金利用者調査報告 平成7年度マンション購入資金利用者調査報告	56	(H 8. 7)
○ 沖縄の養蜂	57	(H 8. 8)
○ 平成7・8年度設備投資計画調査報告(平成8年9月調査)	58	(H 8. 12)
○ 県内レンタカー業の現状 ―大規模な規制緩和のもと、更なる発展が見込まれる県内レンタカー業―	59	(H 9. 1)
○ 県内貸ビル業の現状 ―空室率が高い沖縄の貸ビル―	60	(H 9. 2)
○ マイホーム新築資金住宅の建設実態	61	(H 9. 3)
○ 車エビ養殖業の現状と課題 ―全国一の生産県となるも市況悪化への対応が迫られる車エビ養殖業界―	62	(H 9. 4)
○ 台湾の中小企業とOEM	63	(H 9. 5)
○ 平成8・9年度設備投資計画調査報告(平成9年3月調査)	64	(H 9. 6)
○ データ解説 平成8年度マイホーム新築資金利用者調査報告 平成8年度マンション購入資金利用者調査報告	65	(H 9. 10)
○ 公庫住宅資金利用者に係る耐久消費財等購入実態調査	66	(H 9. 10)
○ 平成8・9年度設備投資計画調査報告(平成9年9月調査)	67	(H 9. 12)
○ 廃棄物リサイクル産業の現状と課題	68	(H 10. 6)
○ 平成9・10年度設備投資計画調査報告(平成10年3月調査)	69	(H 10. 6)
○ 沖縄の産業振興とマルチメディア	70	(H 10. 7)
○ データ解説 平成9年度マイホーム新築資金利用者調査報告 平成9年度マンション購入資金利用者調査報告	71	(H 10. 10)
○ 平成9・10年度設備投資計画調査報告(平成10年9月調査)	72	(H 10. 12)
○ 平成9年度ホテル経営状況	73	(H 10. 12)
○ ダイビング業界の現状と課題	74	(H 11. 3)
○ 平成10・11年度設備投資計画調査報告(平成11年3月調査)	75	(H 11. 8)
○ 平成10・11年度設備投資計画調査報告(平成11年9月調査)	76	(H 11. 12)
○ 平成10年度ホテル経営状況	77	(H 12. 2)
○ 新規開業の現状と創業支援	78	(H 12. 5)
○ 沖縄観光の構造転換に向けた整備課題 ―ハワイを比較軸として―	79	(H 12. 7)
○ 1999・2000年度設備投資計画調査報告(2000年3月調査)	80	(H 12. 8)
○ 1999・2000年度設備投資計画調査報告(2000年9月調査)	81	(H 12. 12)
○ データ解説 平成11年度マイホーム新築資金利用者調査報告 平成11年度マンション購入資金利用者調査報告	82	(H 13. 1)
○ 台湾アグロインダストリー調査報告	83	(H 13. 3)
○ 1999年度ホテル経営状況	84	(H 13. 3)

○ 2000・2001年度設備投資計画調査報告(2001年3月調査)	85	(H 13. 5)
○ 地方都市の水産物市場と水産業の振興 ―自由な市場と消費の拡大―	86	(H 13. 7)
○ 2000・2001年度設備投資計画調査報告(2001年9月調査)	87	(H 13. 12)
○ マンションの維持管理に関する調査報告	88	(H 14. 1)
○ 台湾情報通信産業調査報告	89	(H 14. 2)
○ 2000年度ホテル経営状況	90	(H 14. 3)
○ 県内ホテルの経営課題と改善に向けた方向性	90	(H 14. 3)
○ 2001・2002年度設備投資計画調査報告(2002年3月調査)	91	(H 14. 6)
○ データ解説 平成13年度マイホーム新築資金利用者調査報告 平成13年度マンション購入資金利用者調査報告	92	(H 14. 11)
○ 2001・2002年度設備投資計画調査報告(2002年9月調査)	93	(H 14. 12)
○ 2001年度ホテル経営状況	94	(H 15. 7)
○ 2002・2003年度設備投資計画調査報告(2003年3月調査)	95	(H 15. 8)
○ 2002・2003年度設備投資計画調査報告(2003年9月調査)	96	(H 16. 1)
○ 2003・2004年度設備投資計画調査報告(2004年3月調査)	97	(H 16. 6)
○ データ解説 平成14年度マイホーム新築資金利用者調査報告 平成14年度マンション購入資金利用者調査報告	98	(H 16. 7)
○ 2002年度ホテル経営状況	99	(H 16. 8)
○ 2003・2004年度設備投資計画調査報告(2004年9月調査)	100	(H 16. 11)
○ 2004・2005年度設備投資計画調査報告(2005年3月調査)	101	(H 17. 6)
○ 2004・2005年度設備投資計画調査報告(2005年9月調査)	102	(H 17. 11)
○ 2005・2006年度設備投資計画調査報告(2006年3月調査)	103	(H 18. 9)
○ 泡盛業界の現状と課題 ―最近の泡盛・もろみ酢の動向を中心に―	104	(H 18. 10)
○ 2005・2006年度設備投資計画調査報告(2006年9月調査)	105	(H 18. 12)
○ 2006・2007年度設備投資計画調査報告(2007年3月調査)	106	(H 19. 9)
○ 2006・2007年度設備投資計画調査報告(2007年9月調査)	107	(H 19. 11)
○ バイオエタノールの現状 ―JETRO・ブラジルバイオエタノールミッション報告―	108	(H 20. 3)
○ 2007・2008年度設備投資計画調査報告(2008年3月調査)	109	(H 20. 6)
○ 沖縄公庫取引先からみた新規開業の現状	110	(H 20. 7)
○ 2007・2008年度設備投資計画調査報告(2008年9月調査)	111	(H 20. 11)
○ 2007年度県内主要ホテルの稼働状況	112	(H 20. 12)
○ 2008・2009年度設備投資計画調査報告(2009年3月調査)	113	(H 21. 6)
○ 2008・2009年度設備投資計画調査報告(2009年9月調査)	114	(H 21. 12)
○ 沖縄県内ホテルのホスピタリティ向上への取り組み状況 2008年度県内主要ホテルの稼働状況	115	(H 22. 3)
○ 2009・2010年度設備投資計画調査報告(2010年3月調査)	116	(H 22. 6)
○ 2009年度県内主要ホテルの稼働状況	117	(H 22. 7)
○ 沖縄公庫取引先からみた新規開業の現状2010	118	(H 22. 9)
○ 2009・2010年度設備投資計画調査報告(2010年9月調査)	119	(H 22. 11)
○ 沖縄県内の「道の駅」と「農産物直売所」	120	(H 23. 4)
○ 2010・2011年度設備投資計画調査報告(2011年3月調査)	121	(H 23. 6)
○ 2010年度県内主要ホテルの稼働状況 東日本大震災による県内主要ホテルへの影響	122	(H 23. 7)
○ 2010・2011年度設備投資計画調査報告(2011年9月調査)	123	(H 23. 11)
○ 平成22年度 沖縄公庫教育資金利用者調査報告	124	(H 24. 4)

○ 2011・2012年度設備投資計画調査報告(2012年3月調査)	125 (H 24. 6)
○ 2011年度県内主要ホテルの稼働状況 八重山主要ホテルの稼働状況	126 (H 24. 10)
○ 2011・2012年度設備投資計画調査報告(2012年9月調査)	127 (H 24. 11)
○ 沖縄:新たな挑戦 経済のグローバル化と地域の繁栄 世界の目を沖縄へ、沖縄の心を世界へ	128 (H 25. 2)
○ OKINAWA: THE CHALLENGES AHEAD THRIVING LOCALLY IN A GLOBALIZED ECONOMY "AS THE EYES OF THE WORLD FOCUS ON OKINAWA OKINAWA OFFERS ITS HEART TO THE WORLD"	129 (H 25. 2)
○ 2012・2013年度設備投資計画調査報告(2013年3月調査)	130 (H 25. 6)
○ 2012年度県内主要ホテルの稼働状況	131 (H 25. 9)
○ 2012・2013年度設備投資計画調査報告(2013年9月調査)	132 (H 25. 12)
○ 平成24年度 沖縄公庫教育資金利用者調査報告	133 (H 26. 5)
○ 2013・2014年度設備投資計画調査報告(2014年3月調査)	134 (H 26. 6)
○ 世界自然遺産登録を活かした奄美・琉球の地域活性化策 (やんばる地域・西表島編)～持続可能な地域づくりに向けて～	135 (H 26. 6)
○ 県内主要ホテルの動向分析 第一部 2013年度県内主要ホテルの稼働状況 第二部 シティホテルの長期稼働状況からみた今後の取組 第三部 県内の宿泊特化型ホテルの動向分析	136 (H 26. 10)
○ 2013・2014年度設備投資計画調査報告(2014年9月調査)	137 (H 26. 11)
○ 「人手不足の影響と人材確保の取組」に関する調査報告	138 (H 27. 4)
○ 「沖縄の6次産業化認定企業の現況と今後の取組」に関する調査報告	139 (H 27. 5)
○ 2014・2015年度設備投資計画調査報告(2015年3月調査)	140 (H 27. 6)
○ 沖縄公庫取引先からみた新規開業の現状2015	141 (H 27. 10)
○ 県内主要ホテルの動向分析 第一部 2014年度県内主要ホテルの稼働状況 第二部 新石垣空港開港に伴う八重山地域主要ホテルの稼働状況	142 (H 27. 11)
○ 2014・2015年度設備投資計画調査報告(2015年9月調査)	143 (H 27. 11)
○ 平成26年度 沖縄公庫教育資金利用者調査報告	144 (H 28. 3)
○ 「インバウンドの影響とその取組」に関する調査報告	145 (H 28. 3)
○ 2015・2016年度設備投資計画調査報告(2016年3月調査)	146 (H 28. 6)
○ 2015・2016年度設備投資計画調査報告(2016年9月調査)	147 (H 28. 11)
○ 県内主要ホテルの動向分析 第一部 2015年度県内主要ホテルの稼働状況 第二部 沖縄県内主要ホテルの人手不足に関する調査報告	148 (H 28. 12)
○ 「沖縄における若年雇用問題ーミスマッチを生む意識構造の分析を中心にー」 に関する調査報告	149 (H 29. 2)
○ 定住・交流人口の維持・増加に向けた考察 第一部 沖縄への移住意向に関する調査報告 第二部 沖縄の離島観光に関する意識調査報告	150 (H 29. 5)
○ 2016・2017年度設備投資計画調査報告(2017年3月調査)	151 (H 29. 5)
○ 県内主要ホテルの動向分析 第一部 2016年度県内主要ホテルの稼働状況 第二部 リーマンショック直前からの長期推移	152 (H 29. 10)
○ 2016・2017年度設備投資計画調査報告(2017年9月調査)	153 (H 29. 11)
○ 拡大する沖縄経済の下で深刻化する人手不足 ～県内企業への影響と課題への対応～	154 (H 30. 1)
○ 県内小規模企業実態調査報告	155 (H 30. 5)
○ 2017・2018年度設備投資計画調査報告(2018年3月調査)	156 (H 30. 6)
○ 教育資金と進学意識に関する調査結果 第一部 平成28年度 沖縄公庫教育資金利用者調査 第二部 進学に対する親と学生の意識調査	157 (H 30. 6)
○ 沖縄公庫取引先からみた泡盛メーカーの現状と課題について	158 (H 30. 7)

○ 2017・2018年度設備投資計画調査報告(2018年9月調査)	159	(H 30. 11)
○ 県内主要ホテルの動向分析	160	(H 31. 3)
第一部 2017年度県内主要ホテルの稼働状況		
第二部 県内主要ホテルの改装動向		
○ 2018・2019年度設備投資計画調査報告(2019年3月調査)	161	(R 1. 6)
○ 2018・2019年度設備投資計画調査報告(2019年9月調査)	162	(R 1. 11)
○ 2018年度県内主要ホテルの稼働状況	163	(R 1. 12)
○ 平成30年度 沖縄公庫教育資金利用者調査	164	(R 2. 3)
○ 2019・2020年度設備投資計画調査報告(2020年3月調査)	165	(R 2. 6)
○ 2019・2020年度設備投資計画調査報告(2020年9月調査)	166	(R 2.12)
○ 沖縄県内の物流需給バランスの現状と将来推計について	167	(R 3. 3)
○ 沖縄公庫取引先の事業承継に関する実態調査	168	(R 3. 3)
○ 2019年度県内主要ホテルの稼働状況	169	(R 3. 6)
○ コロナ禍における自治体経営の状況と今後の展望	170	(R 3. 6)
○ 「コロナ禍における旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項」に関する調査	171	(R 3. 6)
第一部 「コロナ禍における日本人旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項」に関する調査報告		
第二部 「コロナ禍における訪日外国人旅行者の意向と沖縄が取り組むべき事項」～DBJ・JTBFアジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査(2020年度 新型コロナ影響度 特別調査)より～		
○ 2020・2021年度設備投資計画調査報告(2021年3月調査)	172	(R 3. 6)
○ 2020・2021年度設備投資計画調査報告(2021年9月調査)	173	(R 3. 10)
○ 2020年度県内主要ホテルの稼働状況	174	(R 3. 11)
○ 新型コロナウイルス感染症の県内景況に及ぼす影響について	175	(R 4. 2)
○ 令和2年度 沖縄公庫教育資金利用者調査報告	176	(R 4. 3)
第一部 令和2年度 沖縄公庫教育資金利用者調査		
第二部 令和2年度 沖縄公庫教育資金利用者意識調査		
○ ポストコロナ時代に向けた自治体経営の状況と今後の展望	177	(R 4. 5)
○ コロナ禍における日本人・訪日外国人の沖縄旅行に関する調査	178	(R 4. 5)
第一部 コロナ禍における日本人の沖縄旅行に関する調査(2021年版)		
第二部 コロナ禍における訪日外国人旅行者の意向調査【沖縄版】～DBJ・JTBFアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査(第2回 新型コロナ影響度 特別調査)より～		
○ 「ポストコロナ時代における沖縄観光のあり方」に関する調査～これからの“旅行牽引世代”の意向を踏まえた観光(観光地)とは～	179	(R 4. 6)
○ 2021・2022年度設備投資計画調査報告(2022年3月調査)	180	(R 4. 6)
○ 2021・2022年度設備投資計画調査報告(2022年9月調査)	181	(R 4. 11)
○ 2021年度県内主要ホテルの稼働状況	182	(R 5. 1)
○ ポストコロナ時代における沖縄観光の二次交通に関する調査～レンタカーを利用しない観光客のニーズから考える移動手段～	183	(R 5. 6)
○ コロナ禍からの再始動に向けた日本人・訪日外国人の沖縄旅行に関する調査	184	(R 5. 6)
第一部 コロナ禍における日本人の沖縄旅行に関する調査(2022年度版)		
第二部 訪日外国人旅行者のサステナブルツーリズムへの意向と沖縄観光について		
○ 県内都市公園の現況と課題に関する調査	185	(R 5. 6)
○ 2022・2023年度 設備投資計画調査報告(2023年3月調査)	186	(R 5. 6)
○ 沖縄振興計画に沖縄公庫が果たしてきた役割～政策金融にみる20年間(平成14～令和3年度)の沖縄振興～	187	(R5.7)
○ 2022年度県内主要ホテルの稼働状況	188	(R5.10)
第一部 2022年度県内主要ホテルの稼働状況		
第二部 (寄稿) 人手不足が県内宿泊施設の稼働に与える影響の試算		
○ 2022・2023年度 設備投資計画調査報告(2023年9月調査)	189	(R5.11)
○ 日本人・訪日客の沖縄旅行に関する調査(2023年版)	190	(R6.6)
第一部 日本人の沖縄旅行に関する調査		
第二部 訪日客の沖縄旅行に関する調査		
○ サステナブルツーリズムの実現に向けた日本人観光客の意向調査	191	(R6. 6)
○ 「住宅確保に関する現状と課題」に関する調査	192	(R6. 6)

○ 2023・2024年度 設備投資計画調査報告(2024年3月調査)	193	(R6. 6)
○ 2023・2024年度 設備投資計画調査報告(2024年9月調査)	194	(R6. 11)
○ 2023年度県内主要ホテルの稼働状況	195	(R6. 12)
○ 統計資料でみる沖縄県内物流の現状	196	(R7. 2)
○ 教育資金と県民の大学等進学への課題に関する調査報告	197	(R7. 3)
○ 沖縄におけるソーシャルビジネスの現況	198	(R7. 5)
○ 沖縄本島内における陸上交通の現状と課題	199	(R7. 6)
○ 日本人・訪日客の沖縄旅行に関する調査(2024年版)	200	(R7. 6)
第一部 日本人の沖縄旅行に関する調査		
第二部 訪日客の沖縄旅行に関する調査		
○ 2024・2025年度 設備投資計画調査報告(2025年3月調査)	201	(R7. 6)
○ 2024年度県内主要ホテルの稼働状況	202	(R7. 12)
○ 2024・2025年度 設備投資計画調査報告(2025年9月調査)	203	(R7. 12)
○ 沖縄本島の地域に適した地域交通のリ・デザイン	204	(R8. 6)
○ -人口減少時代における沖縄観光のあり方・供給編-	205	(R8. 6)
沖縄観光関連産業の人財確保を考える		
○ -人口減少時代における沖縄観光のあり方-		
第一部 需要編～Z世代が観光地に求める経験価値とは～	206	(R8. 6)
第二部 沖縄旅行者の「旅先でのスポットワーク」の可能性について		

公 庫 レ ポ ー ト

令和 8 年 6 月 発行

編集兼発行者 小川 大和

発 行 所 沖縄振興開発金融公庫

調査部 地域連携情報室

那覇市おもろまち 1 丁目 2 番 26 号

電話 (098) 941-1853

FAX (098) 941-1920

URL <https://www.okinawakouko.go.jp>

印 刷 所 株式会社 尚生堂

本レポートは再生紙を使用しています。



沖縄振興開発金融公庫

THE OKINAWA DEVELOPMENT FINANCE CORPORATION